

普通免許狀

族籍

姓名

何年何月生

右ハ小學校(何科)教員タルコトヲ免許ス

明治何年何月何日

文部大臣位勳爵姓名印

番號

○文部省令第十三號

文部省令第十二號小學校教員免許規則發令前ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ハ従前ノ通有效ノモノトス

但小學初等科免許狀ヲ有スルモノハ小學簡易科小學中等科免許狀ヲ有スルモノハ尋常小學科以下小學高等科免許狀ヲ有スルモノハ高等小學科以下ノ教員タルコトヲ得

明治十九年六月二十一日

文部大臣 森 有禮

○文部省令第十四號

勅令第十五號中學校令第七條ニ基キ尋常中學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ

文部大臣 森 有禮

第一條 尋常中學校ノ學科ハ倫理國語漢文第一外國語第二外國語農業地理歴史數學博物物理化學

尋常中學校ノ學科及其程度

習字圖書唱歌及體操トス第一外國語ハ通常英語トシ第二外國語ハ通常獨語若クハ佛語トス但第一外國語ト農業トハ其一ヲ缺クコトヲ得又唱歌ハ當分之ヲ缺クモ妨ケナシ

第二條 尋常中學校ノ修業年限ハ五箇年トス

第三條 尋常中學校ニ於テハ五級ヲ設ケ每級ノ授業期限ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スルモノトス

第四條 尋常中學校ノ各學科授業ノ時數凡左ノ如シ

										第一	第二	第三	第四	第五
倫	理	國語及漢文	第一外國語	第二外國語	地	理	歷	史	數	博	物	化	學	習
一	一	五	六	六	一	一	一	一	四	一	一	一	一	二
一	一	五	六	七	二	二	二	二	四	二	二	二	二	一
一	一	三	五	五	一	一	一	一	四	一	一	二	二	一
一	一	二	五	五	一	一	二	二	三	三	三	三	三	二

第二外國語ト農業トヲ並ヘ置クトキハ其一ヲ生徒ニ課スルモノトス

第五條 尋常中學校ノ各學科ノ程度左ノ如シ

倫理

人倫道德ノ要旨

國語及漢文

漢字交リ文及漢文ノ講讀書取作文

第一外國語

讀方譯解講讀書取會話文法作文翻譯

第二外國語

讀方譯解書取會話作文

農業

農業初步及實業

地理

地文及政治地理

歷史

圖	書	二	二	二	二	三	一
唱	歌	二	二				
體	操	三	三	三	五		五
計		二八	二八	二八	二八	二八	二八

日本及外國ノ歴史

數學

算術 比例及利息算

諸則ノ理由

代數 釋義整數四則分數一次方程式自乘開平開立指數根數二次方程式準二次方程式比例等差

級數等比級數調和級數順列組合二項法對數

幾何 定義公理直線直線形面積平面立體角角錐角球圓錐圓球

三角法 角度三角法比對數表用法三角形距離等ノ測法球面三角

博物

通常ノ動植礦物ノ示效

植物

觀察解析記述分類大意及植物ノ生活上緊要ナル現象

動物

觀察記述分類大意諸部類ノ相互及外物ノ關係

人體ノ生理及衛生

物理

物理上ノ緊要ナル現象及定律

化學

普通ノ化學上ノ現象緊要ナル元素及無機化合物ノ性質

習字

楷行草三體ノ書寫及細字ノ速寫

圖書

自在書法及用器書法

唱歌

單音及複音唱歌

體操

普通及兵式體操

第六條 尋常中學校ノ第五級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行端正身體健康年齡滿十二年以上ニシテ中學豫備ノ小學校又ハ其他ノ學校ニ於テ該級ノ課程ヲ修ムルニ堪フヘキ學力ヲ得タルモノトス。其他ノ級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ前項ノ例ヨリ推シテ相當ノ年齡ニ達シ其課程ヲ修メ得ヘキ學力ヲ有シ且品行端正身體健康ナルモノトス。

第七條 尋常中學校ニ於テハ土地ノ情況ニ因リ文部大臣ノ認可ヲ經テ商業工業ノ科ヲ設クコトヲ得

○遞信省令第十六號

三等郵便局長手當金年額左表ノ通之ヲ定ム

明治十九年六月二十二日

遞信大臣板本武揚

三等郵便局長手當金額

官	等	七等以上	八	等	九	等	十	等
上	級	四百圓以下 七拾圓以上	四拾八圓	貳拾四圓	拾	貳圓	圓	

下	級	六拾圓	三拾六圓	拾	八	圓	九圓六拾錢
---	---	-----	------	---	---	---	-------

○海軍省令第五十四號

明治十八年^{十二}月^{十二}日 丙第七十五號 運用術練習艦條例左ノ通改定ス

海軍一般

明治十九年六月二十三日

海軍大臣伯爵西鄉從道

運用術練習艦條例

第一章 職制

第一條 運用術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ兵曹ト爲ス可キ水兵ニ運用術及普通學業ヲ教授スル所トス

第二條 艦長ハ鎮守府軍港司令官ノ指揮ヲ承ケ艦務ヲ總理ス

第三條 艦長ハ教務上ノ得失ヲ考察シ且常ニ運用術ノ進歩ニ注目シ意見アルトキハ之ヲ軍港司令官ニ具申スルコトヲ得

第四條 艦長ハ大試験成績表及品行表ヲ製シ軍港司令官ニ出シ又運用術及普通學業成績簿ヲ作り卒業者ノ成績ヲシテ明瞭ナラシム可シ

第五條 艦長ハ運用術及普通學業卒業者ノ優劣ヲ定メ其等級ヲ分チ卒業證書ヲ授與ス

第六條 副長ハ艦長ヲ輔佐シ艦務ヲ整理ス

第七條 教官ハ運用術及普通學業教授試験ノ事ヲ掌理シ常ニ練習員ノ勸怠及行狀ヲ監督シ勉メテ

兵曹トナル可キ志操ヲ養成スルヲ任トス

第八條 教官ハ教務上ニ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ具申スルコトヲ得

第九條 助教官ハ教官ヲ補助シ運用術教授ニ從事シ又分隊長ニ屬シ分隊ニ關スル事務ヲ掌ル

第十條 運用術教員ハ運用術ノ教授ニ從事ス

第十一條 艦内教授役及教授役介ハ普通學業ノ教授ニ從事ス

第十二條 運用術練習艦定員中此條例ニ於テ其職務ヲ掲記セサル者ハ總テ軍艦職員條例ニ依ル

第二章 教則

第十三條 練習員ニ選拔スヘキ者ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

一 志操確實勇活強壯兵曹ト爲スヘキ目途アル者

二 三等以上ノ水兵

三 行狀二等以上ノ者

四 二箇年以上航海艦ニ乗組タル者

五 假名交リ文ヲ解シ及之ヲ作り得ル者

六 算術四則ヲ識リ得タル者

第十四條 所轄長ハ第十三條ノ諸項ニ適スル水兵ヲ選拔シ履歴ヲ添ヘ之ヲ其所管長官ニ具申シ所

管長官ハ取捨ヲ加ヘ横須賀鎮守府司令長官ニ移牒ス可シ

第十五條 横須賀鎮守府司令長官ハ選拔員ニ練習員ヲ命シ期日ヲ定メテ運用術練習艦ニ乗組マシ

ム可シ若シ選拔員ノ數練習員ノ定數ヨリ超過スル時ハ等級ノ上ナル者ヨリ順次之ヲ命ス可シ

第十六條 練習員ニ乗艦ヲ命スルノ期ハ毎年八月トス

第十七條 運用術練習艦教授ノ科目ハ運用術及普通學業ノ二科トス而シテ普通學業ヲ算術讀書及

作文ノ三科ニ分ツ

第十八條 學期ハ之ヲ四期ニ分チ一期ヲ三箇月トシ二期ヲ三箇月トシ三期ヲ三箇月トシ四期ヲ三箇月トシテ全科ヲ卒業セシム

第十九條 每學期ニ於テ教授スル科目ハ左ノ如シ

學期		第一 期		第二 期		第三 期	
普通	學業	普通	學業	普通	學業	普通	學業
算術 分數	讀書 軍人精神論	算術 比例	讀書 輿地誌略	算術 諸圖材及諸帆ノ更換	讀書 諸圖材及諸帆ノ更換	算術 諸等小數	讀書 日本外史
作文 律取	「トレストル、トリー」 「クローズ、トリー」 「トッパマス、トリー」 「ケツプ」並「ローア」 及「トツプスルヤート」上テ	「シールス」及「デリング」 ノ器具取付并建方 構ノ建方及其雜註方	「ゴースフット」 「建方」及「ガモニング」 ノ建方	「シールス」及「デリング」 ノ器具取付并建方 構ノ建方及其雜註方	「ゴースフット」 「建方」及「ガモニング」 ノ建方	「シールス」及「デリング」 ノ器具取付并建方 構ノ建方及其雜註方	「ゴースフット」 「建方」及「ガモニング」 ノ建方
算術 分數	讀書 軍人精神論	算術 比例	讀書 輿地誌略	算術 諸圖材及諸帆ノ更換	讀書 諸圖材及諸帆ノ更換	算術 諸等小數	讀書 日本外史
作文 律取	「トレストル、トリー」 「クローズ、トリー」 「トッパマス、トリー」 「ケツプ」並「ローア」 及「トツプスルヤート」上テ	「シールス」及「デリング」 ノ器具取付并建方 構ノ建方及其雜註方	「ゴースフット」 「建方」及「ガモニング」 ノ建方	「シールス」及「デリング」 ノ器具取付并建方 構ノ建方及其雜註方	「ゴースフット」 「建方」及「ガモニング」 ノ建方	「シールス」及「デリング」 ノ器具取付并建方 構ノ建方及其雜註方	「ゴースフット」 「建方」及「ガモニング」 ノ建方

考 備	第 四 期		
	學 業	普 通	運 用 術
艦内作業上注意ヲ要スル諸件暗察及鑛鑽ノ眼力重量揚方裝置法等ハ適宜問題ヲ設ケ各學期ニ分配教授シテ而シテ艦艇運用及季節適當ナル中ハ水泳ヲモ要スルモノトシテ 勳勳海軍教練式體則則海軍刑法等ハ適宜ノ時間ヲ以テ教授シ服膺セシム 作文ハ服役中有難ナル體則ノコトヲ學ハシムルモノトス	算術	開平、開立	鑛鑽、鑛鑽法并鑛鑽ノ解揚及鑛鑽ノ運搬法 艦風ノ暗察、風帆ノ展收、船及上手廻シ下手廻シノ注意 救助艇上下ノ機員注意 海上衝突豫防規則
	作文 記事文	習書 日本外史	

第二十條 每學期科目教授ヲ終ル毎ニ小試験ヲ行ヒ第四期小試験ヲ終ルノ後一週間ノ復習時間ヲ與ヘ大試験ヲ行フ而シテ大試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十一條 小試験ハ副長之ニ臨ミ分隊長之ヲ監シ掌帆長之ヲ行フ

第二十二條 大試験ハ艦長之ニ臨ミ副長之ヲ監シ分隊長之ヲ行フ

第二十三條 大試験ノ點數ハ各科點數十分ノ五以上ヲ得其點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ六以上ヲ得タル者ヲ及第トス

第二十四條 大試験成績ノ算法ハ其成績ト小試験成績トヲ比例シテ合算スルモノトス但小試験成績ヲ大試験ニ算入スルノ比例ハ大試験ト同一ノ効力トス

第二十五條 大試験ニ落第シタル者ハ二箇月間復習セシメ再試験ヲ行フコトヲ得

第二十六條 大試験若シハ其再試験ニ落第シタル者ハ之ヲ屯營ニ移ス但其得點十分ノ四以上ナル

者ハ尙水砲術及水雷術練習艦ニ轉乘セシムルコトヲ得

第二十七條 卒業者ニシテ運用術教員ト爲スヘキ者ハ所要人員ヲ限リ本艦ニ留メ其他ハ砲術練習艦若シハ水雷術練習艦ニ轉乘セシム

第二十八條 怠惰或ハ不行狀ニシテ前途ノ前途ナキ者ハ練習員ヲ免シ直チニ屯營ニ移ス

第二十九條 運用術教員ト爲スヘキ卒業者ニハ三箇月間左ノ科目ヲ教授ス

- 一 舵及帆ノ功用
- 二 拔錨出帆諸法
- 三 天候豫察
- 四 荒天豫備
- 五 颶風及其避方
- 六 掌帆長簿記方

第三十條 運用術教員ト爲スヘキ卒業者ニ第二十九條ノ科目ヲ教授スルノ後試験ヲ行ヒ及第者ニハ運用術教員適任證書ヲ授與ス但試験ニ於テ全點數ノ十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ及第トス

○文部省令第十五號

文部省令第十四號普通中學校ノ學科體操中兵式體操ノ備ハ其方法及細目ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

明治十九年六月二十四日

文部大臣 森 有禮

○内務省令第十號

日本藥局方別冊ノ通制定シ明治二十年七月一日ヨリ施行ス (別冊ハ末ニ載ス)

明治十九年六月二十五日

內務大臣 伯爵山縣有朋

○海軍省令第五十五號

海軍 一般

明治十八年^{十二} 丙第七十七號 遞信省令第十七號 遞信省令第十七號 第一條第二條ヲ刪除シ第九條左ノ通改定ス

明治十九年六月二十五日

海軍大臣 伯爵西鄉從道

第九條 運用術教員適任證書ヲ有スル者禁錮十一日以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ船長其證書ヲ沒收シ運用術練習艦ニ返付ス可シ

○遞信省令第十七號

遞信大臣 榎本武揚

明治十八年九月 遞信省令廣告小爲替規定第二項左ノ通改定シ本年七月一日ヨリ施行ス

明治十九年六月二十五日

一小爲替料ハ小爲替證書一枚ニ付三錢トス

○內務省令第十一號

警視廳 府縣 集治監 假留監

警察官吏司獄官吏神官及等外吏雇員其他內國旅費概則左ノ通相定ス

但來七月一日ヨリ施行スヘシ

明治十九年六月二十六日

內務大臣 伯爵山縣有朋

警察官吏其他內國旅費概則

第一條 警視廳警部長警部警部補ノ旅費ハ閣令第十四號內國旅費規則ニ據リ支給スヘシ但警部長ハ四等旅費府縣ノ警部月俸四拾圓以上ハ五等旅費月俸四拾圓未滿及警部補ハ六等旅費ヲ支給スルモノトス

第二條 警視廳及警部警部補ノ持区内ヲ巡迴スルトキハ旅費ヲ給セス一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

警視日當 金壹圓貳拾錢

警部日當 金八拾錢

第一項 十二里以上ノ巡迴ハ其日當ニ應シ日當ヲ支給スヘシ

第二項 六里以上十二里未滿ノ巡迴ハ其日當ニ應シ日當半額ヲ支給スヘシ

第三項 六里以上ニ涉ル巡迴中滞在スルトキハ其滞在ノ日數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第四項 六里未滿ノ巡迴ハ日當ヲ給セス但宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第五項 官有ノ舟車馬及各官廳ニ於テ借入借入タル舟車馬等ニテ派出シ又ハ特ニ舟車馬等ノ實費拂ヲ許可シタルトキハ日當ニ應シ日當ノ半額ヲ支給スヘシ但里程六里未滿ノトキハ第四項ニ依ル

第六項 水上警察署ノ区内ハ里數ニ拘ハラズ一泊毎ニ日當ノ半額ヲ支給スヘシ

第三條 巡查ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

第一項 巡查ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第二項 召募旅費及免職歸國旅費^{給助例施行ノ期迄}ハ一里毎ニ金五錢ヲ支給スヘシ但里程三里未滿ハ給與セス

第三項 免職歸國旅費ハ奉職期限ニ至ラサル者ニハ支給セスト雖モ職務上重傷ヲ受ケ又ハ官

ノ都合ニヨリ免職スルモノハ支給スヘシ

第四項 職務上ニ死シ及奉職中病死スル者ハ奉職期限ニ拘ハラズ歸國旅費ノ額ヲ手當トシテ

支給スヘシ

第四條 巡查持區内ヲ巡迴スルトキハ旅費ヲ給セム一切ノ費用トシテ日當ヲ支給スヘシ但其給與方ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

巡查日當 金三十拾錢

- 第一項 巡迴中宿泊スルトキハ其泊敷ニ應ジ日當ヲ支給スヘシ
- 第二項 至急ノ派出ヲ要シ特ニ舟車馬ノ備入ヲ許可シタルトキハ該實費ヲ支拂ヘシ但此場合ニ於テモ日當ハ前項ニ依ル

第五條 集治監及假留監典獄副典獄書記看守長御用掛ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 第一項 典獄ハ開令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費副典獄ハ同五等旅費ヲ支給スヘシ
- 第二項 書記看守長判任御用掛ハ月俸四拾圓以上ハ開令第十四號内國旅費規則ノ五等旅費月俸四拾圓未満ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第六條 官社神官ノ旅費祭主ハ開令第十四號内國旅費規則ノ三等旅費宮司權宮司ハ同五等旅費禰宜主典宮掌ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ

第七條 看守等外吏等外御用掛雇員等ノ旅費ハ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 第一項 看守等外吏等外御用掛及雇員ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ
- 第二項 看守ノ召募旅費及免職歸國旅費ハ第三條ノ第二項第三項第四項ニ依ルヘシ
- 第三項 押丁給仕小使職工等ハ乙號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ
- 第四項 華族及從六位勳六等以上ノ士民ヲ公務ニテ旅行セシムルトキハ開令第十四號内國旅費規則ノ四等旅費其他有位帶勳ノ士民同上ノ節ハ同六等旅費ヲ支給スヘシ
- 第五項 一般ノ人民同上ノ節ハ甲號表面ノ旅費ヲ支給スヘシ

第八條 支給ノ方法ハ第二條及第三條ノ第二項第三項第四項第四條及第七條ノ第二項ヲ除クノ外

總テ開令第十四號内國旅費規則ニ依ルヘシ

第九條 地方ノ情況ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

甲號表

汽	車	費	汽	船	費	管外車馬費	管内車馬費	管外口當	管内口當
一	回	毎	一	海	里	毎	一	里	毎
金	五	錢	金	五	錢	金	七	錢	金
五	錢	金	五	錢	金	七	錢	金	五
五	錢	金	五	錢	金	七	錢	金	五
五	錢	金	五	錢	金	七	錢	金	五

乙號表

汽	車	費	汽	船	費	陸	路	雜	費	口
一	回	毎	一	海	里	毎	一	里	毎	一
金	三	錢	金	三	錢	金	四	錢	金	三
三	錢	金	三	錢	金	四	錢	金	三	
三	錢	金	三	錢	金	四	錢	金	三	
三	錢	金	三	錢	金	四	錢	金	三	

○司法省令丙第七號

明治十三年五月當省丙第八號總代理人取扱手續第七條中及以下ノ十四字ヲ刪除ス

明治十九年六月二十六日

司法大臣伯耆山田顯義

○陸軍省令甲第二十九號

一年志願兵取扱規則左ノ通定ム

明治十九年六月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一年志願兵取扱規則

- 第一條 此規則ハ徵兵令第十一條ニ依リ一箇年間陸軍現役ニ服スル志願兵ノ取扱方ヲ示スモノトス
- 第二條 志願兵ハ鎮守府屯在ノ歩兵隊ニ編入シ歩兵ニ在テハ服役中該隊ニ於テ教育ヲ爲サレメ看

護卒ニ在テハ徵兵看護卒取扱手續第七條ノ第一教科ノミヲ該隊ニ於テ教習セシム

第三條 志願兵編入ノ法ハ教育上ノ都合ニ由リ悉皆一聯隊ニ編入シ或ハ其人員ヲ分チ各聯隊ニ編入ス可シ

第四條 志願兵取扱ハ步兵ニ在テハ入營後概ネ二箇月間ハ他ノ生兵ト同一ニシテ其後ハ修業兵ニ準シ看護卒ニ在テハ概ネ徵兵看護卒取扱手續ニ據ルモノトス

第五條 步兵志願者教育ハ概ネ修業兵ニ準スト雖モ其進歩ノ程度ニ從ヒ適宜ノ學術ヲ教授ス可シ

第六條 看護卒志願者教育ハ徵兵看護卒ト共ニ之ヲ爲サシメ而シテ徵兵看護卒取扱手續第七條ノ第一教科ヲ卒レハ之ヲ鎮臺病院ニ附屬セシメ同條第二第三教科ヲ教習スルノ後其進歩ノ程度ニ從ヒ適宜ノ學術ヲ教授ス可シ

第七條 學術進歩ノ程度ニ從ヒ徵兵令第十一條第二項ニ據リ一箇年未滿ニシテ歸休ヲ命スヘキ者アルトキハ步兵ハ聯隊長之ヲ檢査シ旅團長ニ看護卒ハ軍醫長之ヲ檢査シ鎮臺司令官ニ且申シ許可ヲ受ク可シ

第八條 志願兵中品行方正勤務勉勵ニシテ技藝ニ熟達シ下士ノ任ニ堪ユ可キ者ハ滿期若クハ歸休ヲ命スルノ際步兵ハ聯隊長看護卒ハ軍醫長下士適任證書ヲ附與ス可シ又教育上拔群ノ結果ヲ得タルモノハ聯隊長又ハ軍醫長ヨリ旅團長又ハ鎮臺司令官ニ具狀シ許可ヲ得テ士官適任證書ヲ附與ス可シ

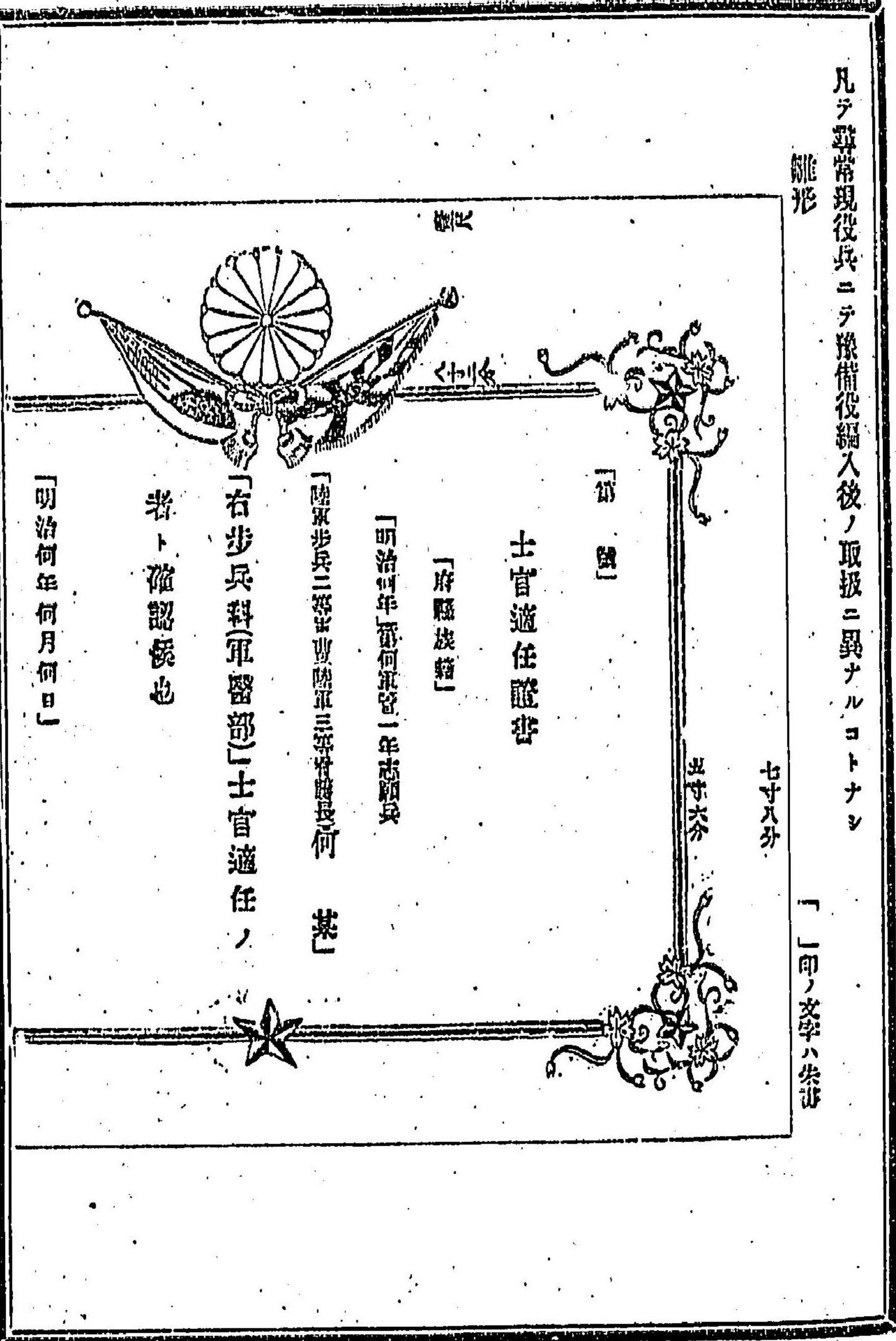
但士官適任證書ハ鎮臺司令官陸軍大臣ノ許可ヲ得テ豫備役下士ニ任スルノ後之ヲ附與スルモノトス

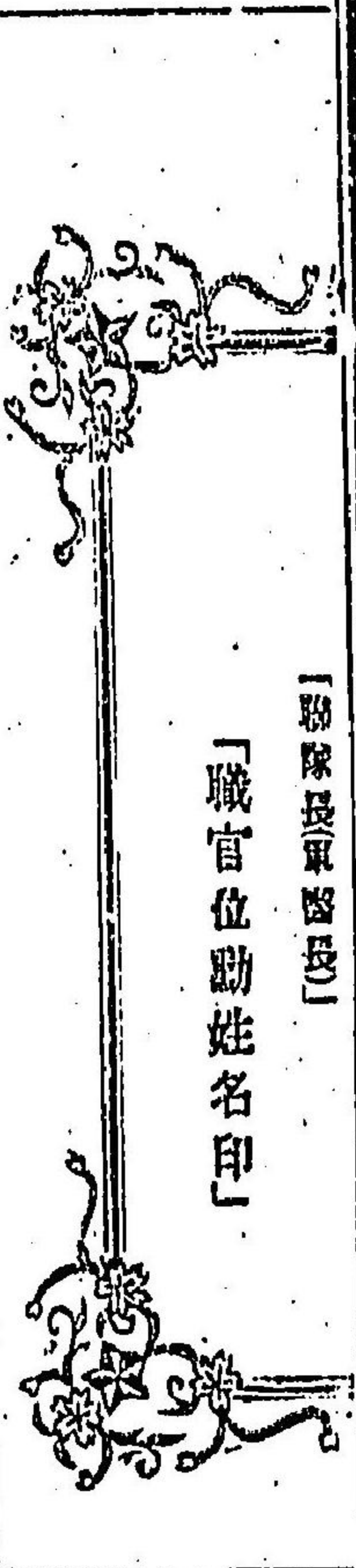
第九條 軍醫部士官適任證書ヲ附與スル者ハ官立及ヒ公立醫學校卒業證書又ハ醫術開業免狀ヲ所持スルモノニ限ル

第十條 志願兵現役滿期豫備役ニ編入ノ手續ハ尋常現役兵滿期ノ例ニ準ヌ可シ又豫備役編入後ハ

凡テ尋常現役兵ニテ豫備役編入後ノ取扱ニ異ナルコトナシ

「印ノ文字ハ朱印」





「聯隊長(軍醫長)」

「職官位勳姓名印」

形状

證書ハ所管ノ部ニ於テ鋼製シ料紙ハ烏ノ子紙ノ類ヲ用ヒ上木ノ箇
朱印ノ文字ヲ省キ置附與ノ時之ヲ加書ス可シ

七寸八分

上寸六分

「第 號」

下士適任證書

「府縣族籍」

「明治何年 派何軍管 一年志願兵」

「步兵(騎 砲 卒) 何 某」

「右歩兵科(軍醫部)下士適任」



者ト確認候也

「明治何年何月何日」

「聯隊長(軍醫長)」

「職官位勳姓名印」



證書ハ所管ノ部ニ於テ鋼製シ料紙ハ烏ノ子紙ノ類ヲ用ヒ上木ノ箇
朱印ノ文字ヲ省キ置附與ノ時之ヲ加書ス可シ

○陸軍省令乙第九十三號

一年志願兵取扱規則別冊ノ通定 (別冊ハ甲第二十九號ニ同シ)

明治十九年六月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

海軍 一般

○海軍省令第五十六號

砲術練習艦條例左ノ通定

海軍大臣伯爵西郷從道

砲術練習艦條例

第一章 職制

第一條 砲術練習艦ハ横須賀鎮守府ニ屬シ練習員ニ砲術ヲ教授スル所トス

明治十九年六月 省令 陸軍省乙第九十三號 海軍省第五十六號

- 第二條 艦長ハ鎮守府軍港司令官ノ指揮ヲ受ケ艦務ヲ總理ス
 - 第三條 艦長ハ常ニ教務上ノ得失ヲ考察シ又砲術ノ進歩ニ注目シ意見アルトキハ之ヲ軍港司令官ニ具申ス可シ
 - 第四條 艦長ハ卒業者ノ優劣ヲ定メ其等級ヲ分テ掌砲證書ヲ授與ス
 - 第五條 艦長ハ大試験成績表及品行表ヲ製シ軍港司令官ニ出シ又成績簿ヲ作り卒業ノ成績ヲシテ明瞭ナラシム可シ
 - 第六條 艦長ハ掌砲證書ヲ有スル兵曹長兵曹ノ配任ニ關シテハ其意見ヲ軍港司令官ニ開申ス可シ其卒ニ在テハ其所轄艦船艦長ニ通牒シ轉換セシムルコトヲ得
 - 第七條 艦長ハ掌砲證書ヲ有スル者ヲシテ短教程ヲ履行セシメ及教程ノ改正アリテ之ヲ演習セシムルトキハ他艦船艦長ニ通牒シ呼集スルコトヲ得
 - 第八條 副長ハ艦長ヲ輔佐シ艦務ヲ整理ス
 - 第九條 教官ハ砲術教授及試験ノ事ヲ掌理シ常ニ練習員ノ勤怠及行狀ヲ監督シ志操ヲ養成スルヲ任トス
 - 第十條 教官ハ教務上ニ意見アルトキハ之ヲ艦長ニ具申スルコトヲ得
 - 第十一條 助教官ハ教官ヲ補助シ砲術教授ニ從事シ又分隊長ニ屬シ分隊ニ關スル事務ヲ掌ル
 - 第十二條 砲術教授ハ砲術ノ教授ニ從事ス
 - 第十三條 艦内教授役及教授役介ハ算術ヲ教授ス
 - 第十四條 砲術練習艦定員中此條例ニ於テ其職務ヲ掲記セサル者ハ總テ軍艦職員條例ニ依ル
- 第二章 教則
- 第十五條 砲術練習員ハ左ニ記載ノ者タル可シ

- 一 尉官少尉補兵曹長ニシテ砲術練習ヲ命セラレ或ハ練習ノ許可ヲ得タル者
- 二 兵曹及三等以上ノ水兵運用術練習艦ノ卒業證書ヲ有シ行狀二等以上ノ者
- 三 掌砲證書ノ有効期限ヲ過キ再練習ヲ志願スル者
- 第十六條 志願者砲術練習艦ニ於テ教授ス可キ定數ニ超過スルトキハ等級ノ上ナル者ヨリ順次許可シテ同級ノ者ハ年長者ヨリ許可ス可シ
- 第十七條 砲術練習艦ノ教程ハ甲種長教程甲種短教程乙種長教程乙種短教程ノ四種トス
- 第十八條 甲種教程ハ尉官少尉補ヲシテ履行セシムルモノトス
- 甲種教程ハ別ニ定ム
- 第十九條 乙種長教程ハ掌砲兵ト爲ル可キ兵曹水兵ヲシテ履行セシムルモノトス
- 第二十條 乙種短教程ハ乙種長教程ヲ卒業シタル者ニシテ掌砲長或ハ砲術教授ト爲ス可キ兵曹及水兵ヲシテ履行セシメ又掌砲長砲術教授及掌砲兵ノ復習ニ之ヲ適用スルモノトス
- 第二十一條 乙種長教程ノ科目及其履行日數ハ左表ノ如シ但實地射撃ノ日數ハ算入セス

銃	隊	日數	科目
十五冊 榴盤側砲	三	十九或ハ十二	砲架部分及ヒ屬具ノ名稱、照尺照星仰角計度尺ノ用法、砲架閉鎖具、射擊機、野戰機、發射機、俯仰機、車取扱法、方位盤ノ大意
十七冊		十二或ハ十九	操砲程式、榴盤榴彈側砲操練
四輪 側砲		十二或ハ十九	砲架部分及ヒ屬具ノ名稱、四輪側砲操練
旋回砲		七	旋回砲操練

野砲	十	二	砲前車砲車部分及日屬兵各種砲隊操式第一編ノ操練
機砲	十	四	機砲及各種部分名稱機砲分解結合法保存法取扱注意
小銃	二	十	小銃射法教範小銃射擊
火具	二十	二	彈丸彈筒火藥藥筒小銃彈藥包空銃彈藥包機砲藥包 包火藥筒藥筒火藥筒藥筒丸藥筒火筒火筒火筒 火筒軍裝艇ノ用具夜中筒筒筒筒ノ取扱取扱并取扱法 等水底機機機機機ノ概説
終期復習大試験	十	六	
總計	百六十四		

備考
銃隊操式第三編第三部ノ演習ハ學科履行日數ノ外ニ六日以内ヲ以テ適宜ノ地ニ於テ實施スルモノトス
履中操練軍裝艇舟操練大隊操練砲隊操練ハ學科履行日數ノ外ニ適宜ノ日數ヲ以テ實施スルモノトス
柔狀機機ハ適宜ノ時間ヲ與ヘ之ヲ教授スルモノトス

第二十二條 乙種短教程ノ科目及其履行日數ハ左表ノ如シ但實地射擊ノ日數ハ算入セズ

教	科	日	數	教	科	目
銃	隊	十	五	長教程ニ同シ但シ第三編第三部ノ演習ハ適宜アルニテラサレハ別ニ之ヲ履行セズ		
十五	機盤側砲	十	五	或ハ五	長教程ニ同シ	
十七	機盤側砲	五	五	或ハ十		
四	輪側砲	五	五	或ハ十		
旋	回砲	四	四	同		
野	砲	六	六	同		

機砲	七	同	
船刀	七	同	
小銃	八	同	
火具	十	四	長教程ノ火具煩砲ニ方位標圖標據方架彈法度尺及照尺測度及ハ等而長筒記法ヲ加フ但シ軍砲兵復習ニハ之ヲ要セズ
數	六	十	代數初步航海表用法平三角
終期復習大試験	十	六	
總計	百五十七		

備考
復習者ニハ數學ヲ要セズ
軍砲兵復習ノ復習軍砲兵長或ハ砲術教授トナルヘキ者ヲ數フル操練ニ在テハ軍ニ教授ノ業ニ習熟セシムルヲ以テ目的トス

第二十三條 實地射擊演習ハ左表ニ據リ之ヲ施行ス可シ

砲	種	彈	種	發射數	場所	距離	記	事
六斤	野砲	砲	砂壘榴彈	三	動搖艇	四百乃至六百	短教程ニ於テハ此射彈ヲ行ハス	
十二斤	野砲	砲	同	二	附屬艦	千乃至千五百		
同	野砲	砲	炸藥榴彈	二	同	種	時限信管ヲ用ルハ各自ニ之ヲ裝著セシム	
九斤	野砲	砲	砂壘榴彈	二	大艇	五百乃至八百	短教程ニ於テハ之ヲ行ハス	
八四	野砲	砲	同	二	射的場	千乃至千五百		
四斤	野砲	砲	同	二	同	五百乃至八百		
一	野砲	砲	演習彈	十二	附屬艦	五百乃至千		

三十七條	同	同	同	同	同
小銃口徑十厘米	鉛彈	二十	同	同	同
馬	空包	百三十	射的場	百乃至八百	短射程ニ在テハ實包百發ノミ
小銃	實包	百五十	同	五十乃至七十五	
一審形	銃	十五	同	同	
十二厘米	砂填榴彈	三	附屬艦	千乃至三千	此外ニ各級ニ同シテ、集積射撃ヲ行ハシム
總計	大砲彈	十六			
	機砲彈	四十二			
	小銃彈	實包百三十二 空包百五十五			
	拳銃彈	十五			

備考 艦砲射撃ハ大砲六百磅ノ間隔ニ於テ標的三個ヲ一線或ハ三角形ニ海上ニ浮ヘ本艦ハ之ニ平行シ或ハ之ヲ旋回シテ全威力ニテ航進シ獨立打方ヲ行フモノトス
情號火筒發火、火災、救難火災、各三個ヲ各級ニ發火セシム

第二十四條 射撃ハ前表ニ掲グル外總テ常備艦砲射撃概則及小銃射法教範ニ據ルモノトス
第二十五條 試驗ヲ分テ二種トス

第一 小試驗

此試驗ハ一教科ノ終リニ之ヲ行フ

第二 大試驗

此試驗ハ全教科ノ終リニ之ヲ行フ

第二十六條 教科ヲ分テ甲乙ノ二種トス甲種ハ銃隊、機砲、火具、廢砲及教科中特ニ撰定スル他ノ一教科ニシテ大試驗及小試驗ヲ行フ乙種ハ四輪側砲、旋回砲、野砲、機砲、拳銃、拍刀、拍鎗及小銃射

法ニシテ小試驗ノヨリ行フ

第二十七條 大試驗ノ點數ハ左ノ二項ニ據リ算定スルモノトス

第一 甲種小試驗ノ失點ハ大試驗ノ失點ニ加算ス

第二 乙種小試驗ノ失點基數即チ五十以上ニ至レハ其超過セル點數ハ甲種小試驗ニ加算ス

第二十八條 大試驗ニ於テ及第ノ者ニハ左ノ諸項ニ據リ其成績ニ應シ堂砲證狀ヲ授與ス

第一 一等堂砲證狀

此證狀ハ合計失點五十以下ナル者ニ之ヲ授與ス

第二 二等堂砲證狀

此證狀ハ失點六十五以下ナル者ニ之ヲ授與ス

第二十九條 大試驗ニ於テ失點六十六以上ナル者ハ之ヲ落第トス

第三十條 大試驗ニ落第ノ者ハ若干日ノ復習ヲ爲サシメ再試驗ヲ行フコトヲ得而シテ之ニ及第ノ者ニハ二等堂砲證狀ヲ授與ス但再試驗ニ落第ノ者ハ復試驗ヲ施行セズ

第三十一條 艦砲射撃ニ於テ其得點最下ノ數ニ達セサルトキハ更ニ發射セシメ尙之ニ達セサレハ堂砲證狀ヲ授與セズ

第三十二條 砲術教授適任證書ハ兵曹或ハ一等水兵ニシテ一等堂砲證狀ヲ有シ後來砲術教授タル見込アル者ヲ選ミ更ニ短教程ヲ履行セシメ試驗合格シテ教授タルニ適任ノ者ニ之ヲ授與ス但一等水兵ニシテ適任證書ヲ有シタル者ハ三等兵曹ニ進級スルニ非サレハ砲術練習艦及各艦營ノ砲術教授ヲ命セサルモノトス

第三十三條 二等水兵ニシテ一等堂砲證狀ヲ受ケ後一等水兵ニ進級シタル者亦前條ニ同シ

第三十四條 兵曹及水兵ニシテ卒業ノ目途ナキ者ハ全教科ヲ終ラスト雖モ練習員ヲ免スルコトア

ル可シ

第三十五條 各艦乗組或ハ市警在勤ノ砲術教授轉退ノ際ハ該艦或ハ營長ヨリ其轉退並ニ勸怠ヲ砲術練習艦長ニ通報ス可シ

第三十六條 掌稔證狀ヲ有スル者ニシテ退艦退營シタルトキハ砲術練習艦員外乗組トス(第三十二條以下第三十六條ニ至ルノ五條ハ官報ニ取附ノ旨海軍大臣秘書官報告ニ因リ之ヲ加フ)

○遞信省令第十八號

私鑄燈標ノ燈費ハ海軍艦船及燈臺視察船ヨリ取立ルヲ得ス

明治十九年六月二十九日

遞信大臣板木武揚

○海軍省令第五十七號

嶺須賀鎮守府倉庫各地分庫ハ自今單ニ某地倉庫ト稱ス

明治十九年六月三十日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○內務省令第十二號

明治十九年五月省令乙第五十七號達ヲ廢ス

明治十九年七月一日

鵬府縣
內務大臣伯爵山縣有朋

(參照) 明治十九年五月內務省乙第五十七號達
府縣警察出張所敷地ノ價目今新ニ取置候節ハ出張所ハ百坪也所ハ五十坪以内ヲ目的ト致シ可成丈官有地ノ内ニテ選擇可致此旨相達候事

○陸軍省令乙第九十四號

本月十一日ヨリ九月十日迄諸官員暑中休暇ヲ賜リ候旨内閣ヨリ達相成候條陸軍部内諸官員休暇賜方之儀ハ去ル八年六月布第百七十六號達之通心得可シ

明治十九年七月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第九十五號

本月十一日ヨリ九月十日迄午前八時出頭午十二時退出ト定ム
但軍隊勤務及役夫ヲ使用スル係官員等ハ此限ニ非ス

明治十九年七月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○司法省令丙第八號

裁判所處務規程別冊ノ通相定ム

但別冊ハ別ニ送付ス

明治十九年七月一日

司法大臣伯爵山田顯義

裁判所處務規程

裁判官

第一條 各裁判所ハ一年間各局又ハ各裁判官ノ每週開クヘキ訟廷ノ日割ヲ豫定シ廳内公衆ノ知り得ヘキ場所ニ之ヲ揭示スヘシ

第二條 開廷ノ期日ニハ當日裁判スヘキ事件ヲ引續キ審理判決スヘシ

第三條 訴訟人喚出ノ時刻及審判ノ順序ハ訴訟人ノ便宜ヲ計リ各裁判官之ヲ定ムルコトヲ得

第四條 各裁判所ニハ訟廷出勤簿ヲ設ケ裁判官ヲシテ開廷ノ時刻前之ニ押印セシメ局長又ハ裁判所長直ニ之ヲ調査シテ後檢印シ若シ欠勤者アルトキハ欠勤ノ理由及共結果ヲ出勤簿ニ記入ス但シ共抄録ハ裁判所ノ長毎月之ヲ司法大臣ニ進達スヘシ

第五條 裁判官文書ヲ受ケタルハ直ニ共處分方ヲ文書ノ餘白又ハ別紙ニ記載シ之ヲ書記ニ下附スヘシ

第六條 文書ノ處分一時ニ結了シ能ハサルハ後日提出ノ期限ヲ豫定シテ之ヲ書記ニ下附スヘシ

第七條 裁判書其他重要ナル文書ノ原接ハ裁判官自ラ之ヲ作ルヘシ

第八條 裁判官差支アル者ト同日ニ訟廷ヲ開カサル裁判官ヲ撰ビ置クヘシ

第九條 差支アル者ト同日ニ訟廷ヲ開カサル裁判官ヲ撰ビ置クヘシ

第十條 裁判官ノ分課ハ事件ノ種類又ハ土地ノ區域ニ依リ之ヲ定ムト雖モ事務ノ繁閑ニ從ヒ甲局ノ裁判官ヲシテ乙局ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第十一條 各裁判所(治安裁判)ニ於テハ其廳ノ行政事務ニ關シ裁判官總會議ヲ開クコトアルヘシ但檢事長又ハ上席檢事ハ共會議ニ出席シテ意見ヲ述フヘシ

第十二條 總會議ハ過半數ノ裁判官出席スルニ非レハ之ヲ開クコトヲ得共會議ハ裁判所ノ長ヲ以テ議長トス

第十三條 總會議ニ於テ議スヘキ事項左ノ如シ

一 廳内ノ職務細則ヲ設定變更スルコト

一 廳内雇員ノ取締規則ヲ定ムルコト

一 裁判區畫ノ變更ニ關シ司法大臣ニ意見ヲ述フルコト

一 法律及諸規則ノ執行ニ關シ檢事長又ハ上席檢事ヨリ請求アリタル事項ヲ議決スルコト

一 司法大臣ヨリ諮問ニ付シタル法律ノ草案ニ付意見ヲ述フルコト

一 裁判所附屬吏員ノ組合ヨリ提出シタル意見ヲ審査スルコト

第十條 控訴院ニ於テハ所轄裁判所ノ一般ニ遵守スヘキ司法省令及訓令ノ施行細則ヲ議定スル爲メ臨時總會議ヲ開クコトアルヘシ

第十一條 控訴院ハ毎年九月十五日(休暇日ナ)ニ於テ總會議ヲ開キ前年八月ヨリ其年ノ七月迄一年間所轄裁判所ノ執リタル裁判事務ノ成績ニ關スル檢事長ノ報告ヲ聽キ匡正スヘキ弊害アレハ相當ノ處分ヲ評決スヘシ

第十二條 控訴院長始審裁判所長ハ十二月初旬ニ於テ總會議ヲ開キ其廳翌年中各裁判官ノ分課代理ノ順序及開廷ノ日割ヲ豫定スル爲メ共意見ヲ詢フヘシ

第十三條 控訴院始審裁判所ノ裁判官ニ欠員アルハ十日以内ニ控訴院長共候補者二名又ハ三名ヲ指定シテ司法大臣ニ具申スヘシ

第十四條 控訴院始審裁判所ノ書記官ニ欠員アルトキハ控訴院長檢事長ト協議運署スヘシ若シ協議ハサルハ各自ニ候補者ヲ指定シテ具申スヘシ

第十五條 始審裁判所ノ裁判官ニ欠員アルハ其候補者ヲ指定スルニハ豫メ其裁判所長ニ書記ノ候補者ヲ指定スルニハ其裁判所長及上席檢事ニ諮問スヘシ

第十六條 治安裁判所ニ欠員アルトキハ十日以内ニ裁判官ニ付テハ所轄裁判所長書記ニ付テハ上席檢事ト協議運署シ候補者二名又ハ三名ヲ指定シテ所屬控訴院長ニ具申スヘシ控訴院長ハ之ヲ

ニ意見ヲ付シテ司法大臣ニ進達スヘシ但シ書記ニ付テハ檢察長ト協議連署シテ具申スヘシ
 第十五條 前二條ノ場合ニ於テ裁判所ノ指定シタル候補者ノ取捨ハ司法大臣ノ權内ニアリトス
 第十六條 控訴院長ハ檢察長ト協議シ司法大臣ノ名義ヲ以テ其廳及所轄裁判所判任官吏ノ増俸及
 轉勤ヲ擬行スルコトヲ得大審院長ノ其廳書記ニ於ケルモ亦同シ但シ始審裁判所及治安裁判所判任
 官吏ニ付テハ控訴院長豫メ始審裁判所長又ハ上席檢察事ニ諮問スヘシ
 始審裁判所判任官其管内限リノ轉勤ハ裁判所長又ハ上席檢察事之ヲ控訴院長又ハ檢察長ニ具申ス
 ルコトヲ得

前各項ノ場合ニ於テハ擬行ノ後直ニ司法大臣ニ具申スヘシ

第十七條 裁判所ノ長ハ所轄裁判所裁判事務ノ整理ヲ視察スル爲メ其他必要ノ場合ニ於テ司法大
 臣ノ認可ヲ得管内ニ出張又ハ巡回スルコトヲ得但シ出張ニ付認可ヲ得ルノ暇ナキハ出張ノ後直
 ニ司法大臣ニ報告スヘシ

第十八條 裁判所ノ長ハ會計收支命令ノ事ヲ掌リ及會計事務ヲ勘査スヘシ

控訴院長ハ一定ノ期限内ニ其廳及所轄裁判所ノ豫算表決算表ヲ司法大臣ニ提出スヘシ

第十九條 控訴院長ハ會計事務勘査ノ爲メ其他必要ナル場合ニ於テハ書記ヲ所轄裁判所ニ出張セ
 シメ又ハ所轄裁判所ノ書記ヲ招喚スルコトヲ得

第二十條 裁判所ノ長ハ各其主掌ニ係ル諸表ノ調製ヲ管理シ司法大臣ニ進達スヘシ

第二十一條 裁判所ノ長ハ其廳ノ印章ヲ調製シ其印影ヲ司法省ニ進達スヘシ但治安裁判所ノ判事
 ハ所屬始審裁判所長ノ許可ヲ得テ調製スヘシ

第二十二條 裁判所ノ長ハ其廳經費定額内ニテ雇員ヲ使用スルコトヲ得但治安裁判所判事ハ所屬始
 審裁判所長ノ許可ヲ得テ之ヲ使用スヘシ

第二十三條 控訴院長ハ其廳及所轄裁判所ノ職員（勅任官ヲ除ク）ニ對シ司法大臣ノ名義ヲ以テ除服出仕
 ヲ命シ及例規ノ賜暇ヲ許否スルコトヲ得

第二十四條 始審裁判所長ハ其廳及所轄治安裁判所職員（檢察官ヲ除ク）ノ考績ニ付毎年八月所屬控訴院
 長ニ報告ヲ爲ス可シ但シ書記以下ニ付テハ上席檢察事ト協議スヘシ

控訴院ノ長ハ其廳及所轄裁判所職員（檢察官ヲ除ク）ノ考績ニ付毎年九月司法大臣ニ報告ヲ爲スヘシ但
 シ書記官以下ニ付テハ檢察長ト協議スヘシ

第二十五條 始審裁判所長ハ檢察事ノ意見ヲ詢ヒ毎年其廳裁判官中ヨリ豫審掛ヲ指名シ司法大臣ニ
 具申スヘシ

第二十六條 始審裁判所長ハ治安裁判所所在地外ニ法廷ヲ開クコトヲ必要ト認ムルトキハ司法大臣
 ニ具申スヘシ

第二十七條 始審裁判所長治安裁判所判事ハ書記ノ分任ヲ定メ書記數名アルハ一名ヲ書記長ニ
 命スルコトヲ得

第二十八條 裁判所ト中央官廳トノ間ニ往復スル文書ハ總テ司法大臣ヲ經由スヘシ

第二十九條 始審裁判所長治安裁判所判事ヨリ司法大臣ニ申稟報告スヘキモノハ總テ監督上官ヲ
 經由スヘシ但特別ナル場合ハ直ニ司法大臣ニ申稟報告スルコトヲ得

第三十條 第三條第二十條ニ定メタル裁判所長ノ職務ニ關スル規則ハ治安裁判所判事ニモ亦之ヲ
 適用ス

第三十一條 裁判所官吏ノ事務取扱ニ對スル抗告ハ其監督上官之ヲ判定シ最終ノ抗告ハ司法大臣
 之ヲ判定ス

檢察官

第三十二條 檢事ハ檢事長ノ代理者タルヲ以テ其特別委任ヲ俟タズシテ各自其本務ヲ行フコトヲ得
但シ檢事數名アル時ハ檢事長ハ裁判所ノ事務分限法ニ依リ檢事ノ分任ヲ定ムルコトヲ得

第三十三條 檢事ニ分任シタル事件ト雖モ被告人ノ身分又ハ事件ノ性質ニ依リ重大ナルモノハ檢
事長自ラ之ヲ取扱フヘシ若シ自ラ取扱フコト能ハサル場合ニ於テハ特別ノ注意ヲ要ス

又左ニ記載セル書類ノ原接及正本ニハ檢事長ノ署名捺印ヲ要スルモノトス

一 重罪公訴狀

一 告訴發受ケケル事件ニ付起訴ヲ爲サヘルノ通知書

一 監督上官ニ差出スヘキ書類

一 上訴再審及訴ニ關スル書類

一 特赦ノ上申書

一 檢事ノ處分ニ對スル抗告ノ判定書

一 中央官廳及地方廳トノ往復書類

第三十四條 控訴院檢事長ハ管内代言人ノ取締上必要ト認ムル規則ヲ設ケ之ヲ告達スルコトヲ得
始審裁判所上席檢事ハ管内代言人ヲ監督シ其能否ニ付隨時控訴院檢事長ニ報告ヲ爲シ控訴院檢
事長ハ之ヲ司法大臣ニ報告スヘシ其名簿ニ變更アルルモ亦同シ

第三十五條 檢事其所在地外ニ臨檢スヘキルハ檢事長ノ許可ヲ受クヘシ

第三十六條 控訴院檢事長ハ司法大臣ノ命令又ハ認可ヲ得テ管内ヲ巡視シ法律命令ノ執行ニ關ス
ル利弊ヲ監査スヘシ

又檢事長ハ必要ナル場合ニ於テ司法大臣ノ認可ヲ得隨時管内ニ出張シ又ハ管内ノ檢事ヲ招喚ス
ルコトヲ得但シ時機急迫ニシテ認可ヲ得ルノ暇ナキルハ出張又ハ招喚ノ後速ニ其旨ヲ具申スヘシ

第三十七條 檢察官ハ其監督上ノ職務ニ付隨時司法大臣ニ機密報告ヲ爲スヘシ

第三十八條 始審裁判所上席檢事ハ毎年八月其所在裁判所及治安裁判所ノ前一箇年間取扱ヒタル
事務ノ興否及其弊害ヲ匡正スルノ方法ヲ所屬控訴院檢事長ニ具申スヘシ

第三十九條 控訴院檢事長ハ毎年九月十五日ニ開クヘキ總會議ノ席ニ於テ管内裁判所ノ前一箇年
間取扱ヒタル事務ノ興否及其弊害ヲ匡正スルノ方法ヲ演說スヘシ

第四十條 前條演說ノ筆記ハ九月下旬ニ之ヲ司法大臣ニ進達シ及ヒ所轄裁判所ニ送致スヘシ

第四十一條 第四條第十三條第十四條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二
十八條第二十九條第三十一條ニ定メタル規則ハ檢察官ニモ亦之ヲ適用ス

第三十三條第三十五條第三十六條ニ定メタル檢事長ノ職務ハ始審裁判所上席檢事ニモ亦之ヲ適用ス

附則

第四十二條 始審裁判所支廳ノ上席判事ハ本規程ニ照準シ其廳及管内ノ行政事務ニ付キ本廳長ノ
代理ヲ爲シ共上席檢事ハ本廳上席檢事ノ職務ヲ行フモノトス但控訴院長檢事長又ハ司法大臣ニ
進達スヘキ文書ハ本廳ヲ經由スヘシ

○文部省令第十六號

勅令第十五號中學校令第七條ニ基キ高等中學校ノ學科及其程度ヲ定ムルコト左ノ如シ
明治十九年七月一日 文部大臣 森 有禮

高等中學校ノ學科及其程度

第一條 高等中學校ノ學科ハ國語漢文第一外國語第二外國語羅旬語地理歷史數學動物植物地質礦
物物理化學天文地理學哲學圖畫力學測量及體操トス第一外國語ハ通常英語トシ第二外國語ハ通

常備語若クハ佛語トス

第二條 高等中學校ノ修業年限ハ二箇年トス

第三條 高等中學校ニ於テハ二級ヲ設ケ每級ノ授業期限ヲ一年トシ一年內ニ於テハ凡四十週授業スルベシトス

第四條 高等中學校ノ各學科授業ノ時數凡左ノ如シ

	第一年	第二年	
國語及漢文	三	三	表中法學醫學工學文學理學トアルハ主トシテ分科大學ヲ指シタルモノナリ
第一外國語	四	四	工學志望生ニハ此科ヲ課セス
第二外國語	五	五	工學志望生ニハ此科ヲ課セス
羅旬語	二	二	工學志望生ニハ此科ヲ課セス 醫學志望生ニハ此科ヲ課セス 文學志望生ニハ此科ヲ課セス 但理學志望生ニハ此科ヲ課セス
地理	三	三	醫學工學文學理學志望生ニハ此科ヲ課セス
歷史	三	六	醫學工學理學志望生ニハ此科ヲ課セス 文學志望生ニハ此科ヲ課セス
數學	三	三	法學志望生ニハ此科ヲ課セス 醫學文學志望生ニハ此科ヲ課セス
動物及植物	二	七	法學工學文學理學志望生ニハ此科ヲ課セス
地質及礦物	二		法學醫學志望生ニハ此科ヲ課セス
物理	五	二	法學志望生ニハ此科ヲ課セス 文學理學志望生ニハ此科ヲ課セス
化學	三	五	文學理學志望生ニハ此科ヲ課セス 文學志望生ニハ此科ヲ課セス

天文	一		法學醫學志望生ニハ此科ヲ課セス
理財學	二		法學醫學工學理學志望生ニハ此科ヲ課セス
哲學	三		醫學工學志望生ニハ此科ヲ課セス
圖畫	三	六	法學醫學文學志望生ニハ此科ヲ課セス 理學志望生ニハ此科ヲ課セス 文學志望生ニハ此科ヲ課セス 但理學志望生ニハ此科ヲ課セス
力學	二	二	法學醫學文學志望生ニハ此科ヲ課セス 理學志望生ニハ此科ヲ課セス
測量	三	三	法學醫學文學志望生ニハ此科ヲ課セス
體操	三	三	工學理學志望生ニハ此科ヲ課セス

第五條 高等中學校ノ各學科ノ程度左ノ如シ

國語及漢文

漢字交リ文及漢文ノ講習作文

第一外國語

講習會話作文翻譯

第二外國語

前項ニ同シ

羅旬語

文法講習

地理

政治地理

歷史

希臘羅馬獨佛英米ノ歴史

數學

平面解析幾何立體解析幾何ノ初步方程式論大意微分積分

動物及植物

醫科動物植物學及人體解剖學

地質及礦物

大意

物理

理論及實驗

化學

無機化學有機化學理論實驗及分析

天文

初步

理財學

大意

哲學

心理及論理

圖書

書法幾何及用器書法

力學

運動學及分子固體液體ノ力學

測量

理論及實地演習

體操

兵式體操

第六條 高等中學校ノ第一年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行端正身體健康年齡滿十七年以上ニ

シテ尋常中學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之ニ均シキ學力ヲ有スルモノトス

第二年級ニ入ルコトヲ得ヘキモノハ品行身體年齡ノ資格前項ニ準シ其級ノ課程ヲ修メ得ヘキ學

力ヲ有スルモノトス

第七條 高等中學校ニ於テハ豫科ヲ置クコトヲ得此場合ニ於テハ尋常中學校第三年級以上ノ學科

及其程度ニ據ルモノトス

第八條 法科醫科工科文科理科農商業等ノ分科ニ關スル學科及其程度ハ別ニ之ヲ定ム

○陸軍省令乙第九十六號

本年三月省令乙第三十三號ニ左ノ但書ヲ加フ

明治十九年七月二日

但明治十七年十二月同國京城ニ於テ防戰シタル軍隊ニ限リ從軍年一ケ年ヲ加算ス

陸軍大臣伯爵大山 巖

○大藏省令第二十三號

賣藥印紙交換規則左ノ通相定ム

明治十九年七月 省令 陸軍省乙第九十六號 大藏省第二十三號

明治十九年七月七日

大藏大臣伯爵松方正義

賣藥印紙交換規則

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失レタルモノヲ廢棄センカ爲メ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙額一ト口拾圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ

一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付

交換新印紙八拾錢

一 貳拾圓以上壹圓ニ付

同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ及ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ箇數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ノ所在府縣廳ニ差出シ検査ヲ受ヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ検査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

○大藏省令第二十四號

北海道廳又ハ府縣廳ニ於テ取扱來候諸記名公債ノ元利賦金拂渡方ノ備來十一月一日ヨリ總テ日本銀行本支店又ハ代理店ニ於テ之ヲ取扱ハシム但共代理店ハ日本銀行ヨリ廣告スヘシ

明治十九年七月八日

大藏大臣伯爵松方正義

○陸軍省令乙第九十七號

勅令第四十八號ヲ以テ陸軍將校服制改正相成候處右ハ漸ヲ以テ改正可致儀ト心得ヘシ

明治十九年七月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第五十八號

横須賀鎮守府所轄軍樂練習所ヲ横須賀市營新錢坐分營ト改稱ス

海軍 一般

明治十九年七月九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍省令甲第三十號

陸軍軍樂隊條例被定候付テハ陸軍軍樂次長以下服役年限起算方ノ備該條例發布以後任命ノ者ヨリ施行可致尤右發布以前任命ノ者ニ在テハ總テ從前ノ通マルヘシ

北海道廳 府縣

明治十九年七月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令甲第三十一號

乘馬飼養令第五條ニ依リ常省ヘ送付スヘキ金員ノ備ハ十九年度以降毎月國庫金取扱所ヘ預ケ入レ其預リ書ニ一人別飼養料ノ金額及官姓名係給ヲ詳記シメル書面ヲ添ヘ直ニ第一調馬隊 東京府駒町區元衛町ヘ送付スヘシ

北海道廳 府縣

明治十九年七月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第九十八號

(本文ハ甲第三拾號ニ同シ)

明治十九年七月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○内務省令第十三號

土木監督區署官制左ノ通定ム

府 縣 沖繩縣

明治十九年七月十二日

内務大臣伯爵山縣有朋

土木監督區署官制

第一條 内務省直轄ノ工事及府縣土木ノ事業ヲ監督スル爲メ全國ヲ分チ土木監督區ヲ置ク其區域名稱ハ左ノ如シ

第一區 武藏 上總 下總 常陸 上野 下野 安房 相模 伊豆 駿河 甲斐 遠江 信濃ノ内

第二區 磐城 岩代ノ内 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後

第三區 越後 岩代ノ内 越中 佐渡 能登 加賀 越前 飛騨ノ内 信濃ノ内

第四區 三河 尾張 美濃 信濃ノ内 飛騨ノ内 伊勢 志摩 伊賀 近江 若狹 山城

大和 攝津 河内 和泉 紀伊 丹波 丹後 但馬 播磨

第五區 淡路 阿波 讃岐 伊豫 土佐 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 美作 因幡 伯耆 出雲 隱岐 石見

第六區 豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 肥後 薩摩 大隅 日向 豊後 對馬

第二條 土木監督區ニ土木監督署ヲ置キ内務大臣ノ管轄ニ屬シ職員ヲ置クコト左ノ如シ

土木巡視長

土木巡視

土木巡視補

土木巡視

土木巡視補

第三條 巡視長ハ一等乃至三等ノ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ土木ノ事務ヲ管

理ス

第四條 巡視長ハ其管轄部内ヲ巡迴シ府縣土木事業ヲ監視シ其利害得失ヲ精査シ報告書ヲ内務大臣ニ呈出ス

第五條 巡視長ハ内務省直轄ノ河川堤防道路橋梁港灣ニ係ル土功ヲ計畫シ其意見ヲ内務大臣ニ具申ス

第六條 巡視長ハ内務大臣ノ命令ニ依リ特ニ新設工事又ハ既成工事ノ變更等ヲ検査スルトキハ其意見ヲ内務大臣ニ具申ス

第七條 巡視長ハ内務大臣ノ招集ニ應ジ土木會議ヲ開キ全國土木事業ノ得失ヲ討議スルコトヲ得但會議ノ規則ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條 巡視ハ三等乃至六等ノ技師ヲ以テ之ニ充ツ巡視長ノ命ヲ承ケ土木ノ事務ヲ分掌ス

第九條 巡視補ハ技師又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ受ケ庶務及土木ノ事務ニ從事ス

○内務省令第十四號

府縣土木監督區署位置左ノ通定ム

明治十九年七月十二日

内務大臣伯爵山縣有朋

第一區 下總國東葛飾郡關宿

第二區 陸中國西磐井郡一ノ關

第三區 越後國中滯原郡西島屋野島新田

第四區 攝津國大坂

第五區 阿波國名東郡德島

第六區 筑後國御井郡久留米

○大藏省令第二十五號

今般勅令第五十號ヲ以テ拾錢紙幣來ル明治二十年六月三十日限通用禁止ニ付右期限内ニ於テ日本銀行本支店又ハ代理店へ交換方申出ツヘン但本文代理店名ハ日本銀行ヨリ廣告スヘン
明治十九年七月十二日 大藏大臣伯爵松方正義

○海軍省令第五十九號

從前ノ海軍中佐ハ海軍大佐奏任二等從前ノ海軍中尉ハ海軍大尉奏任五等從前ノ中佐同等官中尉同等官モ之ニ準スル儀ト心得可シ又准士官及下士ニ在テハ別ニ辭令書ヲ下付セサル者ハ左記ノ通心得可シ
明治十九年七月十三日 海軍大臣伯爵西鄉從道

- 從前ノ兵曹上長兵曹長ハ 上等兵曹
- 同 樂長ハ 軍樂師
- 同 機關工上長機關工長ハ 機關師
- 同 木工上長木工長ハ 船匠師
- 同 艦内教授役ハ 一等艦内教授
- 同 艦内教授役介ハ 二等艦内教授
- 同 警吏ハ 一等警吏
- 同 警吏補ハ 二等警吏
- 同 樂次長ハ 一等軍樂手
- 同 樂師ハ 二等軍樂手
- 同 樂手ハ 三等軍樂手

- 同 一等機關工手火夫長ハ 一等機關手
- 同 二等機關工手一等火夫長屬ハ 二等機關手
- 同 三等機關工手二等火夫長屬ハ 三等機關手
- 同 一等木工長屬ハ 一等船匠手
- 同 二等木工長屬ハ 二等船匠手
- 同 三等木工長屬ハ 三等船匠手
- 同 鍛冶長ハ 二等鍛冶手
- 同 鍛冶長屬ハ 三等鍛冶手

○海軍省令第六十號

海軍概則並條給制ヲ廢ス

海軍一級

明治十九年七月十三日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省令第六十一號

少尉試補少機關士試補少軍醫試補少主計試補ハ各其本官下級俸ノ十分七ヲ給ス

海軍一級

明治十九年七月十三日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省令第六十二號

海軍准士官ノ月俸ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍大臣伯爵西鄉從道

明治十九年七月十三日

第一條 准士官月俸ノ等差ハ左ノ如シ

俸	等	甲	俸	乙	俸	丙	俸
一	等	五	拾	圓	四	拾	七
							圓
							四
							拾
							五
							圓

第二條 上等兵曹機關師上等技工船匠師ノ月俸ハ一等ヨリ六等ニ至リ軍樂師ノ月俸ハ一等ヨリ五等ニ至ルモノトス

第三條 甲乙丙種支給區別待命非職ノ支給額及支給ノ細則ハ高等武官俸給令及支給細則ニ依ル但品行不正等ニテ非職ニ入ル者ハ高等武官ノ停職解職ニ準シ支給ス

○海軍省令第六十三號
明治十三年七月 丙第六十四號 遠食卓料食料ノ件及同十七年一月 丙第七號 遠艦船營下士以下食料給與概則ヲ廢シ在艦船營軍人軍屬食料支給定規ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年七月十三日

海軍大臣伯爵西鄉從道

海軍軍人軍屬乘艦及在營食料日當表

航 行	航 行		留 留 艦 及 屯 營
	東經百十度同百六十度 北緯二十度同五十度 以內	同上經緯度以外	
航 行	同上經緯度以外	航海運轉中夜食料	留 留 艦 及 屯 營
金 拾 八 錢	金 貳 拾 四 錢	各 日 當 三 分 ノ 壹	金 拾 五 錢

一 凡食料ハ乘艦又ハ入營ノ日ヨリ退艦退營ノ前日マテ之ヲ支給ス但退職退役若クハ死亡スル者ハ

退艦退營若クハ死亡ノ當日マテ支給スヘシ

- 一 各屬ニ從事スル下士卒ハ在營ニ準シ食料ヲ支給ス
- 一 公暇ヲ除クノ外傷疾疾病或ハ私事ニ依リ在艦又ハ在營セサル者及旅行中旅費ノ日當或ハ現賄ヲ受ル者ハ食料ヲ支給セズ但退艦退營及歸艦歸營ノ當日ハ此限ニ在ラス
- 一 東經百十度同百六十度北緯二十度同五十度以外ハ航海中ノ食料ハ命ヲ受ケ同經緯度以內ノ各地ヲ發程ノ日ヨリ歸著投錨ノ日マテ之ヲ支給ス
- 一 航海運轉中ノ夜食料ハ夜中一時間以上ヨリ之ヲ支給シ一時未滿ハ支給セズ但晝夜ノ區別ハ日出日没ヲ以テス
- 一 艦船營ニ在テハ定額ノ食料ヲ以テ左ノ品類ヲ買辦給與スルモノトス
 - 一 蒸餅
 - 一 乾蒸餅
 - 一 米及麥
 - 一 牛肉 (生肉或ハ罐詰類)
 - 一 醃牛肉
 - 一 魚肉
 - 一 鴨豚肉
 - 一 醬油
 - 一 魚肉
 - 一 味噌
 - 一 豆類
 - 一 野菜 (莖芋類 菜類 胡蘿蔔類 蘿蔔類)
 - 一 脂油 (半脂豚脂牛酪阿列布油胡麻油ノ類)
 - 一 麥粉
 - 一 茶
 - 一 砂糖附澱粉質
 - 一 酒類
 - 一 酢
 - 一 香料
 - 一 鹽
 - 一 漬物
- 一 食品ハ主計官之ヲ買辦シ醫官審査ノ後之ヲ給スルモノトス但豫備艦ノ如キハ此限ニ在ラス
- 一 本表ノ食料ヲ受ル者ハ當直等ノ場合ニ於テモ別ニ夜食料ヲ支給セズ但非常ノ場合ニ於テ夜中公務ニ從事スル者ハ日當額ノ三分壹ヲ支給シ其理由ノ詳細ヲ届出ヘシ

一凡食料ハ定員或ハ員外貸借員等ニ拘ハラズ現ニ所在ノ艦船營或ハ各鵬ノ經費ヲ以テ支給スヘシ但會計ヲ異ニシ或ハ特ニ經費ヲ區別スヘキ場合ニ於テハ此限ニ在ラズ

海軍一般

○海軍省令第六十四號
准士官以上外國出張加俸及下士以下外國航海加俸ヲ廢シ遠洋航海手當支給定規ヲ定ムルコト左ノ如シ

海軍大臣伯爵西鄉從道

明治十九年七月十三日

遠洋航海手當支給定規

第一條 遠洋航海手當ハ航到地ノ經緯度ニ應シ初メテ發程スル日ヨリ初メテ歸着投錨ノ日マテ左表ニ依リ給與ス

第二條 海軍艦船ノ定員ニアラズト雖モ之ニ乘組旅行スル軍人ニハ定員ト同シク手當ヲ給與ス

遠洋航海手當日額表

大佐并同等官	將官并同等官		少佐并同等官		大尉并同等官	少尉并同等官		准士	一等下士	二等下士	三等下士	一等等	二等等	三等等	四等等	五等等	艦船醫藥夫
	司令官	司令官	司令官	司令官		其他	艦長										
其他	司令官	司令官	司令官	司令官	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他
壹圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	三圓三拾四錢	三圓三拾四錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	貳圓六拾六錢	四圓六拾六錢
貳圓四拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	五圓〇壹錢	五圓〇壹錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	六圓六拾五錢
三圓	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	五圓〇壹錢	五圓〇壹錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	六圓六拾五錢
四圓拾五錢	五圓	五圓	八圓三拾五錢	八圓三拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢

少佐并同等官	大尉并同等官		少尉并同等官		准士	一等下士	二等下士	三等下士	一等等	二等等	三等等	四等等	五等等	艦船醫藥夫
	艦長	其他	艦長	其他										
其他	艦長	其他	艦長	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他	其他
壹圓六拾六錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	壹圓三拾四錢	四圓六拾六錢
貳圓三拾四錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢	貳圓〇壹錢
三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢	三圓九拾九錢
四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢	四圓拾五錢

海軍一般

○海軍省令第六十五號

海軍生徒乘艦中ハ手當トシテ自今一日金貳拾五錢ヲ給ス

海軍大臣伯爵西鄉從道

明治十九年七月十三日

海軍一般 北海道廳 府縣

○海軍省令第六十六號

海軍本職名等級ヲ改定スルコト左ノ如シ

明治十九年七月 省令 海軍省第六十五號 第六十六號

明治十九年七月十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

一	一等水兵	二等水兵	三等水兵	四等水兵	五等水兵
一	一等火夫	二等火夫	三等火夫	四等火夫	一等若水兵 二等若水兵
一	一等木工	二等木工	三等木工	四等木工	一等若火夫 二等若火夫
一	一等鍛冶	二等鍛冶	三等鍛冶	四等鍛冶	若 鍛 冶
一	一等醫病夫	二等醫病夫	三等醫病夫	四等醫病夫	
一	一等厨夫	二等厨夫	三等厨夫	四等厨夫	五等厨夫
一	一等樂生	二等樂生	三等樂生		

○海軍省令第六十七號

海軍一艦

明治十七年五月丙第八十四號達海軍軍樂隊給與概則ヲ廢シ同年一月丙第八號達海軍下士以下給與概則ヲ改定スルコト左ノ如シ

明治十九年七月十四日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍下士以下給與概則

第一章 總則

第一條 本則ハ下士卒及艦船醫備夫給與ノ制限ヲ掲ルモノトス其目左ノ如シ

- 一 俸給
- 二 雜給

第二條 衣服物品食料賜酒料旅費遠洋航海手當及患者被告人等ノ給與規則ハ別ニ之ヲ定ム

第三條 懲罰令並行章條例掌砲証狀規則運用術教員概則患者免役歸籍假規則死亡者取扱規則及滿期再役志願者取扱規則中給與ニ屬スルモノハ總テ其各條ニ依ル

第四條 第二條及第三條ノ規則中ニ給與法細節ヲ掲ケサルモノハ本則ニ照準スヘシ

第二章 俸給

第五條 下士以下ノ日給ハ第一第二第三表ノ如シ而シテ其服務ノ區別ニ依リ給額ニ差等アルコト

第四表ノ如シ之ヲ下士ニ在テハ在職俸卒以下ニ在テハ在役俸ト稱ス

第六條 凡ソ艦船醫ノ外陸地各職ニ從事スル者ノ日給ハ第四表在營ノ定員ニ準シ之ヲ給與ス

第七條 樂手樂生看護手看護夫及ヒ五等卒ハ各服務ノ區別ニ拘ハラヌ總テ本給全額ヲ給與ス

第八條 樂手樂生ニハ技藝進歩ノ程度ニ從ヒ服務ノ日數ニ應シ第五表ノ技藝加俸ヲ給與ス

第九條 樂手樂生中ハ第六表ノ加俸ヲ給與ス但艦務ヲ帶ヒ上陸スル者ヲ除クノ外公私旅行其他艦船ニ不在ノ日數中ハ給與セズ

第十條 夏季九十日間小暑ト大暑ノ中間ヲ以テ或ハ熱帶地方ニ於テ機關運轉中ハ機關手及ヒ火夫ニハ各其本給十分ノ三ヲ加俸トシ其他ノ者ヲシテ機關部ノ業ニ從事セシムル時ハ一日金拾八錢

ヲ加俸トシテ其日數ニ應シ之ヲ給與ス又蒸溜水ヲ要シ點火スル時モ之ニ準ス

第十一條 喇叭兼務ノ水兵ニハ其技藝ノ巧拙ニ從ヒ服務ノ日數ニ應シ第七表ノ加俸ヲ給與ス但樂手ハ第九條ニ依ル

第十二條 艦隊司令長官司令官司令次官若クハ外國教師乘組ノ艦船ニ於テ洋食調理ヲ兼助セシムル者ニハ其技藝ノ巧拙ニ從ヒ服務ノ日數ニ應シ第八表ノ加俸ヲ給與ス

第十三條 艦船乘員上陸規則ニ依リ其他一般ニ賜ハル休日ハ在職或ハ在役俸及加俸トモ總テ之ヲ給與ス

第十四條 恩給令第十八條ニ據テ休暇ヲ命セラレタル下士ハ其日ヨリ恩給ヲ賜ル始期ノ前日迄本給十分ノ七ヲ給與ス

第十五條 事業上負傷セシ者ハ施療中當時ノ在職或ハ在役俸ヲ給與ス但施療中退職退役或ハ勲階若クハ犯罪セシ者ハ此限ニ在ラス

第十六條 傷痍疾病ニ罹リ艦船營内ニ在テ施療中其他陸上勤務ノ者一週日以内ノ缺勤ハ軍醫若クハ地方醫ノ診断ニ依リ所轄長之ヲ認可シタル者ニ限り尙ホ在職或ハ在役俸ヲ給與ス

第十七條 下士待命及非職ノ俸給ハ第九表ノ通之ヲ給與ス其支給法左ノ如シ

- 一 待命俸ハ其職務ヲ免シ待命ヲ命スル者ニ之ヲ給與ス
- 二 非職甲俸ハ其職務ヲ免シタル者或ハ其官ニ任シテ職務ノ命ナキ者ニ之ヲ給與ス
但地方病院學校及ヒ其他ノ事業ニ従事シ給料ヲ受ル時間ハ本項ノ限ニ在ラス第三項モ亦同シ
- 三 非職乙俸ハ品行不正等ニ依リ職務ヲ免シタル者ニ之ヲ給與ス

第十八條 下士願ノ上歸省スル時ハ別ニ令達アルモノトス
但非職乙俸ヲ給與スル時ハ別ニ令達アルモノトス

第十九條 下士以下ヲ海軍部外ノ各屬ハ貸與スル時ハ其日ヨリ歸到ノ前日迄本給十分ノ三ヲ給與ス而シテ先方ヨリ職役相當ノ給料ヲ受ル者トス

第二十條 傷痍疾病ニ罹リ入院若クハ陸地施療ノ者ハ其艦船營及ヒ各屬ヲ離レタル日ヨリ歸到ノ前日迄下士ハ本給十分ノ五率以下ハ本給十分ノ三ヲ給與ス

第二十一條 賜暇歸省ノ末延期退願其他私事ヲ以テ職役ニ従事セサル其日數中ハ假令允許ヲ得ル者ト雖モ凡テ俸給ヲ停止ス

第二十二條 前各條ノ俸給制限ニ據リ其給與法細節ヲ示ス左ノ如シ
一 凡ソ俸給ハ現役兵ニ編入又ハ傭入ノ當日ヨリ退職退役或ハ解免死亡等ノ當日迄之ヲ給與ス但服役中ト雖モ停給スヘキ制規アルモノハ此限ニアラス

- 二 轉職及勲階ノ時ハ辭令ノ本人ニ達シタル日ヨリ其俸ヲ給與ス俸給増減又ハ勤務場所移轉ノ時モ之ニ準ス
- 三 俸給ニ異動アル時分數ヲ以テ定ムル給額ニ不盡ノ數アルモノハ四捨五入ノ算則ニ據リ其同額ノ毎計ニ於テ之ヲ決算スヘシ
- 四 艦船航海中ニ於テ免乗若クハ本艦船ニ在乗スルヲ得サル歟或ハ出張中ニ於テ其職務ヲ免シタル時ハ本管廳ヘ歸到ノ日迄尙ホ從前ノ在職或ハ在役俸ヲ給與ス
- 五 第二項其他轉任ノ場合ニ於テ其俸ヲ給與スル時ハ總テ其前日迄從前ノ俸ヲ給與スヘキモノトス

第二十三條 俸給渡日ハ毎月末ノ日ヲ以テ定ムル其日公休暇ニ當ル時ハ其前日ニ繰上ケ相渡スヘシ但所轄替ノ時ハ其際相渡スヘシ
第二十四條 艦船航海或ハ旅行ニ際シ俸給繰上或繰替渡方ハ本人ノ出願ニ依リ左ノ制限ヲ以テ相渡スヘシ

- 一 海上二百里以上ノ航海及日數十日以上ヲ要セル公務旅行ノ時ハ發程ノ日ヨリ後チ三十日分以内

二 制規ニ依テ賜ル休暇中歸省若クハ旅行ノ者ハ其許可日數以内
 三 外國航海ニヨリ不在中部理代人ヲ置キ月々請取方請願ノ者ハ該艦船長ノ添請ニ應シ會計局又ハ鎮守府ニ於テ繰替相渡スヘシ
 第二十五條 第二十三條及第二十四條ニ依テ休給支給ノ後チ昇降轉免若クハ死亡罪犯等其他事故アル者ハ各條規ニ照ラシ追給或ハ返納セシムヘシ
 第二十六條 凡ソ休給ハ本人所轄ノ各艦船船營ニ於テ給與スヘキモノトス但海軍部内ニ於ル借員ハ借受タル各艦船船營ノ其所轄員ニ準ス

第三章 雜給

第二十七條 艦船航海中端舟ニ乗組出測或ハ水底ノ事業又ハ難破船漂流人救援等其他非常ニ勞働スル者ハ手當トシテ一日金拾錢ヲ限り之ヲ給與シ追テ詳悉届出ヘシ
 第二十八條 陸地各廳勤務ノ者營舎ニ起臥スルヲ得サル時ハ其日數ニ應シ手當トシテ一日金五錢ヲ給與ス但借員モ之ニ準ス
 第二十九條 軍樂員ニ禮式或ハ觀應其他奏樂ノ爲メ出場ヲ命シタル節其場若クハ途中ニ於テ食事時刻ニ及フ時ハ一金拾五錢ヲ以テ現賄ヲ給與ス但旅費ヲ受ル者ハ給與スヘキ限ニ在ラス
 第三十條 軍樂員海軍將校其他ノ請求ニ應スル時ハ第二十九條ニ準シ其請求者ヨリ相當ノ賄料ヲ受ル者トス

下士日給表

第七拾五錢六	拾	錢四拾八	錢三拾七	錢三拾四	錢三拾壹	錢貳拾八	錢貳拾五
一等兵曹	一等兵曹	二等兵曹	二等兵曹	二等兵曹	二等兵曹	二等兵曹	二等兵曹

一等艦内教授	二等艦内教授	三等艦内教授	一等艦内教授	二等艦内教授	三等艦内教授	一等艦内教授	二等艦内教授	三等艦内教授
一等警吏	二等警吏	三等警吏	一等警吏	二等警吏	三等警吏	一等警吏	二等警吏	三等警吏
一等軍樂手	二等軍樂手	三等軍樂手	一等軍樂手	二等軍樂手	三等軍樂手	一等軍樂手	二等軍樂手	三等軍樂手
一等機關手	二等機關手	三等機關手	一等機關手	二等機關手	三等機關手	一等機關手	二等機關手	三等機關手
一等船匠手	二等船匠手	三等船匠手	一等船匠手	二等船匠手	三等船匠手	一等船匠手	二等船匠手	三等船匠手
一等水雷工手	二等水雷工手	三等水雷工手	一等水雷工手	二等水雷工手	三等水雷工手	一等水雷工手	二等水雷工手	三等水雷工手
一等砲治手	二等砲治手	三等砲治手	一等砲治手	二等砲治手	三等砲治手	一等砲治手	二等砲治手	三等砲治手
一等看護手	二等看護手	三等看護手	一等看護手	二等看護手	三等看護手	一等看護手	二等看護手	三等看護手
一等筆記	二等筆記	三等筆記	一等筆記	二等筆記	三等筆記	一等筆記	二等筆記	三等筆記
一等主廚	二等主廚	三等主廚	一等主廚	二等主廚	三等主廚	一等主廚	二等主廚	三等主廚

卒日給表

貳拾五錢	貳拾貳錢	拾九錢	拾六錢	拾三錢	八	錢七
一等水兵	二等水兵	三等水兵	四等水兵	一等若水兵	二等若水兵	
一等樂生	二等樂生	三等樂生	一等若火夫	二等若火夫		
一等木工	二等木工	三等木工	四等木工			
一等砲治	二等砲治	三等砲治	四等砲治			
一等看護夫	二等看護夫	三等看護夫	四等看護夫			

明治十九年七月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

但軍樂隊條例第五條ノ場合ニ在テ軍樂次長以下前兵種ナキモノハ歩兵ノ後備役ニ服セシム

○陸軍省令甲第三十三號

北海道廳 府縣

陸軍軍樂次長以下服役ノ儀ハ陸軍軍樂隊條例第五條揭示ノ通ニ候處華士族平民ヨリ採用スルモノ
現役滿期ノ後ハ歩兵ノ後備役ニ服セシム

明治十九年七月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第九十九號

(本文ハ甲第三十二號ニ同シ)

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年七月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百號

(本文ハ甲第三十三號ニ同シ)

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年七月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百一號

歩兵及ヒ砲兵一聯隊編制表中聯隊附少佐並大尉之職務左ノ通り定ム

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年七月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一 聯隊被服經理ノ事ヲ管掌シ聯隊長ヲ補佐シテ聯隊一般ノ教育ニ任ス

一 修業兵ノ教頭トナリ其教育ノ事ヲ總管ス

○陸軍省令乙第百二號

各隊被服經理條例中左ノ通り改正ス

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年七月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第三條中「大隊長」ヲ「聯隊附少佐(大尉)」ト改ム

○陸軍省令乙第百三號

今般省令乙第百一號及ヒ同第百二號ヲ以テ歩砲兵聯隊附少佐並大尉之職務及ヒ各隊被服經理條例
中改正之儀相違候處右ハ逐テ該官附屬候迄ハ従前之通り心得ヘシ

明治十九年七月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第六十八號

明治十六年十一月丙第九十八號達軍樂隊概則並係給表技藝加俸表及本年四月海軍省令第二十一號海軍
軍樂隊定員ヲ廢シ海軍軍樂員條例左ノ通定ム

明治十九年七月十五日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍軍樂員條例

第一條 軍樂員ハ横須賀鎮守府ニ屬シ軍樂ニ關スル學術ヲ講究シ海軍ノ儀式禮典ニ於テ奏樂スル
コトヲ掌ル

第二條 各鎮守府各艦隊ニ要スル軍樂員ハ横須賀鎮守府ヨリ分遣スルモノトス

第三條 軍樂員ノ定員ハ左ノ如シ

軍樂師	三名
一等軍樂手	十五名
二等軍樂手	三十名
三等軍樂手	四十五名
軍樂生	三十名

- 第四條 樂器ハ許可ナクシテ營外ニ出スコトヲ禁ス故ニ外宿ノ者ト雖モ之ヲ攜帶スルコトヲ許サズ
- 第五條 軍樂手ニシテ其技藝優等ナル者ニハ技藝加俸ヲ給ス軍樂生ニシテ其技藝軍樂手ト爲スニ足ルモ缺員ナクシテ軍樂手ニ任スルヲ得サル者ニモ亦之ヲ給ス而シテ技藝退歩スルトキハ之ヲ減給ス
- 第六條 軍樂師以下平時戰時共ニ奏樂ノ外艦營ノ業務ニ服セシムルコトアル可シ
- 第七條 軍樂生ハ専ラ奏樂ノ練習ニ従事セシメ軍樂手缺員アル毎ニ任用スルモノトス故ニ艦隊又ハ鎮守府ニ分遣スルコトナシ
- 第八條 軍樂生缺員アル毎ニ志願者ヲ招募シテ之ヲ補充ス
- 第九條 軍樂生ハ辭令ヲ與フルノ日ヨリ軍樂手ニ任用スル迄ハ何等ノ事故アルモ免役スルコトナシ唯其品行不正技藝拙劣軍樂手ニ任用スル目的ナキ者ハ免役スルコトアルヘシ
- 第十條 軍樂生ヲ志願スルヲ得ル者ハ華士族平民中行狀方正ニシテ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ
 - 第一 年齡滿十四歲以上滿十八歲迄ノ者
 - 第二 身長五尺以上ノ者但十六歲未滿ノ者ハ四尺八寸以上トス
 - 第三 身體強壯齒列齊密ナル者
 - 第十一條 左ニ掲グル者ハ志願スルヲ得ス
 - 第一 身代限ノ處分ヲ受ケ辨償ヲ了ラサル者
 - 第二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 第三 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

第十二條 軍樂生ノ召募ヲ要スルトキハ鎮守府司令長官豫メ之ヲ廣告ス可シ

第十三條 志願者ハ左式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ本籍若クハ寄留地府縣廳ノ奧書證印ヲ受ケ鎮守府司令長官ニ差出ヌヘシ

願書式 川紙美濃紙
ニツ折正副
海軍軍樂生入學願

何年何月何日於何國何部何町何村生
何縣何國何部何町何番地住(寄留)
何縣華士族平民
何府主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍
何 某
年何月何日

右之者何個年期海軍軍樂生入學志願ニ付御檢査ノ上御採用被成下度此段奉願候也

東京府(神奈川縣)下何部何町何番地住(寄留)
何縣華士族平民
身元引受人 何 某印

前書之趣調查候處相違無之候也
横濱鎮守府司令長官何氏名職

年月日 何府(縣)郡(區)町(村) 姓 名 印
區(戶)長 姓 名 印

前書之通相違無之候也 府知事(縣令) 姓 名 印

履歷書式用紙

履歷書

何年何月種痘(天然痘)

何縣華士族平民

何

某

年號月何年何月

一何年月日ヨリ何年月日迄何學校(塾)ニ於テ或ハ何教師何某ニ就キ何學何科卒業(修業)

一何年何月日何々ニ依リ何賞ヲ賜ハル

一何年何月日何々ニ依リ何罰ニ處セラル

一何年何月日何業(務)ニ從事

右之通相違無之候也

東京府(神奈川縣)下何區何町何番地住(寄留)

身元引受人

何

某印

年月日

第十四條 志願者ノ身體検査ハ分隊長一名列席シ海軍醫官之ヲ行フ而シテ合格ノ者ニ非サレハ學術ヲ行ハス

第十五條 志願者ノ學術試験ハ分隊長二名以上列席シテ之ヲ行フ其科目ハ左ノ如シ

第一 讀書日本外史類

第二 作文通俗文

第三 算術四則

第十六條 志願者前條ノ試験ニ及第シタルトキハ二個月間通學セシメ突樂ノ能否ヲ實驗スルモノトス

第十七條 志願者通學中ハ修業用物品一切官費ヲ以テ給與ス

第十八條 志願者ノ突樂實驗終ル後鎮守府司令長官ハ優等ノ者ヨリ順次ニ所要人員ヲ選抜シテ軍樂生ヲ命シ願書ニ證明シタル府縣廳ヲ經テ身元引受人ニ達シ期日ヲ定メテ入營セシム

第十九條 軍樂生ハ入營ノ日ヨリ海軍ノ兵籍ニ編シ入一定ノ規則ニ依リ服役セシム故ニ其期限中ハ必ス海軍ニ從事シ決シテ他志ナキヲ表スル爲メ誓約簿ニ署名捺印セシム

第二十條 誓約簿ニ掲クル文例ハ左ノ如シ

今般海軍軍樂生被命候ニ付テハ自今御規則嚴重ニ相守リ誓テ海軍ニ從事可仕候也

年月日

姓 名 印

同

同

同

第二十一條 海軍將校其他官民ヨリ突樂ノ事ヲ請求スル者アルトキハ所管長官之ヲ許否ス但其費用ハ總テ請求者ノ自辨トス

海軍一般

○海軍省令第六十九號

海軍操砲程式別冊ノ通改定ス

但別冊ハ別ニ頒布ス (別冊略ス)

明治十九年七月十六日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第七十號

明治十五年八月乙第五號達海軍軍醫學會規則同十六年四月乙第五號達海軍主計學會規則ヲ廢ス

海軍一般 北海道廳 府縣

明治十九年七月十六日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第七十一號

海軍一般

海軍軍人内國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年七月十六日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍軍人内國旅費規則

- 第一條 海軍軍人命ヲ受ケ木邦内ヲ旅行スルトキハ本則ニ依テ旅費ヲ支給ス
- 第二條 旅費ハ左表ノ如ク官等ニ應シ分テ七等トシ順路ノ路程ニ依リ汽車賃汽船賃車馬賃及日當ヲ支給ス
- 第三條 汽車賃ハ汽車旅行汽船賃ハ汽船旅行車馬賃ハ陸路旅行日當ハ休泊料及其他ノ諸費ニ充ルルマメ之ヲ支給ス
- 第四條 汽車賃ハ哩數汽船賃ハ海里數車馬賃ハ陸里數日當ハ日數ニ應シ之ヲ支給ス但外國旅費ノ日當ヲ給スルトキハ本條ノ日當ヲ支給セシム
- 第五條 二十里外ニ涉ル旅行ハ車馬賃及日當ノ甲額ヲ支給シ二十里内ニ止ル旅行ハ其乙額ヲ支給ス汽車哩數及海上里數ハ陸路里程ノ計算ヲ以テ二十里内外ヲ區分スヘシ但第十二條及第十三條ニ依ルハキモノハ此限ニ在ラズ
- 第六條 艦船乗員旅行中本艦碇泊所ヲ轉シ第五條ノ行程距離内外ニ跨ルトキハ各片道ヲ以テ區分シ其相當ノ旅費ヲ支給ス
- 第七條 汽車賃汽船賃及車馬賃ハ其種類毎ニ經過セシ路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給ス但其一位未滿ノ端數ハ支給スルノ限ニ在ラズ
- 第八條 日當ハ陸路六里未滿汽車拾哩未滿及汽船十海里未滿ノ旅行ニハ支給セサルモノトス但公務ノ都合ニ依リ宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應シテ支給スヘシ

第九條 准士官以上艦船乗退若クハ轉乘下士卒各應艦船營ニ移轉ノトキハ車馬賃汽車賃或ハ汽船賃ノ三割ヲ増給ス

第十條 准士官以上赴任ノ旅費ハ舊任地或ハ待命地ヨリ新任地ニ到ルマテノ車馬賃汽車賃或ハ汽船賃ノ二倍ヲ支給ス

第十一條 水路地理ノ測量又ハ炭質地質ノ調査又ハ土木工事等ノマメ現場ヲ巡視スルトキハ車馬賃或ハ汽船賃ヲ支給セシム日當ニ三割ヲ増給ス但乘艦職員其本艦ニ在テ測量或ハ巡視スルトキハ本條ニ依テ支給スルノ限ニ在ラズ

第十二條 艦隊或ハ對抗運動見學或ハ學術研究等ノマメ旅行スルトキハ汽車賃及汽船賃ハ其實費ヲ支給シ車馬賃及日當ハ第五條ニ拘ハラズ其乙額ヲ支給ス

第十三條 傷痕疾病ニ罹ル下士卒海軍病院へ入院スルトキハ第十二條ニ準シ旅費ヲ支給ス退院其他施療場所移轉ノトキモ之ニ準ス但路次險惡或ハ重傷若クハ病症ニ依リ別ニ舟車若クハ肩輿等ヲ要スルトキハ所屬長官ノ認許及軍醫ノ診斷ニ依テ其實費ヲ支給ス

第十四條 官有ノ艦船車馬及官ニ於テ借入備入レ或ハ實費ヲ支拂シ舟車馬等ニテ旅行スルトキハ本則ノ汽車賃汽船賃及車馬賃ヲ支給セシム

第十五條 轉營其他行軍ニ類スル旅行ハ汽車汽船或ハ車馬若クハ草鞋ヲ要スルトキハ其實費ヲ支拂ヒ又賄料ハ其地普通ノ下等賄料ハ一日一人ニ付金五錢以内ヲ以テ其實費ヲ支拂ヒ本則ノ汽車賃汽船賃車馬賃及日當ヲ支給セシム

第十六條 待命ヲ命シタル者ハ指定ノ地ニ到ルマテノ旅費ヲ支給ス

第十七條 非職又ハ退職罷役或ハ退役免役トナリ其日ヨリ三十日以内ニ許可ヲ得テ本人ノ居室ニ歸住シ或ハ歸郷スルトキハ本官或ハ前役相當旅費額ノ四分ノ三ヲ支給ス非職若クハ退職ノ者復

職出職ノトキハ其全額ヲ支給ス

第十八條 豫備兵後備兵及歸休兵歸郷及召集ノトキハ現役相當旅費額ノ三分ノ二ヲ支給ス

第十九條 旅行中歸省其他私事ノメメ許可ヲ得テ迂路ヲ通過スルコトアルモ順路ノ路程ニ應シテ旅費ヲ支給ス

第二十條 旅行中廢官或ハ死亡若シハ職官退官ノトキハ前官相當ヲ以テ舊任地マテノ旅費ヲ支給ス

第二十一條 第十七條以下第二十條以上ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スルメメ共日數ヲ計算スルハ汽車旅行ハ一日二百哩汽船旅行ハ一日百海里諸陸路旅行ハ一日十二里計トス但距離接近ニシテ數種ノ旅行相跨ルトキハ各其路程十二分ノ一ヲ以テ一時間ノ行程トシ一日ノ旅行時間ハ十二時間トス

第二十二條 下士以上ノ官ニ新ニ任用スルメメ召喚スルモノハ其新任官相當ノ旅費ヲ支給ス

第二十三條 退職退官或ハ廢官ノ際事務引繼職務取調其他公務ノメメ旅行セシムルトキハ前官相當ノ旅費ヲ支給ス

第二十四條 第十二條以下第十五條以上ノ場合ニ於テ汽車賃及汽船賃ノ實費ヲ支給シ又ハ支拂フトキハ旅費等級四等以上ハ上等五等ハ中等六等以下ハ總テ下等トス

第二十五條 命ヲ受ケ旅行スルモ准士官以上ニシテ一身上ノ事ニ止ルモノ及下士以下ニシテ被告人トナリ召喚ヲ受ルモノハ本則ニ依テ旅費ヲ支給スルノ限ニ在ラス

第二十六條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ其旅費ヲ各年度ニ區別スヘシ但汽車賃及汽船賃ハ會計年度分界ノ日ニ拘ハラヌ其汽車及汽船出發當日ノ會計年度ニ編入スヘシ

第二十七條 第九條及第十條ニ依テ支給スル旅費ハ新任職ニ於テ支給スヘシ

第二十八條 各職兼務ニ依リ往返スル場合ニ於テ給スル旅費ハ本人到著ノ職ニ於テ支給スヘシ
第二十九條 會計ノ性質ヲ異ニスル職ヨリ借用スル職員ニ給スル旅費ハ往返共借用職ニ於テ支給スヘシ
第三十條 第二十七條第二十八條及第二十九條ニ依テ給スル旅費ノ外ハ總テ本人所屬ノ職ニ於テ支給スヘシ

海軍軍人内國旅費表

旅費區別	汽車賃				汽船賃			
	一哩毎ニ	一海里毎ニ	一里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
一等大將	金拾五錢	金拾五錢	金五拾六錢	金三拾貳錢	金四圓	金三圓	金三圓	金三圓
二等中將少將及三級監	金拾貳錢	金拾貳錢	金四拾貳錢	金貳拾四錢	金三圓	金貳圓	金貳圓	金貳圓
三等上及官	金九錢	金九錢	金貳拾八錢	金拾六錢	金貳圓	金壹圓四拾錢	金壹圓四拾錢	金壹圓四拾錢
四等士官	金九錢	金九錢	金貳拾貳錢	金拾貳錢	金壹圓四拾錢	金壹圓	金壹圓	金壹圓
五等准士官及准士官	金六錢	金六錢	金拾四錢	金八錢	金九拾錢	金七拾錢	金七拾錢	金七拾錢
六等下士	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金五拾錢	金五拾錢	金五拾錢
七等卒	金五錢	金五錢	金七錢	金六錢	金五拾錢	金四拾錢	金四拾錢	金四拾錢

○海軍省令第七十二號

海軍一般

海軍生徒及備員内國旅費規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年七月十六日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍生徒及備員内國旅費規則

第一條 生徒及傭員以下ノ軍屬ニ旅行セシムルトキハ第一表ニ從ヒ旅費ヲ支給ス
 第二條 華士族及平民ニ公務ノメメ旅行セシムルトキハ第二表ニ從ヒ旅費ヲ支給ス
 第三條 生徒ニ給メル旅費ノ支給法ハ海軍軍人内國旅費規則中其率ニ準ス但兵學校機關學校醫學
 校及主計學校ノ生徒ニ汽車賃及汽船賃ノ實費ヲ支給スルトキハ總テ中等トス其實費ヲ支拂フト
 キモ亦之ニ準ス

第四條 艦船營衛夫ハ旅費額及支給法トモ總テ海軍軍人内國旅費規則中其率ニ準シテ支給ス但艦
 船營衛夫規則第十三條ニ據テ給スル旅費ハ本則ニ依ル

第五條 前各條ニ掲ル支給法ノ外ハ海軍軍人内國旅費規則其他ノ成規ニ據ルヘシ但同則中故ラニ
 官職名等ヲ掲ルモノハ此限ニ在ラス

海軍生徒及傭員内國旅費表

區 別	汽車賃		汽船賃		甲車馬賃		乙車馬賃		甲 日 當		乙 日 當	
	一哩毎ニ	一海里毎ニ	一哩毎ニ	一海里毎ニ	一哩毎ニ	一海里毎ニ	一哩毎ニ	一海里毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ	一日毎ニ
第一 生徒并事務傭員及 技術傭員 用便給仕小使傭 工及傭夫丁	金三錢	金三錢	金三錢	金三錢	金六錢	金四錢	金四錢	金四錢	金三拾錢	金三拾錢	金三拾錢	金三拾錢
第二 正七位及勲七等 以下ノ士長	金六錢	金六錢	金六錢	金六錢	金八錢	金六錢	金七拾錢	金七拾錢	金五拾錢	金五拾錢	金五拾錢	金五拾錢
無位無勲ノ士長	金五錢	金五錢	金五錢	金五錢	金七錢	金五錢	金五拾錢	金五拾錢	金五拾錢	金五拾錢	金五拾錢	金三拾錢

○海軍省令第七十三號

海軍高等武官俸給支給細則左ノ通相定ム

海軍一般

明治十九年七月十七日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍高等武官俸給支給細則

第一條 高等武官ノ俸給ハ其年俸ヲ十二分シ毎月之ヲ支給ス

第二條 俸給支給日ハ左ノ如シ其日休暇ニ當ルトキハ順延トス

一 在職俸 毎月十五日

一 待命並非職俸 毎月十七日

第三條 新任及轉任勳階増俸減俸等其當月分ノ俸給ハ總テ日割支給トス

第四條 新任ノトキハ發令ノ翌日ヨリ起算シテ其俸ヲ支給ス

第五條 轉任ノトキハ發令ノ當日マテ前任ノ俸ヲ支給シ其翌日ヨリ現任ノ俸ヲ支給ス勳階及増俸
 減俸等モ之ニ準ス

第六條 艦船乘退ニ依テ俸給ニ増減アルトキハ發令ノ日ニ拘ハラヌ現ニ乘退ノ日ヲ以テ區分ス

第七條 退職或ハ死亡若クハ退官廢官ノトキハ日割ヲ以テ計算セヌ其月ノ俸給全額ヲ支給ス但第
 二條ノ支給日ニ拘ハラヌ其際支給スヘシ

第八條 免職或ハ退職退官若クハ廢職廢官又ハ廢職廢官等ノトキ特ニ命ヲ受ケ事務引繼或ハ殘務
 取調等ニ從事スルモノハ其間尙ホ從前ノ俸ヲ支給ス但其擔務終了シタルトキ木官ナキモノハ第
 七條ニ準シ木官アルモノハ第五條ニ準ス

第九條 俸給ノ増減或ハ停止等ニ關スル發令アリシトキ他所在勤或ハ出張又ハ航海中ノモノハ其
 發令到達ノ日マテハ尙ホ從前ノ俸ヲ支給ス但其發令ヲ官報ニ掲載シテ布告スルモノハ此限ニ在
 ラヌ

第十條 他所在勤或ハ出張又ハ航海中第九條ノ場合ニ於テ復命セシムルモノハ其復命ヲ終ルノ日

マテ尙水從前ノ俸ヲ支給ス

第十一條 兼官或ハ兼職及兼勤ノモノハ本官或ハ本務ノ俸給ニ比較シ共多額ニ就テ支給シ其俸給ニ差異ナキモノハ本務ノ應ニ於テ支給ス

第十二條 甲俸或ハ乙俸ヲ受ル職員ノ代理或ハ心得勤務ヲ命シタルモノニハ本職員ニ準シ甲俸或ハ乙俸ヲ支給ス但兼勤ノモノハ第十一條ニ依ル

第十三條 在職俸ハ勤務場所ノ異同ニ拘ハラヌ第二條ノ支給定日所屬ノ各屬艦船營ニ於テ之ヲ支給ス

第十四條 待命並非職俸ハ會計局ニ於テ之ヲ支給ス但東京ニ在住セサルモノハ之ヲ所在地ノ支廳或ハ地方廳ニ依テ支給ス

第十五條 昇等或ハ増俸ニ依リ追給スヘキモノアルトキハ翌月ノ俸給ト共ニ之ヲ支給ス

第十六條 降等或ハ減俸其他事故アリテ追徴スヘキモノアルトキハ翌月ノ俸給ヨリ之ヲ扣除ス

第十七條 在職ヨリ待命或ハ非職ニ轉シ又ハ待命或ハ非職ヨリ在職ニ轉シタルトキハ第十八條ニ準シ其會計ヲ區分スヘシ

第十八條 會計ヲ異ニスル應ニ於テ支給ス但前應ニ於テ追徴スヘキモノアルトキハ之ヲ該應ヨリ償還スヘシ其翌日ヨリ該應ニ於テ支給ス但前應ニ於テ追徴スヘキモノアルトキハ之ヲ該應ヨリ償還スヘシ

第十九條 會計ヲ異ニスル應ニ於テ支給ス但前應ニ於テ追徴スヘキモノアルトキハ之ヲ該應ヨリ償還スヘシ但往返ノ日數モ借用日數ニ算入ス

第二十條 海上二百里以上ノ航海及陸路百里以上ノ旅行ヲ命シタルモノニハ第二條ノ支給定日ニ拘ハラヌ其際翌月マテノ俸給ヲ繰上ケ支給スルコトヲ得

第二十一條 日割計算ノ法ハ年俸ヲ十二分シ之ニ給スヘキ日數ヲ乘シ其月ノ現日數ニテ除シ以テ支給額ヲ得ルモノトス

○陸軍省令第七十四號

營外居住ノ下士卒懲罰ニ該リ營倉ニ飼スル者食料之儀自今輕營倉ハ一食金三錢五厘重營倉ハ同金貳錢ヲ目途トシ實費ヲ以テ賄フヘシ

明治十九年七月十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

海軍一般 警視廳 府縣

○海軍省令第七十四號

明治十五年八月丙第六十一號達海軍軍人軍屬虎列刺病ニ罹ル者取扱手續ヲ廢シ軍人備夫ニシテ虎列刺病ニ罹ル者取扱手續ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年七月十九日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍軍人艦船營備夫虎列刺病ニ罹ル者取扱手續

第一條 此手續ハ海軍軍人ニシテ艦船營病院學校兵舎ニ在ル者及艦船營備夫ニシテ虎列刺病ニ罹ルトキ適用スルモノトス

第二條 海軍軍人艦船營備夫艦船營學校兵舎内ニ於テ虎列刺病ニ罹ルモノアルトキハ地方設置ノ避病院ニ委託施療スヘキニ付其長ハ送狀ヲ附シ最寄警察署ニ通報シ其手ヲ以テ護送入院セシムヘシ

第三條 外出中途上或ハ旅店等ニ於テ本病ニ罹ルモノハ最寄警察署ニ通知シ其護送ヲ要求シテ地方避病院ニ入院セシムヘシ 但患者入院及死亡ノ節ハ其都度避病院ヨリ東京ニ於テハ海軍衛生部其他ニ於テハ鎮守府軍

醫部ニ通報スヘシ

- 第四條 本病ニ罹リ地方避病院ニ入院セシムルモ該院ニ於テ其治療ヲ負擔シ能ハサル場合ニ在テハ軍醫及看護手看護夫ヲシテ治療セシムヘシ
- 第五條 避病院ノ設置ナキ地方ニ於テ本病ニ罹ルモノアルトキハ艦船營等ノ長ハ最寄警察署ニ於テハ地方ニ協議シテ適當ノ避病所若シ和當ノ家屋ヲ得サルトキハ天幕ヲ用ヒテ之ヲ造ルヘシニ於テハ月長ヲシテ治療セシムヘシ
- 第六條 避病院ニ委託治療ノ患者死亡スルトキハ其死屍ハ直ニ同院ノ手ヲ以テ火葬場ヘ送り火葬シ其遺骨引取方ハ同院ヨリ東京ニ於テハ海軍衛生部其他ニ於テハ鎮守府軍醫部ニ通報シ衛生部軍醫部ニ於テハ本人勤務ノ廳ヘ右遺骨請取方取計フヘシ
- 但患者病院ニ護送ノ途中ニ於テ死亡スルモノ本條ノ手續ヲ以テ處分スヘシ
- 第七條 艦船營等ニ於テ送院ノ途ナク死亡スル者アルトキハ最寄警察署ヘ通報シ其手ヲ以テ火葬場ヘ送り火葬シ其遺骨ハ警察署ノ報知ニ依リ第六條ニ據リ取扱フヘシ
- 第八條 前條ノ如キ患者途上或ハ旅店等ニテ死亡シタルトキハ最寄警察署ニ於テ成ヘク其姓名等ノ取調ヲナシ一般人民同様ノ手續ヲ以テ火葬シ其旨東京ニ於テハ海軍衛生部地方ニ於テハ鎮守府軍醫部ニ通報シ遺骨ハ第六條ニ據リ取扱フヘシ
- 第九條 在監ノ軍人ニ於ケルモ前各條ノ手續ヲ以テ取扱フヘシ
- 第十條 艦船營等ニアリテ吐瀉スルモノヲ認ムルトキハ何人ニ限ラス直ニ軍醫ニ通報シテ診察ヲ受ケシムヘシ此症ハ軍醫ノ指揮ナク他ヘ移スヘカラス
- 第十一條 醫官ニ於テ虎列刺病ト診認スルモノアルトキハ真症類似症ニ拘ラス直ニ第二條ノ手續ニ據リ避病院ニ送ルヘシ艦船ニ在テハ陸地迄端艇若クハ備船ヲ用ヒテ送致シ警察官ニ引渡スヘシ

但患者運搬ニ際シ擔架使用ヲ要スルトキハ成ヘク古品ヲ用フヘシ又吐瀉物等ハ適當ノ器ニ容レ吐瀉物同量ノ五百倍昇水或ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ消毒ノ後之ヲ處置スヘシ

第十二條 患者運搬ニ使用シタル端艇若クハ備船ハ四十倍石炭酸水ヲ以テ洗滌シ一週間其使用ヲ禁スヘシ又擔架ハ燒却スヘシ

第十三條 疑似決シ難キ患者アルトキハ適當ノ場所ニ隔離治療シ時宜ニ由リ最寄海軍病院傳染病室ニ送致スヘシ

第十四條 航海中本病ニ罹ルモノアルトキハ「ダレンホクスル」或ハ本甲板ノ首端ヲ「カンダッス」ヲ以テ區劃シ且其裏ニ四十倍石炭酸水ニ浸シタル毛布ヲ用ヒテ病牀ヲ圍擁シ而シテ番兵ヲシテ之ヲ衛ラシメ他ト交通ヲ嚴禁スヘシ又端艇ニ「天幕」ヲ覆ヒ之ヲ艦側ニ鈞シ以テ避病所トナメコトヲ得而シテ避病所ニハ屢々二十倍石炭酸水ヲ撒布スヘシ

第十五條 送院前ニ死亡シタル患者ニハ五百倍昇水或ハ二十倍石炭酸水ニ浸シタル綿花ヲ以テ肛門ヲ栓塞シ毛布ヲ同水ニ浸シテ身體ヲ纏包スルモノトス

第十六條 艦船營等ニ於テ本病ヲ發スルモノアルトキハ之ニ近接セル者ハ上官ノ命ナク坐位ヲ移シ他人ト混同スヘカラス

第十七條 真症類似症及疑似決シ難キ患者ノ吐瀉物ヲ受容スル器ハ用ユルニ先チ二十倍石炭酸水或ハ五百倍昇水ヲ注キ用辨ノ後又更ニ之ヲ注クヘシ航海中ニ在テハ吐瀉物ハ充分ニ消毒藥ト混和ノ後洋中ニ投棄スヘシ

第十八條 前條ノ近接者ハ四十倍石炭酸水ヲ以テ全身ヲ拭ヒ沐浴シ或ハ溫湯ヲ以テ全身ヲ洗淨シ被服ハ悉皆更換セシムヘシ而シテ前ニ着シタル被服ハ消毒ノ後ニアラサレハ用ユルコトヲ許サ

ス

第十九條 前條ノ人員ハ適當ノ場所ニ二週間隔居セシメ、但軍醫ハ履隔離者ヲ診察シ其景況ニ注意スヘシ

第二十條 眞症類似症及疑似決シ難キ患者アリシ場所ハ一局部限リ遮断シ一週間嚴ニ健康人ノ出入ヲ禁シ中隔全カラサル場所ノ如キ他ニ病毒傳播ノ虞アルモノハ全所ヲ閉鎖スルコトアルヘシ

第二十一條 眞症類似症及疑似決シ難キ患者ノ上リシ厠固ハ艦船ニ在テハ二十倍石炭酸水ヲ以テ洗淨ノ後海水ヲ以テ洗滌シ尙房内ハ亞硫酸蒸法ノ比例ヲ以テシ六時間以上密閉ノ後開放スヲ施シ五十倍石炭酸水ヲ以テ洗滌スヘシ又營舎等ニ在テハ糞汁同量ノ五百倍昇汞水ヲ注キテ攪亂シ之ヲ汲取尙キ其跡及近傍ニハ二十倍石炭酸水ヲ注キテ之ヲ洗ヒ其洗水ハ汲取テ糞便ト共ニ一定ノ場所ニ送致處分シ房内ノ消毒ハ艦船ノモノニ同シ

但厠固ハ一週間其使用ヲ禁スヘシ

第二十二條 眞症類似症及疑似決シ難キ患者ノ吐瀉物海中ニ入りシトキハ其旨ヲ同港碇泊ノ艦船ニ急報スヘシ

第二十三條 吐瀉物ヲ以テ汚染セル被服器具等ハ盡ク焼却シ甲板等ノ如キ除去或ハ焼却シ難キ場所ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ洗滌スヘシ又汚染セルモ其疑アル物品等ハ四十倍石炭酸水或ハ一千倍昇汞水ノ洗滌或ハ煮沸後洗滌若クハ熱氣消毒法補氏百度以亞硫酸蒸法ヲ施ス迄適宜ノ場所ニ格護スヘシ又燒却スヘキモノニシテ艦船營等ニ於テ適宜ノ場所ナキトキハ最寄警察署ニ要求シ其手ヲ以テ處置スヘシ

第二十四條 發病者アリシ場所ハ不潔物品等除却ノ後亞硫酸蒸法ヲ施シ窓戶ヲ開放シテ五十倍石

炭酸水ヲ以テ拭淨シ尙ホ水ヲ以テ洗淨ノ後乾燥セシムヘシ

第二十五條 所在ノ物品ニシテ汚染ノ患ナク又亞硫酸瓦斯ノ爲メニ變色變質ノ虞ナキトキハ在來ノ儘蒸蒸スルヲ良トス

但洗滌等ヲ爲ス能ハス亞硫酸ノ爲メニ變色變質等ノ虞アリテ燒却ヲ要セサル物品等ハ日光強熱等適宜應用スヘシ

第二十六條 營舎等近傍ノ土地吐瀉物ノ爲メ汚染スルトキ敷石漆喰ノ如キハ二十倍石炭酸水ノ洗滌ヲ以テ足レリトスト雖モ土質ニ在テハ滲入ノ虞アルヲ以テ其部ヲ鋤去シテ上層ノ土ヲ取り不潔物ト共ニ燒却ニ附スヘシ尙ホ鋤去セル跡ハ二十倍石炭酸水ヲ以テ消毒スヘシ

○海軍省令第七十五號

海軍生徒乘艦中食料ハ在艦船營軍人軍屬食料支給定規ニ準シ支給スヘシ

明治十九年七月十九日

○海軍省令第七十六號

准士官ニシテ教官ノ職ニ從事スル者ハ一日金拾錢ノ加俸ヲ給ス

明治十九年七月十九日

○海軍省令第七十七號

若鐵治若木工教育概則左ノ通定ム

明治十九年七月二十日

若鐵治若木工教育概則

第一條 若鐵治若木工ハ橫須賀屯營ニ置キ該營及砲術練習艦ニ於テ之ヲ教育スルモノトス

第二條 新募若鐵治若木工入營スルトキハ其人員ノ多寡ニ應シ之ヲ若干號ニ分チ每號ニ適任ノ下

明治十九年七月 官令 海軍省第七十五號 第七十六號 第七十七號

士或ハ卒一名ヲ附シ先ツ左ノ事項ヲ教授セシム

- 第一 姿勢及衣服ノ著裝法
- 第二 釣床及衣櫃ノ取扱法
- 第三 武官ノ階級及敬禮式ノ要領
- 第四 練習艦及屯營規則ノ要領

第三條 若鍛冶卒業ノ學期ハ之ヲ四期ニ分テ第一期第二期ヲ各四箇月トシ第三期第四期ヲ各二箇月トシ十二箇月ヲ以テ全學科卒業ノ期トス

第四條 前條學期ノ第一期第二期工科ハ屯營ニ於テ專ラ之ヲ教授シ第三期第四期ノ工科ハ砲術練習艦ニ於テ之ヲ教授ス而シテ其課程ハ左表ノ如シ

學期	工 科	武 科
第一期	石灰木炭「コーックス」ノ使用法 鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法	銃隊操式生兵第一部第一章
第二期	鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法	船刀操法
第三期	鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法	船刀操法
第四期	鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法	銃隊操法

考備 艦船砲術各部名稱ハ第一期ニ於テ適宜ノ時間ヲ與ヘ教授シ又水泳ヲ教授スヘシ

第五條 若木工卒業ノ學期ハ之ヲ四期ニ分テ每學期ヲ三箇月トシ十二箇月ヲ以テ全學科卒業ノ期トス而シテ其課程ハ左表ノ如シ

學期	工 科	武 科
第一期	鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法	銃隊操式生兵第一部第一章
第二期	鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法	船刀操法
第三期	鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法 鑄造ノ材料ノ製法	銃隊操法

考備	期	第
艦船用グレンチングノ製造 機ノ削リ方 通落ニ重層ノ作方 「レイン」シピンノ作方 端舟用圓材ノ削リ方 手箱及衣服箱ノ製造 順益工事ノ概略 諸御筒内ノ説明及其破損修理方 甲板洗滌及洗濯桶ノ製造		第四
艦船用各部名稱及圖材及帆名稱ハ第一期課程履行中適宜ノ時間ヲ與ヘ教授シ又水泳 ヲ教授スヘシ 平面幾何圖法ハ各學期ニ分配シ之ヲ教授スルモノトス		第四
		船舶操法

第六條 若鍛冶若木工ノ課程履行中ハ適宜ノ時間ヲ定メ左ノ事項ヲ教授ス

第一 勅諭ノ大旨

第二 善行章條例海軍刑法懲罰令ノ大旨

第三 海軍ノ官等及敬禮式

第四 屯營及砲術練習艦ノ規則

第七條 若鍛冶若木工入營ノトキハ讀書算術ノ能否ヲ試ミ之ヲ知ラサル者ニハ適宜ノ時間ヲ定メ

教授ス但讀書ハ假名交リ文ヲ解シ且之ヲ作り得算術ハ分數及比例ヲ解シ得ルヲ以テ度トス

第八條 若鍛冶若木工ノ試験ハ課程毎期ノ終ニ小試験ヲ行ヒ最後學期ノ終ニ適宜ノ日數ヲ定メ復

習ヲ爲サシメ然後大試験ヲ行フモノトス

第九條 大試験ノ點數ハ各科點數十分ノ五以上ヲ得其點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ六以上ヲ得メ

ル者ヲ及第トス

第十條 大試験成績ノ算法ハ其成績ト一期間小試験成績トヲ比例シテ合算スルモノトス但小試験

成績ヲ大試験ニ算入スルノ比例ハ大試験ト同一ノ効カトス

第十一條 若鍛冶若木工大試験ニ及第スルトキハ左ノ工卒ニ進級セシム

四等鍛冶
四等木工

第十二條 若鍛冶若木工終期大試験ニ落第スルトキハ適宜ノ日數ヲ定メ復習セシメ再試験ヲ行フ

但再試験ニ落第スル者ハ復課程ヲ履行セシムルコトナシ

第十三條 若鍛冶若木工再試験ニ落第スルトキ練習艦ニ員外乗組ヲ命シ實地事業ニ使役シ乗艦ノ

日ヨリ二ヶ月以上ニ至レハ成績ヲ考ヘ第十一條ニ掲載セル工卒ニ進級セシム

第十四條 四等鍛冶四等木工ニ進級スル者ハ艦船乗組定員ノ候補トス

第十五條 若鍛冶若木工卒業期限内ト雖モ課程ヲ卒リメル者ハ大試験ヲ行フコトヲ得

○海軍省令第七十八號

明治十七年^{十二}丙第百五十五號達木工生概則丙第百五十六號達機關工生概則同十八年^三丙第十二

號達兵器工生概則ヲ廢ス

明治十九年七月二十一日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第七十九號

海軍 一般

海軍練習工概則左ノ通定ス

明治十九年七月二十一日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍練習工概則

第一條 練習工ハ練習鍛冶練習木工練習機關工ノ三種トス

第二條 艦船營長ハ所轄三等以上ノ鍛冶木工火夫ニシテ海軍下士ト爲ヌ可キ用途アル者ヲ練習工

ニ選拔シ履歷書ヲ添ヘ所管長官ニ具申シ所管長官ハ取捨ヲ加ヘ横須賀鎮守府ニ移ヌ可シ

第三條 練習工ハ左ノ諸項ニ適合ノ者ナル可シ

- 第一 年齡三十八年以下ノ者但火夫ハ三十五年以下
- 第二 行狀二等以上ノ者
- 第三 讀書ハ假名交リ文ヲ解シ且之ヲ作り得ル者
- 第四 算術ハ比例マテヲ解シ得ル者
- 第四條 練習工ノ人員ハ年々之ヲ定メ横須賀鎮守府ニ於テ試験ノ上之ヲ採用ス
- 第五條 試験合格者指定ノ人員ニ超過スルトキハ等級ノ上ナル者ヨリ順次採用ス可シ
- 第六條 練習工ニシテ卒業ノ者ハ其職務ニ從ヒ鍛冶手船匠手機關手ニ進級スルノ資格ヲ有スルモノトス
- 第七條 練習工ノ學科ハ工業學業ノ二科ニ分ツ
- 第八條 練習鍛冶ハ白金火藥庫番兵舎ニ置キ兵器製造所ニ通學セシム但學業ハ番兵舎ニ於テ教授ス
- 第九條 練習木工及練習機關工ハ横須賀屯營ニ置キ造船所ニ通學セシム但學業ハ屯營ニ於テ教授ス
- 第十條 練習鍛冶ノ學期ハ之ヲ三期ニ分チ每學期ヲ一箇年トシ三箇年ヲ以テ全學科卒業ノ期トス而シテ其課程ハ左ノ如シ

學期	學科		目
	第一學期	第二學期	
第一工業	鍊工業	鍊工業	鍊工業
第一學業	比例 軍人精神論 奧地略	鍊工業	

第十一條 練習木工ノ學期ハ之ヲ三期ニ分チ第一期第二期ヲ六箇月トシ第三期ヲ十二箇月トシ二箇年ヲ以テ全學科卒業ノ期トス而シテ其課程ハ左ノ如シ

學期	第一學期		第二學期		第三學期		科	目
	工業	學業	工業	學業	工業	學業		
	鑄造製造	比例 軍人精神論 奧地略	鑄造製造	代數學大意 幾何學大意 奧地略	造船製造	造船學大意 國史略 日本外史		

第十二條 練習機關工ハ工業ニ在テハ機械工汽罐工ノ二種ニ分ツ
第十三條 練習機關工ノ學期ハ之ヲ三期ニ分チ每學期ヲ一箇年トシ三箇年ヲ以テ全學科卒業ノ期トス而シテ其課程ハ左ノ如シ

考 備	學 期						科 目
	第 一 期		第 二 期		第 三 期		
	工	業	工	業	工	業	
陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號	鐵道業	製糖業	鐵道業	製糖業	鐵道業	製糖業	鐵道業及製糖業ハ各六ヶ月トシ第一期第二期ニ分配シテ教授ス 銅工汽罐工ト製糖業ハ各三ヶ月トシ第一期第二期ニ分配シテ教授ス 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號 陸軍省令第八十號
	機械工	汽罐工	機械工	汽罐工	機械工	汽罐工	
	立筒幾何	物理學ノ大意	立筒幾何	物理學ノ大意	立筒幾何	物理學ノ大意	
	國史略	國史略	國史略	國史略	國史略	國史略	
	國史略	國史略	國史略	國史略	國史略	國史略	
	國史略	國史略	國史略	國史略	國史略	國史略	

第十四條 每學期科目教授ヲ終ル毎ニ小試験ヲ行ヒ第三期小試験ヲ終ルノ後一週間ノ復習時間ヲ與ヘ大試験ヲ行フ而シテ大試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス
第十五條 大試験ノ點數ハ各科點數ノ十分ノ五以上ヲ得其點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ六以上ヲ得タル者ヲ及第トス

第十六條 大試験成績ノ算法ハ其成績ト小試験成績トヲ比例シテ合算スルモノトス但小試験成績ヲ大試験ニ算入スルノ比例ハ大試験ト同一ノ効力トス
第十七條 大試験ニ落第シタル者ハ二箇月間復習セシメ再試験ヲ行フコトヲ得
第十八條 練習工兵器製造所及造船所ヘ出頭中ハ同所ノ規則ニ從フ可シ
第十九條 練習工兵器製造所及造船所ヘ出頭中同所ノ規則ニ背キ或ハ不正怠慢ノ所業アルトキハ鐵道ニ在テハ兵器製造所長之ヲ番兵司令ニ木工機關工ニ在テハ造船所長之ヲ屯營長ニ通報シ屯營長番兵司令ハ之ヲ處分ス可シ

第二十條 練習鐵道ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ兵器製造所長之ヲ鎮守府司令長官ニ通報シ同官之ヲ確認シメルトキハ練習鐵道ヲ免ヌ可シ
第二十一條 練習木工練習機關工ニシテ成業ノ目途ナキ者ハ造船所長之ヲ屯營長ニ通報シ屯營長之ヲ確認シメルトキハ鎮守府司令長官ノ認可ヲ得テ練習木工練習機關工ヲ免ヌ可シ
○海軍省令第八十號
明治十八年十二月第七十八號建費須賀屯營定員別表ノ通改定ス
但別表ハ別ニ頒布ス

明治十九年七月二十三日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍一級

少 軍 醫	一	醫 師	一	醫 官	一	醫 官	一
少 主 計	一	主 計	一	主 計	一	主 計	一
合計二十五人							

機雷兵分駐兵

官 名 職 名 人員	官 名 職 名 人員	官 名 職 名 人員	官 名 職 名 人員
大 尉 分 隊 長	二	兵 官	三
機 關 手	一	水 兵	二十
警 吏	二	火 兵	二
主 別 尉	一	廚 夫	二
客	一		
合計三十三人			

備 下士以下ノ本營屯在人員ハ定員ヲ合シテ千九百人ヲ定限トス
 本表ハ最上級ヲ示スモノトス故ニ定員外屯在人員ノ減少ナルトキハ適宜減少ス可シ
 本營或ハ分營ニ屯在セルニシテ直隷隊及信務隊兵ノ數ハ各其條例規則ノ定ムル所ニ依ル

○遞信省令第十九號

船燈信號器製造販賣規則左ノ通定ム

但明治十四年八月農商務省甲第四號布達ハ廢止ス

明治十九年七月二十三日

遞信大臣 榎本武揚

船燈信號器製造販賣規則

第一條 船燈機雷發火信號器星火ヲ發スル機雷或ハ火筒信號器ヲ製造セントスル者ハ其管轄廳ヲ經テ製造品ノ見本ヲ差出シ遞信省ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 發火信號器ノ許可ヲ乞フトキハ製造人又ハ代理人各種共十箇以上ノ見本ヲ携帶シテ遞信省ノ試驗ヲ受クヘシ但試驗入費ハ出願人ヲシテ負擔セシム

第三條 遞信省ハ船燈發火信號器ノ見本ヲ合格ト見認ムルトキハ管轄廳ヲ經テ製造免許證ヲ下付スヘシ

第四條 免許製造ノ船燈發火信號器ニハ其製造人ノ氏名ヲ彫刻又ハ貼付スヘシ

第五條 免許製造ノ船燈發火信號器ヲ販賣セントスル者ハ其管轄廳ノ許可ヲ受クヘシ但免許製造人ニ於テ販賣スルハ此限ニアラス

第六條 船燈發火信號器ノ製造又ハ販賣免許ヲ受ケタル者ハ各其氏名製造所又ハ販賣所名ヲ新聞紙ニテ廣告シ且ツ其製造所販賣所ニハ看板ヲ掲クヘシ

第七條 免許製造人其籍ヲ轉シ若クハ氏名ヲ變スルトキハ管轄廳ヲ經テ免許證ノ書換ヲ願出ツヘシ但其廢業死亡ノ時ハ免許證ヲ返納スヘシ

第八條 船燈發火信號器製造人ノ員數ハ遞信省ニ於テ之レヲ制限ス其販賣人ノ員數ハ地方ノ實況ニ應シ管轄廳ニ於テ之ヲ増減スルヲ得ヘシ

第九條 遞信省又ハ地方廳ニ於テハ免許製造所及ヒ販賣所ヘ不時ニ吏員ヲ派出シ其製器ノ適否ヲ監査シ場合ニ依リ之ヲ實試スルコトアルヘシ

第十條 不合格ノ製器ハ監査官吏ニ於テ其改造ヲ命シ或ハ販賣若クハ使用ヲ停止スルコトアルヘシ

第十一條 不合格ノ船燈發火信號器ヲ製造又ハ販賣スル者アルトキハ遞信省又ハ地方廳ニ於テ其營業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

第十二條 第四條第五條ヲ犯スモノハ五拾錢以上壹圓九拾錢以下ノ科料ニ處ス

○陸軍省令第三十四號

北海道廳 府縣

陸軍隊附下士卒埋葬規則左ノ通定ム

但下士官兵卒埋葬法則ハ廢止ス

明治十九年七月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍隊附下士卒埋葬規則

- 第一條 隊附下士卒死去シタルトキハ此規則ニ依リ取扱フモノトス隊附諸工及ヒ諸生徒死去シタルトキ亦之ニ準ス但營外居住ノ者ニ在テハ此規則ニ依ルノ限ニ在ラズ
- 第二條 死體ハ陸軍一定ノ埋葬地ニ葬ルヘシ若シ遺言シテ某ノ場所ニ葬ルヲ願ヒ又ハ親族ヨリ引受ヲ願フトキハ之ヲ許スコトヲ得但遺言ノ場所遺隔ノ地ニ在テ事實行ヒ難キトキハ之ヲ許サズ
- 第三條 死去シタル者アルトキハ速ニ其所轄ノ北海道廳府縣ニ通報シ道廳府縣ヨリ親族ニ達シ若シ死體ノ引受ヲ願フ者ハ二日^{死去ノ日ヨリ起算ス}以内ニ所管ノ近衛鎮臺營所等ニ願出ツヘキ旨ヲ告ケシメ其期日内ニ願出テサルトキハ陸軍隊埋葬地ニ葬ルヘシ但傳染病等ニ因リ二日ノ期限ヲ待ツヘカラサル者ハ此限ニ在ラズ
- 第四條 死去シタル者アルトキハ埋葬料トシテ左ノ金額ヲ給ス其殘金ハ陸軍經理部ニ貯藏シ墓標朽敗ノ時建築費ニ充ツヘシ
- 一 下士及ヒ士官生徒ニハ金拾五圓
- 一 卒諸工及ヒ諸生徒ニハ金拾圓
- 第五條 死者ヲ斂スルトキハ略服ヲ著セシムルモノトス
- 第六條 陸軍隊埋葬地ノ葬法ハ神葬又ハ佛葬ノ式ヲ以テ施行スルモノトス死者遺言シテ他ノ葬法ヲ

請フト雖モ之ヲ許サズ

- 第七條 墓標ハ木柱ヲ以テ之ヲ製シ其寸法下士及ヒ士官生徒ハ高サ二尺五寸方六寸卒諸工及ヒ諸生徒ハ高サ二尺方五寸トシ其表面ニハ官位勳氏名墓ト記シ側面ニハ死去ノ年月日ヲ記スヘシ其墓標朽敗スルトキハ更ニ之ヲ製シ書法ハ舊ニ依ル
- 第八條 墓標ノ制ハ前條ニ示ス如シト雖モ定則ノ埋葬料ヲ以テ支辨シ得ヘキ地方ニ於テハ碑石ヲ建設スルモ妨ケナシ
- 第九條 陸軍隊埋葬地ニ葬リタル者ト雖モ六箇月以内ニ於テ親族故舊ヨリ改葬ヲ願フトキハ之ヲ許スコトアルヘシ
- 第十條 陸軍隊埋葬地ニハ親族故舊ヨリ燈籠水鉢等ノ建設ヲ願フト雖モ之ヲ許サズ
- 第十一條 陸軍隊埋葬地ニ葬リタル後十年ヲ經タルトキハ之ヲ合葬スルコトヲ得但埋葬地充塞シタルトキハ十年以内ト雖モ合葬スルコトアルヘシ
- 合葬シタルトキハ更ニ碑石ヲ建テ表面ニ陸軍隊人合葬之墓ト記シ右側ヨリ背面ニ連ネ官位勳氏名ヲ列記シ其各自氏名ノ左傍ニ死去ノ年月日ヲ記シ左側面ニハ何年何月何日建ト記スルモノトス
- 第十二條 陸軍隊埋葬地ノ設ケナキ地ニ在テハ近傍ノ寺院等ニ葬リ爾後若干年間ノ祭祀ヲ共葬リタル地ノ管理者ニ約シ其費用トシテ埋葬料ノ殘金ヲ給ス
- 寺院等ニ葬リタル後ハ親族ヨリ其葬リタル地ノ管理者ニ協議シ何等ノ處置ヲ爲スモ各人ノ望ニ任ス
- 第十三條 寺院等ニ葬ルトキハ第四條ニ掲ケタル埋葬料ノ外地價現入費ヲ給ス

第十四條 寺院等ニ葬リタル者ノ墓標ハ第七條第八條ニ同シ但木標ハ朽敗スルモ更ニ之ヲ製セ

第十五條 親族ノ願ニ依リ死體ヲ引渡ストキハ定則ノ如ク之ヲ歛シ白布ヲ以テ棺上ヲ覆フヘシ共棺柩及ヒ白布ノ費用ハ埋葬料ノ内ヨリ支辨シ其殘金ハ之ヲ親族ニ下付ス

第十六條 歸省中死去シタル者アルトキハ埋葬料ヲ其所轄道廳府縣ノ郡(區)役所ニ送付シ親族ニ下付シテ埋葬セシム

陸軍省令乙第百五號 陸軍隊附下士卒埋葬規則別紙ノ通定ム (別紙ハ甲第三十四號ニ同シ)

但下士官兵卒埋葬法則ハ廢止ス

明治十九年七月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第八十一號

文官公務旅行ノトキハ府縣管内外ニ拘ハラズ二十里外ニ涉ルモノハ車馬賃及日當ハ管外ノ額ヲ支給シ二十里内ニ止ルモノハ管内ノ額ヲ支給ス汽車哩數及海上里數ハ陸路里程ノ計算ヲ以テ二十里内外ヲ區分スヘシ

明治十九年七月二十六日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第八十二號

閣令第十四號内國旅費規則省令第七十一號同第七十二號内國旅費規則ニ依リ支給スル汽船賃ハ左表ノ里數ニ依リ其給額ヲ算定ス

明治十九年七月二十六日

海軍大臣伯爵大山 巖

第一

横濱ヨリ神戸ニ至ル航路

横濱	12
賀橋須	17
賀浦	54
海熱	74
田下	113
水清	191
田半	200
市四日	228
戸神	347

第二

東京ヨリ浦賀ニ至ル航路

東京	19
浦賀	25
賀橋須	30
賀浦	17

第三

東京内海ノ航路

葉千	21
津更水	21
山館	44
浦長	25
賀須橋	25
賀浦	30
崎三	39
葉千	20
渡橋	14
賀橋須	47
賀浦	80
賀須橋	20
賀浦	38
崎三	42

第四

東京永代橋ヨリ各燈臺ニ至ル航路

品川	8
羽根田	0
本燈	17
観音崎	27
剣崎	35
城ヶ島	39
野島崎	55
犬吠崎	121
金山	233
神子木島	87
石室崎	91
御前崎	122
笠島	188
陸野崎	254

第五

豆南諸島航路

利島	81
新島	91
式根島	94
神津島	101
三宅島	100
御倉島	116
神子木島	5 1/2
石室崎	7
田下	20
永代橋	81

第六

東京ヨリ父島ニ見港ニ至ル航路	08
伊豆新島	70
大島	166
内ノ島	581

第八

愛知縣下海岸航路

熱田	12	野大
田原	20	津常
四日市	31	佐須
市	34	府師
熱田	34	島篠
熱田	37	子伊
熱田	37	島久佐
熱田	38	島神
熱田	48	坂平

第十二

神戶ヨリ宇和島ニ至ル航路	82
津多度	120
治全	147
三津	165
津長	185
府別	214
分大	212
關佐賀	202
濱八幡	216
島宇和	222

第七

靜岡縣下海岸航路

水油	18 1/2	狩川
	15 1/2	田戸
	10 1/2	里瓦安
	20 1/2	子田
	20	瓦女
	37	呂津長
	10	腰ノ城
	34	崎前御
	71	坂口海
	79	賀氣
	78	所新

第九

津	106
羽島	178
矢的	177

第十

市四日	17
津	19
社神	17
鹿野川	35
津	41
市四日	44
熱田	82
熱田	80
熱田	53

第十一

和歌山川口ヨリ近港航路	30
口川藏口	30
島徳	32
戸神	44
邊田	77
島大	115
知高	

第十三

神戶ヨリ關ニ至ル航路

戸神	65
山岡	108
道尾	156
高成	218
高成	240
尾田三	
關馬	40

第十四

神戶ヨリ土佐國清水ニ至ル航路

戸神	51
島徳	142
知高	162
崎須	170
佐土浦	61

第十五

日本内海諸港航路

三津	20	須明
山岡	18	石明
戸神	80	津島
	59	島豆小庄土
	88	松高
	18	比日
	24	井津下
	70	出坂
	72	龜丸
	69	80
	68	98
	98	112

第十六

戸神	27
島ヶ笛	12 1/2
塔江	

第十七

大坂ヨリ西海諸港ニ至ル航路

大坂	14
坂川	8
堺川	82

第十八

吳ヨリ諸港航路

吳	9 1/2	島品宇
	10 1/2	島宮
147	183	戸神
108	143	關馬
27	64	ヶ波三津
90	117	分大
96	181	山岡
108	204	多博
229	289	保世佐
250	206	崎長

第十九 津度多

山岡	81	80	進ノ尾
----	----	----	-----

第二十 三津ヨリ馬關ニ至ル航路

關馬	40	61	101	92
----	----	----	-----	----

第二十三

高知縣下海岸航路

毛宿	50	知高	51	田下
	32			水清
	20			目古
	12	80		島柏
	10			地安
		90		毛宿

第二十一 自山口縣下至大分縣下航路

關馬	16	津中
	74	府別
	72	分大
	69	關賀佐
	40	島姫

第二十二 宇和島近海航路

島字和	11	島戸
	16	浦本
	10 $\frac{1}{2}$	島海
	20	明松
	81	岩岩
	87	越船
	39	城平
	44	浦嗣
		浦深
		毛宿

第二十四

佐賀關ヨリ鹿兒島ニ至ル航路

關馬	100	津油	57	島和	52	88	66
	154		106		115	110	
	202		212		210		

第二十五

馬關ヨリ長崎ニ至ル航路

關馬	60	72
多博	80	71
津唐	12	90
子呼	80	41
里伊萬	51	58
保佐	78	82
崎長	46	105
		142

第二十六 子呼 島子帽島

子呼	10
----	----

第二十七 福岡縣下海島航路

多博	0	津今
	15	島相
	24	島大
	25	島地
	23	島呂於
	42	島沖
	38	島屏川

第二十七

第二十八

壹岐對馬ニノ航路

浦ノ郷	77	86
本勝	19	28 $\frac{1}{2}$
戸平	82	54 $\frac{1}{2}$
原殿	54	81

第二十九

長崎ヨリ竹敷ニ至ル航路

島五江	55	83
同浦ノ玉	88	108
原殿	104	121
敷竹	80	108

第三十

肥後諸港航路

崎長	50
其百	03
深牛	40
津口ノ	31
關京	11
池三	45
	30
	74
	28
	48
	40
	82

第三十一

長崎ヨリ鹿兒島ニ至ル航路

崎長	66
其百	12
原島	28
津若後筑	35
川大	198
島鹿兒	178
	172
	162

第三十二

鹿兒島ヨリ石屋島ニ至ル航路

島鹿兒	202
瀬名	176
新那	418
山重八	242
垣石	615

第三十三

鹿兒島縣下海岸航路

鹿兒島	木加治	20 $\frac{1}{2}$
	川山	30
	岬田	70
	阿久	100
	島航	98
	浦内	80

第三十四

鹿兒島ヨリ各海島航路

鹿兒島	島竹	50
	島武硫	60
	島黒	71
	島子種赤	62
	島尾尾	73
	島久尾	75
	島口部永	130
	島瀬助	200
	島界也	281
	島部長永	

第三十五

沖繩縣下海島航路

那覇	港天運	44
	島米久	49
	島古宮	187
	島間良	21
	島國那與	284
	島東大	212

第三十六

馬關ヨリ小樽ニ至ル航路

關馬	208								
坂	146	327							
賀教	109	280	463						
水伏	68	194	284	453					
津直江	68	121	281	322	496				
海新	68	124	180	282	372	547			
山酒	54	116	175	229	322	413	587		
崎土	144	180	247	302	347	439	529	689	
館函	221	280	326	388	488	484	570	661	822
樽小	221	280	326	388	488	484	570	661	822

第三十七

山口縣下北海岸航路

關馬	0 $\frac{1}{2}$
畑小	11 $\frac{3}{4}$
	4
	32
	38
	38
	43
	66
	21
	77
	27
	82
	28
	63

第三十八

島根縣下海岸航路

松江	10 $\frac{3}{4}$
來安	18 $\frac{3}{4}$
子米	12 $\frac{3}{4}$
境	17
關保美	26
屋來御	30
浦笠	37
浦賀加	57
港郷西	82

第三十九

隱岐海岸航路

港郷西	17
郷士海	18
府別	25
浦ノ郷	

第四十

自教賀至近港航路

賀教	36
井坂	60
石金	34
濱小	40
鶴舞	51
津宮	45
根伊	

第四十一

新網縣下海岸航路

瀧新	30
木小	32
港夷	61
茂加	38
島生粟	197
井坂	

第四十二

船川ヨリ近港航路

川船	10 $\frac{1}{2}$
埼土	02
田酒	125
瀧新	241
木伏	141
館函	

第四十三

横濱ヨリ函館ニ至ル航路

横濱	283						
濱石	15	280					
濱萩	90	96	353				
石釜	17	96	102	360			
田山	25	32	113	119	377		
古宮	75	86	98	172	178	436	
戸八	109	169	170	188	206	272	529
館函							

第四十四

茨城縣下近海航路

茨城	87
湯平	30
子鉄川	

第四十五

宮城縣下近海航路

瀧野	8 $\frac{1}{2}$
巻ノ石	12 $\frac{1}{4}$
濱ノ折	22
山華金	33
濱ノ野	34
川女	63
仙皇	76
渡舟大	

第四十六

函館ヨリ	函館ヨリ
野邊地ニ至ル	野邊地ニ至ル
根室ヨリ	根室ヨリ
根室ニ至ル	根室ニ至ル

路	航
館	函

森青	70	60	森青	34	濱大
22	79	67	27	23	地邊野
室根	287	200	205	68	

第四十七

函館ヨリ近海航路

函館	0	岬支登枝
40	埼矢尻	根室
85	埼神白	
124	埼袋襟	
247	山脚金	
121	泉 幌	
225	岸 厚	

第四十八

青森ヨリ近海航路

森青	38	帆三
60	前松	

第四十九

根室ヨリ近海航路未測ノ地多ク他日多少改正スヘシ

室根	7 1/2	別 西
18	岬布沙納	
32	咲 花	
64	中 濱	
88	岸 厚	
64	岬床知	
115	走 綱	
128	湖間猿	

第五十

根室ヨリ千島諸島各港航路

室根	28	泊	國後島志古丹島
68	丹古科	擇 捉	島
126	保 内		
157	冠 單		
207	府飛別		
152	別 堀		
217	取 藻		

第五十一

自函館至宗谷航路

前松	42	館函
40	82	
84	116	158
20	96	170
70	70	140
152	170	187
256	287	880

第五十二

自小樽至禮文島航路

樽小	110
尻 奥	182
島尻利	140
島文禮	

備考

日本内海即チ瀬戸内ノ諸港ニ至ツテハ大汽船航路ト小汽船航路ト海里ノ差違ヲ生スルモノ多シ故ニ其小汽船ノミノ定期航海アル各港間ハ小汽船航路ニ依リ大小汽船共ニ航海スル各港間ハ大汽船航路ニ依リ算出スヘシ

表中ノ里數ハ何レモ皆各港間ノ直航路ヲ示ス故ニ若シ横濱ヨリ萩ノ濱ニ寄港シテ函館ニ至ル海里ヲ算スルニハ横濱萩ノ濱間ノモノト萩ノ濱函館間ノモノトヲ加フヘシ
横濱神戸間ノ某港ヨリ神戸馬關間ノ某港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ其神戸迄ノ里數ト神戸ヨリ某港迄ノ里數ヲ加ヘ十六里ヲ減スヘシ例ヘハ横濱廣島ノ直航路ヲ得ントセハ横濱神戸間ノ里數三百四十七里ニ神戸廣島間ノ里數百五十五里ヲ加ヘ十六里ヲ減スヘシ即チ横濱廣島間直航路四百八十六里ヲ得

神戸佐賀ノ關間ノ某港ヨリ佐賀ノ關鹿兒島間ノ某港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ其佐賀ノ關迄ノ里數ト佐賀ノ關ヨリ某港迄ノ里數ヲ加ヘ八里ヲ減スヘシ例ヘハ三津ヶ濱細島ノ直航路ヲ得ントセハ三津ヶ濱佐賀關間ノ里數五十六里ニ佐賀關細島間ノ里數六十六里ヲ加ヘ八里ヲ減スヘシ即チ三津ヶ濱細島間ノ直航路百十四里ヲ得

馬關以內ノ某港ヨリ同以外ノ某港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ其以內以外ノ里程ヲ加フルノミニニテ別ニ某港ヲ減スルニ及ハヌ例ヘハ廣島長崎ノ直航路ヲ得ントセハ廣島馬關間ノ里數百〇一里ニ馬關長崎間ノ里數百四十二里ヲ加フヘシ即チ廣島長崎間ノ直航路二百四十三里ヲ得

神戸ヨリ馬關ヲ經テ長崎ニ至ル間ノ某港ヨリ長崎鹿兒島間ノ某港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ其長崎迄ノ里數ト長崎ヨリ某港ニ至ル里數ヲ加ヘ二十里ヲ減スヘシ例ヘハ神戸ヨリ馬關ヲ經テ鹿兒島ニ至ル直航路ヲ得ントセハ神戸馬關間ノ里數二百四十里馬關長崎間ノ里數百四十二里長崎鹿兒島

間ノ里數百六十二里ヲ連加シ二十里ヲ減スヘシ即チ神戸ヨリ馬關ヲ經テ鹿兒島ニ至ル直航路五百二十四里ヲ得
東京永代橋ヨリ觀音崎外各港ノ里程ヲ算スルニハ横濱ヨリノ里程ニ十三里ヲ加フヘシ例ヘハ東京永代橋ヨリ神戸マテノ里程ヲ得ントセハ横濱神戶間三百四十七里ニ十三里ヲ加フヘシ即チ其里程三百六十里ヲ得

犬吠崎以北ノ各港ヨリ津輕海峽ヲ經テ兩羽北陸道山陰道海岸及ヒ北海道海岸各港ニ至ル直航路ヲ算スルニハ起程各港ヨリ函館ヘノ里數ト函館ヨリ到着スヘキ地ヘノ里數ヲ合セ十九里ヲ減スヘシ例ヘハ横濱ヨリ新潟ニ至ル直航路ヲ得ントセハ横濱ヨリ函館ヘノ里程五百二十九里ニ函館ヨリ新潟ヘノ里程二百四十七里ヲ加ヘ十九里ヲ減スヘシ即チ横濱ヨリ新潟ヘノ直航路七百五十七里ヲ得

○陸軍省令乙第六號

陸軍教育會議條例別冊ノ通定ム

明治十九年七月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

陸軍教育會議條例

- 第一條 陸軍教育會議ハ軍隊ノ教育ヲシテ一途ニ出テ諸學校ノ教授スル所相抵牾スルコト勿ラシメ且其進歩ヲ計ル爲メ之ヲ設ク
- 第二條 此會議ハ概テ左ニ掲グル事項ニ就キ審議ヲ遂ケ大臣ノ顧問ニ對フルモノトス
 - 一 軍隊教育ニ關スル事
 - 二 學校ノ教則ヲ審議スル事

三 學校ヲ新設シ又ハ之ヲ廢スル事

第三條 此會議ハ左ニ掲グル所ノ諸官ヲ以テ職員ヲ組織シ其下ニ書記若干名ヲ附ス

參謀本部長

諸學校長及教導團長

砲工兵會議長

陸軍省各局長

第四條 此會議ハ陸軍大臣ノ意見ヲ以テ所要ノ職員ヲ召集シ陸軍省ニ於テ之ヲ開ク

第五條 此會議ハ全般ノ教育ニ關涉スルコトアルヲ以テ文部高等官ヲシテ議事ニ參列セシムルコトアルヘシ

第六條 議長ハ議列中高級古參ノ者ヲ以テ之ニ充テ書記ハ議事ニ關係アル陸軍省中各局ノ課員ヲ以テ兼掌セシム

第七條 此會議ニ於テ經費ヲ要スルコトアルトキハ豫メ陸軍大臣ニ上申シ其許可ヲ請フヘシ

第八條 議長ハ議事ニ就キ諮問ヲ要スルコトアルトキハ所管長官ニ照會シテ各兵科各部ノ將校ヲ會議ニ出席セシムルコトヲ得

第九條 會議ニ於テ議決セシムル事件ハ議長ヨリ理由ヲ具ヘテ陸軍大臣ニ之ヲ進達スヘシ

○陸軍省令乙第六號

士官下士學術檢査規則別紙ノ通定ム

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

士官下士學術檢査規則

第一條 凡士官下士實役停年最下限ヲ超ヘタル者毎年定期檢閲ノ時期ニ於テ進級順序ヲ定ル爲メ
學術檢査ヲ施行ス

第二條 此學術檢査ノ規格ハ毎年之ヲ定メ檢査實施ノ期ヨリ六ヶ月前ニ布達スルヲ例トス
其科目概テ左ノ如シ

- 一 對策
- 一 作文製圖數學
- 一 操練
- 一 本科技術

第三條 學術檢査ノ方法點數附與ノ格例等ハ毎年檢査實施前之ヲ定メ近衛都督鎮臺司令官及東京
諸官瀝士官學術檢査委員長ニ告示ス

第四條 參謀勤務適任證書ヲ所持スル士官ハ進級ノ爲メ學術檢査ヲ行ハス又陸軍大學校修學中ノ
者ハ其學期末ノ試験ヲ以テ進級檢査ニ代用スルモノトス

第五條 士官下士ノ進級檢査ノ爲メ下調委員ヲ編制シ事務ヲ取扱ハシム共編制左ノ如シ

委員長
總務局長

委員
陸軍省各局上長官 各一名 會計局醫務
參謀本部上長官 一名 局ハ次長

陸軍省各局上長官

參謀本部上長官
時宜ニ依リ各局佐官等名ヲ增加スルコトアリ

此委員ハ檢査ノ方法及ヒ點數附與ノ格例ヲ審議決定シ陸軍大臣ニ呈シ又進級檢査ノ後近衛都

將領臺司令官等ヨリ進達シタル士官候補名簿及ヒ檢査書類ヲ審査シ決定候補名簿ノ案ヲ作ル
等ノ事ヲ取扱モノトス

第六條 士官下士學術ノ檢査ハ委員ヲ編制シテ之ヲ施行ス共編制左表ノ如シ

東京諸官瀝士官學術檢査委員編制表

委員		委員長		委員		受檢者		所管	
科	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
中	少	中	少	中	少	中	少	中	少
將	將	將	將	將	將	將	將	將	將
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
科	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
工	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
科	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
工	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
科	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
工	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
科	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
工	兵	砲	騎	步	砲	騎	步	砲	騎
參	參	參	參	參	參	參	參	參	參
謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀	謀
大	大	大	大	大	大	大	大	大	大
佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐	佐
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官

近衛都督	委員 長	兵科	委員	員	受檢者 所管
軍醫總監	一	部醫軍	一	二	陸軍省(監督補三等軍吏)
監督長	一	部吏軍部督監	一	三	陸軍省(監督補三等軍吏)
		部醫獸	獸醫監	一	陸軍省(監督補三等軍吏)
		部醫獸	騎兵科佐官	二	陸軍省(監督補三等軍吏)
		科兵憲	憲兵科大佐	一	陸軍省(監督補三等軍吏)
		科兵憲	憲兵科少佐	二	陸軍省(監督補三等軍吏)

近衛鎮臺士官學術検査委員編制表

近衛都督	委員 長	兵科	委員	員	受檢者 所管
科兵騎	騎兵大隊長	一	一	一	騎兵隊
科兵砲	砲兵大隊長	一	一	一	砲兵隊
科兵步	步兵大隊長	一	一	一	步兵隊
	步兵中隊長	二	二	二	步兵隊
	步兵小隊長	一	一	一	步兵隊

鎮臺司令官	科兵工	工兵大隊長	一	一	工兵隊
	科兵重	騎兵大隊長	一	一	騎兵隊
	部吏軍部督監	監督部長	一	一	監督部
	部醫軍	軍醫部長	一	一	軍醫部

下士學術検査委員編制表

兵科	委員 長	委員	員	受檢者 所管
科兵步	步兵聯隊長	一	一	步兵聯隊
	步兵中隊長	二	二	步兵聯隊
	步兵大隊長	一	一	步兵聯隊

備考

一 大坂砲兵方面砲兵工廠ノ尉官及ヒ工兵方面ノ尉官或ハ各監獄長副長陸軍經理部主管及ヒ隊外ノ主管ハ各其本科委員ニ於テ検査スルモノトス

二 大坂砲兵隊及ヒ仙臺砲兵隊下ニアル關馬隊尉官ノ検査ハ鐵道司令官ヲシテ行ハシム

三 憲兵隊ニ於ル委員ハ該大隊長一名參謀(佐官)三名トシ關馬主管及ヒ手長検査委員ハ參謀(佐官)二名步兵大隊長或ハ砲工兵科ノ大隊長一名ヲ以テ委員トス

四 獸醫部及ヒ隊附獸醫官ノ検査委員ハ騎兵科委員ヲシテ之ヲ行ハシム但シ近衛東京鎮臺ヲ除キ他ノ鎮臺ニ在テハ前項關馬主管委員編制法ニ依ル

騎兵	騎兵大隊長	騎兵中隊長	騎兵中隊長	騎兵	騎兵
砲兵	砲兵聯隊長	砲兵大隊長	砲兵中隊長	砲兵	砲兵
工兵	工兵大隊長	工兵中隊長	工兵小隊長	工兵	工兵
憲兵	憲兵本部長	憲兵大隊長	憲兵中隊長	憲兵	憲兵
軍	監督部長	監督部長(三等監督)	監督部長(二等監督)	監督部長	監督部長
軍	軍醫長	聯隊長或軍醫官	病院長或軍醫官(二等軍醫)	各隊	各隊
考	一階官廳ニ在テハ其兵科ニ應シテ木製ニ准シテ委員ヲ編制スルモノトス	一階官廳ノ職務工ニ在テハ騎兵科委員ヲシテ檢査セシム			

○陸軍省令乙第百八號
陸軍武官拔擢進級取扱規則別冊ノ通定ム
明治十九年七月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

陸軍武官拔擢進級取扱規則

第一條 此規則ハ陸軍武官進級條例ニ於テ定メラレタル拔擢進級ニ係ル取扱方ヲ示スモノトス

第二條 隊附佐官ハ歩兵ニ在テハ旅團長其部下大尉ノ少佐ニ少佐ノ中佐ニ中佐ノ大佐ニ陸ルヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り近衛都督鎮臺司令官ニ呈ス都督司令官ハ之ヲ取捨シ其他ノ兵科ニ在テハ親カラ之ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り而シテ更ニ各兵科ノ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

第三條 隊附尉官ハ聯隊長(獨立大)ハ其部下少尉ノ中尉ニ中尉ノ大尉ニ陸ルヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り歩兵ニ在テハ旅團長ニ呈ス旅團長ハ兩聯隊ノ名簿ヲ合シ取捨ヲ加ヘ近衛都督鎮臺司令官ニ呈ス其他ノ兵科ニ在テハ其隊長ヨリ之ヲ近衛都督鎮臺司令官ニ呈ス而シテ都督司令官ハ其部下各兵科ノ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス但曹長ノ拔擢モ此例ニ據ル

第四條 隊附下士ハ中隊長其部下上等兵ノ二等軍曹ニ二等軍曹ノ一等軍曹ニ一等軍曹ノ曹長ニ陸ルヘキ者ヲ撰ミ其才能ノ堪ル所ヲ量リ優劣ヲ定メ歩兵砲兵ニ在テハ中隊長拔擢名簿ヲ作り騎兵ハ聯隊長工兵輜重兵ハ大隊長ニ呈ス而シテ聯隊長(工兵輜重兵)ハ之ヲ點檢取捨シテ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ歩兵ニ在テハ旅團長ヲ經由シ其他ニ在テハ直チニ近衛都督鎮臺司令官ニ進達ス

第五條 士官學校教導團ノ諸隊及ヒ憲兵隊軍用電信隊測馬隊ノ佐尉官ニ在テモ第二條乃至第四條ノ例ニ準ス

第六條 隊外佐尉官ニ在テハ左ノ諸項ニ示ス如シ

一 參謀官及參謀本部陸軍部並ニ陸軍大學校ノ佐尉官ハ參謀木部次長其拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り之ヲ參謀木部長ニ呈ス木部長ハ之ヲ取捨シ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ移ス

二 陸軍省ノ佐尉官ハ其尉官ニ在テハ各局長(總務局長ニ在テハ次長)共拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り之ヲ陸軍次官ニ呈ス次官ハ之ヲ取捨シ其佐官ニ在テハ陸軍次官親カラ之ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り而シテ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

三 近衛鎮臺士官學校教導團所屬ノ佐尉官ハ都督司令官校團長其拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り更ニ隊附隊外ヲ合シ各兵科毎ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

四 戶山學校砲兵射的學校其他各官廨ノ佐尉官ハ其長官拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

第七條 隊外下士ニ在テハ左ノ諸項ニ示ス如シ

一 參謀本部陸軍部ノ下士ハ陸軍部副官陸軍大學校ノ下士ハ幹事其拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ參謀木部次長ニ進達ス

二 近衛鎮臺所屬ノ下士ハ幕僚書記ハ副官旅團書記ハ旅團參謀(旅團長ノ部可)後備軍司令部書記部區駐在官並ニ府縣駐在書記ハ後備軍司令官衛戍司令本部書記ハ衛戍司令官看守長ハ監獄長其拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り參謀長ニ差出シ參謀長ハ之ヲ取捨シ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ都督司令官ニ進達ス

三 戶山學校砲兵射的學校其他諸官廨ノ下士ハ其次官拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ其長官ニ進達ス

第八條 監督部軍吏部軍醫部獸醫部ノ上長官士官下士ニ在テハ左ノ諸項ニ示ス如シ

其一 上長官士官

一 監督部軍吏部上長官士官ハ共二三等軍吏ニ在テハ會計局長其拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り之ヲ會計局長ニ呈ス會計局長之ヲ取捨シ其上長官及監督補ニ在テハ親カラ之ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り而シテ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

二 軍醫部上長官士官ハ前項ト同一ノ法ヲ以テス只會計局長ヲ醫務局長トナスヲ異ナリトス

三 獸醫部ノ一等獸醫ニ在テハ總務局長二三等獸醫ニ在テハ騎兵局長其拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

其二 下士

一 軍吏部下士ハ會計局ニ在テハ各課長近衛鎮臺及各官廨ニ在テハ當該監督部長其拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り會計局長ニ移ス次長ハ各部ノ拔擢名簿ヲ合シ之ヲ取捨シ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ會計局長ニ進達ス

二 軍醫部下士ハ醫務局ニ在テハ各課長近衛鎮臺ニ在テハ軍醫長其拔擢スヘキ者ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り醫務局長ニ移ス次長ハ之ヲ取捨シ又各官廨ニ屬スルモノハ親カラ之ヲ撰ミ拔擢名簿ヲ作り而シテ各部ノ拔擢名簿ヲ合シ更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ醫務局長ニ進達ス

第九條 候補名簿ヲ陸軍大臣ニ進達スルハ毎年七月盡日ヲ期限トシ其停年ヲ算スルハ七月一日ヲ以テス

第十條 決定候補名簿ヲ作ルノ法ハ左ノ諸項ニ依ルモノトス

- 一 上長官ノ決定候補名簿ハ進級會議ニ於テ各所管長官ヨリ差出シタル候補名簿ニ就キ審査ヲナシ停年順序ニ從ヒ之ヲ製ス
- 二 士官ノ決定候補名簿ハ進級會議ニ於テ學術検査合格ノ者ニ就キ審査ヲナシ停年順序ニ從ヒ之ヲ製ス
- 三 下士ノ決定候補名簿ハ近衛都督鎮臺司令官其他ノ所管長官ニ於テ學術検査合格ノ者ニ就キ其優劣ヲ審査シ其列序ヲ定メ二本ヲ製シ其一本ヲ該隊長ニ下付ス
- 四 前年ノ決定候補名簿ニ登載シタル者本年ノ決定候補名簿ヲ作ルニ至ル迄補除セラレサルモノハ本年ノ決定名簿ニ於テ首位ニ置クモノトス但下士ハ此限ニアラス
- 五 已ニ決定候補名簿ニ登載スルモノハ之ヲ除カサルヲ例トス然レモ若シ進級セシムヘカラスル事由アルモノ及ヒ學術検査ニ不合格ノモノハ其長官ヨリ之ヲ具申シテ削除ヲ乞フヘシ
- 第十一條 候補名簿及拔擢名簿ハ左ノ雛形ニ依リ調製スヘシ (名簿雛形及製式略ス)

○海軍省令第八十三號

海軍一殿

海軍信號練習兵概則左ノ通定ム

明治十九年七月二十七日

海軍大臣伯爵大山 巖

- 海軍信號練習兵概則
- 第一條 信號練習兵ハ横須賀屯營新錢坐分營ニ於テ之ヲ教育スルモノトス
- 第二條 横須賀鎮守府司令長官ハ毎年一等若水兵中ヨリ適應ノ者五十名以内ヲ選抜シ之ヲ信號練習兵トナス
- 第三條 信號練習兵ノ教授ハ上等兵曹一名兵曹五名水兵二名艦内教授二名ヲシテ之ヲ掌ラシム
- 第四條 教授タル兵曹水兵ハ海軍諸信號ノ改正アルトキハ主トシテ之ヲ研究スルヲ要ス

- 第五條 信號卒業者ニシテ信號ノ職ヲ奉スル者ハ一日金四錢ノ加俸ヲ給ス
- 第六條 教授タル兵曹水兵ニハ一日金五錢ノ加俸ヲ給與ス
- 第七條 信號練習兵ハ左ノ諸項ニ適合ノ者タルヘシ
 - 一 肺質善良ナル者
 - 一 齒列齊密ナル者
 - 一 視力強健ナル者
 - 一 算術ハ四則ヲ解シ得ル者
 - 一 讀書作文ハ假字交リ文ヲ解シ及ヒ之ヲ作り得ル者
 - 一 習字ハ普通往復文ヲ書キ得ル者
- 第八條 信號練習兵ノ學期ハ之ヲ四期ニ分チ一期ヲ三箇月トシ十二箇月ヲ以テ全科卒業ノ期トス

學 期		學 科		術 科	
初 期		初 期		初 期	
讀書	教禮武武官等級徽章	算術	分數	喇叭音聲吹別	
喇叭	譜號並ニ書方	旗號	普通信號旗	旗號雛形	手旗信號
讀書	日本地圖略				
算術	小數附等				
喇叭	譜號并ニ書方			口課并ニ譜號音聲吹奏	
旗號	內國旗章			普通信號	
二 期		二 期		二 期	

考 備	三 期			四 期		
	讀書 地圖略	軍術 比例	喇叭 譯號并ニ書方	讀書 輿地略 禮儀條例	軍術 開平閉立	喇叭 喇叭譯號法
	旗號 外國旗章		旗號 萬國信號旗并ニ所用標文字			
		一般隊號及諸招呼譯吹奏 委劄信號		發光信號 萬國普通信號		

每期中適宜ノ時間ヲ以テ動論ヲ期服膺セシムヘシ
夏期ハ適宜ノ時間ヲ以テ水泳ヲ練習セシムヘシ
毎日適宜ノ時間ヲ定メ術科時間中ニ於テ短刀乘銃操法ヲ練習セシムヘシ
每期中適宜ノ時間ヲ以テ喇叭譯ノ教唱法ヲ教授スヘシ

第九條 信號練習兵ノ課程ハ每期ノ終ニ小試験ヲ行ヒ第二期小試験ヲ終ルノ後中試験ヲ行ヒ前二期ノ學術ヲ審査シ及第ノ者ハ四等水兵ニ進級セシム

第十條 第四期小試験ヲ終ルノ後二週間復習セシメ大試験ヲ行ヒ及第卒業ノ者ニハ證狀ヲ授與シ信號兵ノ候補員トス

第十一條 信號練習兵大試験ニ落第スルトキハ適宜ノ日數ヲ定メテ復習セシメ然後再試験ヲ行フ

第十二條 信號練習兵再度ノ大試験ニ落第シタルトキハ練習兵ヲ免ス

○陸軍省令乙第百九號
陸軍給與概則第一表中一等軍吏ノ俸給左ノ通改正ス
明治十九年七月二十九日
陸軍大臣伯爵大山 巖

官 職 名	等級	平均	月	額	額
	陸軍一等軍吏	一等	八拾七圓	千〇四拾四圓	額
	二等	七拾五圓	九百圓		
	三等	六拾四圓	七百六拾八圓		
	四等	五拾四圓	六百四拾八圓		
	五等	五拾圓	四一六圓	百圓	

○陸軍省令乙第百十號
一等軍吏俸給額改正ニ付現今一等給ノ者ハ四等給ニ等給ノ者ハ五等給ト心得ヘシ
明治十九年七月二十九日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百十一號
陸軍給與概則第十三章第一條中「其所管」ヲ「陣營經理部」ニ改ム
明治十九年七月二十九日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百十二號
各兵科曹長ニシテ進級條例第二十條ニ當該スル者アルハ陸軍武官拔擢進級取扱規則第八條之例ニ準シ拔擢名簿ヲ製シ之ニ所管長官ノ確認書ヲ添ヘ士官學術檢査書類ト共ニ進達スヘシ
明治十九年七月二十九日
陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百十三號
本年定期檢閲ハ十月一日ヨリ之ヲ始メ同月三十日ヲ以テ終了シ其報告ハ十一月三十日迄ニ進達ス
明治十九年七月 省令 陸軍省乙第百十號 乙第百十一號 乙第百十二號 乙第百十三號
五百三

ハシ

明治十九年七月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百十四號

明治十九年士宣下士學術檢査規格別冊之通定

明治十九年七月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

明治十九年士宣下士學術檢査規格

一此檢査ハ士宣下士ノ學術ヲ檢査スルモノニシテ其格左ノ如シ

各兵科學術檢査格

		大 中 少 尉		一 二 等 軍 曹 及 上 等 兵	
憲	對 策	兵 學 教 程	小 單 位 戰 術 論	對 策	野 外 演 習 軌 典 (步 兵)
兵	應 問	犯 罪 ノ 鑑 別 及 其 處 分	校 隊 戰 術 小 單 位	作 文	報 告 文
科	算 術	幾 何 ニ 至 ル		算 術	開 立 ニ 至 ル
步	實 地 對 策			對 策	操 典 軌 典 (步 兵)
兵	算 術	幾 何 ニ 至 ル		算 術	開 立 ニ 至 ル
騎	圖 上 對 策			對 策	操 典 軌 典 (騎 兵)
兵	算 術	幾 何 ニ 至 ル		算 術	開 立 ニ 至 ル
科	目 算 測 圖			路 上 測 圖	

砲	圖 上 對 策	砲 科 教 程		對 策	砲 兵 學 講 本
兵	算 術	幾 何 ニ 至 ル		算 術	幾 何 ニ 至 ル
工	圖 上 對 策	永 久 築 城 教 程		對 策	操 典 第 二 版 三 三 四 卷 砲 時 築 城 教 程
兵	算 術	幾 何 ニ 至 ル		算 術	幾 何 ニ 至 ル
重 砲	對 策	獨 乙 戰 時 精 重 砲 務 規 則 書 及 同 附 錄		對 策	精 重 兵 操 典
兵	算 術	幾 何 ニ 至 ル		算 術	開 立 ニ 至 ル
科	目 算 測 圖			路 上 測 圖	
考 備					
監 督 部 學 術 檢 査 格					
監 督 部 學 術 檢 査 格					
監 督 部 學 術 檢 査 格					
監	對 策	徵 發 令 同 單 務 務 例 思 案 令		對 策	徵 發 令 同 單 務 務 例
對 策	幾 何 ニ 至 ル	職 時 會 計 服 務 規 則		對 策	步 兵 砲 兵 內 務 規 則
算 術	幾 何 ニ 至 ル			算 術	幾 何 ニ 至 ル
簿 記 法	官 省 簿 記			簿 記 法	官 省 簿 記
軍 醫 部 學 術 檢 査 格					
一 等 軍 醫	對 策	傳 染 病 裁 判 規 則		對 策	傳 染 病
二 三 等 軍 醫	對 策	傳 染 病		作 文	傳 染 病 保 護
五 百 五					

應 問	衛生論	防府外科論	應 問	衛生論	防府外科論	應 問	扶率須知
試 術	眼科検査 電機用法 顯微鏡検査	試 術	外科器械用法 顯微鏡検査	試 術	耳鏡喉鏡用法	試 術	外科手術後ノ處置
對 策	一 等 藥 劑 官	對 策	二 三 等 藥 劑 官	對 策	無機化學	對 策	二 三 等 看 護 長
應 問	有機化學	應 問	有機化學	應 問	有機化學	應 問	扶率須知 看護卒教科主要原本 藥劑器械ノ部 器械略論
試 術	蒸餾化學	試 術	定性分析	試 術	調劑術 研磨術	試 術	調劑術 研磨術
獸醫部學術検査格							
對 策	一 等 獸 醫	對 策	二 二 等 獸 醫	對 策	一 內 外 病 醫 案	對 策	二 二 等 獸 醫
應 問	傳染病論	應 問	藥物學	應 問	藥物學	應 問	藥物學
試 術	外科	試 術	外科	試 術	外科	試 術	外科
大學校學生候補士官始審検査格							
一 大學校學生候補士官各兵本科ノ學術ヲ検査シ尙左ノ科目ヲ検査ス							
對策 砲兵教程及リ臨時築城教程							
馬術							
一 凡士官下士ノ検査ハ停年最下限 <small>本年七月一日ヲ越タル者ハ除ク</small> 留任ノ者トス 但大學校學生ハ検査ヲ爲ス							
一 軍用電信隊ノ士官下士ハ各其本科ノ學術ヲ検査シ且電信技術ヲ検査ス							
一 各兵曹長ノ進級條例第二十條ニ示ス如ク特例ヲ以テ少尉ニ進級セシムルモノハ中少尉ト同一ノ検査ヲナスモノトス砲兵火工長モ亦之ニ準ス							

一 停年最下限ヲ越タル士官中外國學翻譯及ヒ支那語學ノ検査ヲ望ム者ハ之ヲ検査ス	
一 士官下士中轉科スヘキ者ハ轉スヘキ兵科官等ノ次級ト同一ナル學術ノ検査ヲ爲ス但シ停年最下 限ヲ越タル者ト雖モ其本科ノ學術ヲ検査スルコトナシ	
但監督軍吏軍醫獸醫部等ニ於ルモ本文ニ異ナルナシ	
一 各兵科ヨリ憲兵科及ヒ輜重兵科ニ轉スルモノハ別ニ検査ヲナスコトナシ	
一 砲工兵監護砲兵諸職工長同下長騎兵蹄鐵工長同下長等ヨリ曹長又ハ一等軍曹等ニ轉任スヘキモ ノハ轉科ト同様本科學術ノ検査ヲナス	
一 文官ニシテ軍吏軍醫獸醫部ノ武官ニ轉スヘキ者ハ轉スヘキ官等ノ次級ト同一ナル検査ヲナシ尙 * 該科職務ニ必要ナル學術ヲ指定シテ諸種ノ検査ヲ行フ	
一 砲工兵上等監護監護砲兵諸職工長同下長騎兵蹄鐵工長同下長及軍樂部士官下士以下並一等有識 長ハ總テ検査ヲナスコトナシ	
一 軍吏軍醫部等諸卒ノ下士ニ拔擢スヘキ者ハ下士ト同一ナル検査ヲ爲ス	
一 實地對策及圖上對策ハ大尉ト中少尉ヲ區分シ其上官ノ職務ニ係ル事ヲ問題トス其他ノ對策ハ成 ルヘク職務上ニ必要ノ事項ヲ問題トス但上等兵ニ在テハ軍曹ト同一ノ検査ヲ爲ス可シ	
一 實地對策ハ地圖及ヒ問題ヲ與ヘ現地ニ於テ答解セシメ圖上對策ハ與フル所ノ地圖ニ就キ問題ニ 答ヘシム	
一 應問ハ筆記シテ答ヘシム講義ハ先ツ之ヲ講述セシメ其要點ヲ推問應答セシム	
一 對策作文應問筆記法問題ハ各一題トス而シテ其作文ハ職務上ニ係ル事項ヲ問題ト爲スヘシ	
一 外國學翻譯及ヒ支那語學ハ筆記シテ答ヘシム其問題ハ各一題ニシテ翻譯ハ歴史地理ノ類、語學 ハ會話トス	

一算術ハ四題トメ而シテ其答ハ何十何圓若クハ何間何尺等ノ如ク日本字ヲ以テ記シ其式ト分解ハ
詳細ナルヲ要ス

一自算測圖ハ其近郊ニ於テ約方五百米突ノ地形ヲ示シ一萬分一ニ縮寫セシム而シテ其圖ハ此範圍
ニ於テ戰術上ニ要スル地區地物ヲ明ニ描寫セシムルモノトメ
一路上測圖ハ約一千米突ノ道路ヲ指示シ一萬分一ノ縮尺ヲ以テ之ヲ寫圖セシメ道路ノ兩側各百米
突以內ノ地區地物ハ必ス描寫セシムルヲ要ス
一製圖ハ圖題ヲ與ヘ簡易ノ砲臺或ハ野堡ノ一部ヲ圖セシム
一對策作文算術、應問圖、簿記等ノ書式ハ年號月日職官姓名ヲ記シ問題ノ全文ヲ寫サシム其測圖ニ
在テハ地名ヲモ記入セシム但問題ヲ淨書スルニハ總テ鉛筆ヲ用フ可ラヌ

學術検査時限

一圖上對策、自算測圖製圖

四時間

但工兵科圖上對策ハ

五時間

一對策、作文、憲兵科應問、路上測圖、外國學

二時間

一算術、簿記法

二時三十分間

一實地對策講義應問馬術試術ハ豫メ時間ヲ定メス

○陸軍省令甲第三十五號

府 縣 州 廳

現役輜重輸卒ノ備入營期日即四月二十日後ハ結婚不相成儀ニ候處自今諸兵同様入營前ハ結婚スル
ヲ得

但本年省令甲第九號ニ據リ鄉里ニ於テ服役ノ者ハ讀法式施行前亦本文ニ同シ

明治十九年七月三十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○大藏省令第二十六號

明治十七年九月第二十四號布告大藏省證券條例ニ據リ證券ヲ發行スルトキハ日本銀行ヲシテ其事務
ヲ取扱ハレム

明治十九年八月三日

大藏大臣伯爵松方正義

○陸軍省令乙第百十五號

陸軍給與概則第一表中左之通改正及ヒ備考ヲ追加ス

明治十九年八月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第一表

一等蹄鐵工		甲	拾	五	錢	四	四	五	拾	六	錢	三	厘		
		乙	五	錢	八	厘	壹	圓	七	拾	六	錢	四	厘	
二等蹄鐵工		甲	拾	貳	錢	七	厘	三	圓	八	拾	六	錢	三	厘
		乙	五	錢				壹	圓	五	拾	貳	錢	壹	厘

備考

○蹄鐵工俸給ハ裝飾料實費支給ノ者ハ甲ノ額ヲ給シ定額ヲ以テ裝飾受負ノ者ハ乙ノ額ヲ給ス

○海軍省令第八十四號

海軍醫學校條例左ノ通定ム

明治十九年八月四日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍醫學校條例

第一章 總則

第一條 海軍醫學校ハ官制ニ掲クルモノ、外兼テ軍醫少軍醫試補ニ高等ノ學術ヲ授ク

第二章 職制

第二條 校長ハ每期大試驗成績表及通學士官ノ修學事迹表ヲ製シ之ニ意見ヲ附記シテ海軍大臣ニ呈メ可シ

第三條 教授一名校長ノ命ヲ受ケ教務主任トナリ本校ノ事務ヲ調理シ及其定則ヲ維持シ諸員ノ職務ヲ監視ス

第四條 教務主任ハ教授及監事ヲ指揮シ學術教授及紀律維持ノ方法ヲ管理シ常ニ其得失ヲ考察シ意見アル時ハ之ヲ校長ニ具申ス可シ

第五條 教務主任ハ諸表報告ヲ受領査閲シ之ヲ校長ニ出メ可シ又校長ヨリ委任ノ事件ハ處分シテ然ル後其狀況ヲ校長ニ具申ス可シ

第六條 教務主任ハ時々教場ヲ巡見シ又教授ヲ會シ授業ノ事ヲ諮議シ生徒及通學士官ノ學術進歩ノ便益ヲ圖ル可シ

第七條 教授ハ生徒及通學士官ノ教授ヲ掌リ教務ノ事ヲ調理シ又試驗ヲ行フ時ハ成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ教務主任ニ出メ可シ

第八條 監事ハ教務主任ヲ補助シテ生徒ノ勤惰及容儀品行ヲ監視シ主トシテ軍紀風紀ヲ維持スルヲ任トス

第九條 監事ハ毎朝授業時十五分前生徒ヲ整列點檢シ又時々生徒ノ寄宿所ヲ巡見シ其實況ヲ教務主任ニ報告ス可シ

第十條 計算課長ノ掌理スル事項ノ大目ハ左ノ如シ

一 經費收入金錢ノ出納豫算決算

二 需用物品ノ買辦供給

三 本校ノ庶務

四 秘密文書ノ取扱官印ノ監守

第十一條 本校官制第七條ニ掲グルル屬員ハ校長ノ命スル事務ニ服ス

第三章 生徒

第十二條 海軍軍醫生徒ハ分テ私費官費ノ二ト爲ス

第十三條 私費生徒ハ毎年二十人宛海軍出身志願ノ者ヨリ選抜ス

第十四條 官費生徒ハ定員三十人ノヲ三號ニ分チ各號ヲ十八トシ毎年一號宛前大試驗ニ及第シタル私費生徒ヨリ選抜ス

第十五條 官費生徒ハ拜命ノ日ヨリ學資トシテ毎月規定ノ金額ヲ支給ス

第十六條 生徒ノ學期ハ五期即チ五箇年トス而シテ其一期ヲ冬夏ノ二季ニ分チ冬季ハ毎年九月十五日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終リ夏季ハ毎年四月十五日ニ始リ七月三十一日ニ終ルモノトス

第十七條 生徒學期中疾病又ハ已メヲ得サル事故ニ由リ二箇月以上課程ヲ曠ミ難クシテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ次號ニ編入ス可シ

第十八條 生徒ノ學科ハ理學化學動物學植物學解剖學生理學組織學藥物學解剖學病理學內科學外科學眼科學產科學婦人病學斷訟醫學普通衛生學軍陣衛生學軍陣醫學ノ十九科トス而シテ傍ラ英學ヲ修メシム

第十九條 生徒修學中ニ受ク可キ試驗左項ノ如シ

第一 小試驗

此試験ハ毎月臨時ニ教授之ヲ行フ
第二 中試験

此試験ハ毎年冬夏二季即チ三月七月終講ヨリ二週日ノ後ニ校長臨監シ教授之ヲ行フ
第三 前大試験

此試験ハ第一期即チ就學ヨリ一箇年ノ後ニ校長臨監シ教授之ヲ行フ而シテ其科目ハ理學化學動物學植物學解剖學生理學組織學ノ七科トス
第四 後大試験

此試験ハ第四期即チ就學ヨリ四箇年ノ後ニ校長臨監シ教授之ヲ行フ而シテ其科目ハ藥物學調劑學病理學內科學外科學眼科學產科學婦人病學斷訟醫學普通衛生學ノ十科トス
第五 終期大試験

此試験ハ第五期即チ就學ヨリ五箇年ノ後ニ校長臨監シ教授之ヲ行フ而シテ其科目ハ軍陣衛生學軍人醫學病狀實驗ノ三科トス

第二十條 生徒卒業ノ順序ハ諸試験ノ成績點數ヲ合算シ其多寡ニ因リ之ヲ定ム

第二十一條 生徒大中試験及第ノ格例及其等級ヲ定ムル左項ノ如シ

第一 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分ノ八以上ヲ得タル者ヲ一級トス

第二 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分ノ六以上ヲ得タル者ヲ二級トス

第三 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ三級トス

第二十二條 生徒及第或ハ卒業ノ者ニ授與ス可キ證書左項ノ如シ

第一 及第證書

此證書ハ大中試験及第ノ者ニ授與ス

第二 卒業證書

此證書ハ終期大試験及第ノ者ニ授與ス

第二十三條 大試験及第證書及卒業證書ハ海軍大臣式場ニ臨ミ校長之ヲ授與ス

第二十四條 生徒及第ノ等級第二十一條ノ第一項ニ該當シ最高點數ヲ得タル者二名ニ褒賞ヲ授與ス

第二十五條 生徒學備優等才能拔群ニシテ前途ノ目的アル者ハ卒業ノ後外國留學ヲ命スルコトアル可シ

第二十六條 生徒前大試験ニ落第スル時ハ三箇月ノ後ニ後大試験ニ落第スル時ハ一箇年ノ後ニ更ニ試験ヲ行ヒ再ヒ落第スルキハ之ヲ免ス

第二十七條 生徒中試験ニ落第スト雖モ小試験優等ノ者又ハ第十七條ノ事故アルモ定期ノ中試験ヲ受ケタル者ニシテ特別ノ目途アレハ詮議ノ上温習時日ヲ與ヘ再試験ヲ行フコトアリ

第二十八條 落第者試験ノ法ハ其落第シタル學科ノミヲ試験スルモノトス

第二十九條 生徒學期中定式休業ハ毎年祝祭日曜日及四月一日ヨリ同十四日マテ八月一日ヨリ九月十四日マテ十二月二十八日ヨリ翌年一月七日マテトス

第三十條 生徒休業中ノ外ハ旅行或ハ歸省ヲ許サス然レモ父母看病ノ爲メ歸省スルハ此限ニ在ラズ

第三十一條 生徒疾病ニ因リ出席シ能ハサルトキハ其都度必ス身元引受人ヨリ醫師ノ診斷書ヲ添

ハ監事ニ届出可シ

第三十二條 生徒ハ自ラ之ヲ辭スルヲ許サズ然レモ一家ノ安危ニ係ル事故アル者ニ限り身元引受人ヨリ其理由ヲ詳細ニ記載シ本籍地方廳全戶皆留ノ者ノ添書ヲ以テ出願スルコトヲ得ハ其地方廳

第三十三條 生徒ニシテ左項中ノ一ニ該ル者ハ之ヲ免ス

第一 品行不貞或ハ怠惰ニシテ屢々訓戒ヲ加フルモ之ヲ改メサル者

第二 中試験ニ於テ二回續テ落第セシ或ハ大試験ニ於テ再試験ヲ行フモ尙ホ及第セサル者又ハ小試験ノ成績屢々不良ニシテ卒業ノ自途ナキ者

第三 傷疾疾病等ニ罹リ前途ノ目的ナキ者

第三十四條 生徒ニシテ第二十六條第三十二條及第三十三條ノ第一項第二項ニ據リ之ヲ免シタル者ハ其日ヨリ三十日限り身元引受人ヲシテ其學費ヲ償還セシム

第四章 通學士官

第三十五條 本校ニ於テ授業スル少軍醫少軍醫試補ハ通學セシムルモノニシテ海軍大臣之ヲ命ス大軍醫ト雖モ自己ノ願ニ依テ之ヲ許ス而シテ皆通學士官ト稱ス

第三十六條 通學士官ノ人員ハ毎年之ヲ定ムルモノトス

第三十七條 通學士官ハ修學費用其他總テ自辨タル可シ

第三十八條 通學士官ノ學期ハ左項ノ如シ

第一 少軍醫少軍醫試補ハ半期或ハ一期

第二 大軍醫ハ願ニ依ル但半期以上ニ非サレハ之ヲ許サズ

第三十九條 通學士官ノ學術課程ハ日新ノ學術海軍一般ノ衛生飲食ノ實際試驗法其他軍陣醫學等トス

第四十條 通學士官ニハ定時ニ小試験ヲ行ヒ學期ノ終ニ大試験ヲ行フ

第四十一條 大試験ニ於テ及第ノ者ニハ學術卒業證書ヲ授與ス

第四十二條 大試験ニ於テ落第ノ者ニハ尙ホ若干ノ時日ヲ與ヘ再試験ヲ行フ

第四十三條 通學士官修學中ハ疾病或ハ止ムヲ得サル事故アルニ非サレハ通學ヲ辭スルコトヲ許サズ

第四十四條 通學士官病氣不參ノ時ハ出席定時ヨリ三十分前ニ書面ヲ以テ校長ヘ届出テ若シ其六日以上ニ及フ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出可シ

○海軍省令第八十五號

自今新ニ試験ヲ經喇ハ義務ヲ命スル者ニハ一日金三錢ノ加俸ヲ給ス

明治十九年八月四日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍一般

○陸軍省令乙第百十六號

陸軍軍吏學舍條例別冊ノ通定ム

明治十九年八月六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

陸軍軍吏學舍條例

第一章 總則

第一條 陸軍軍吏學舍ハ之ヲ東京ニ置キ陸軍省會計局ノ管理ニ屬シ學生ヲ召集シ之ニ要ナル學術ヲ教授シ軍吏部士官ト爲ルヘキ者ヲ養成スル所トス

第二條 學生ハ陸軍一等書記ノ内ヨリ將來ニ望有ル者ヲ撰拔シ検査ヲ爲シ合格ノ者ヨリ採用ス

第三條 學生ハ日々通學セシメ修學上所要ノ諸器具及ヒ書籍消耗品類ハ總テ之ヲ貸與或ハ支給スヘシ

第四條 學生ハ其名稱素ヨリ原管ヲ離レハコナシト雖モ入學中ハ學舎ノ管轄ニ屬ス故ニ自己ノ願屆等總テ學舎附官僚ニ準シ又原管ヨリ各人ニ達スヘキ諸件ハ必ス學舎長ヲ經由シテ之ヲ爲スヘシ

第五條 學生ノ授業ハ概テ十月トシ毎年九月ニ始メ翌年六月ニ終ルモノトス

第六條 學生修學中ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退學スルコトヲ許サス然レモ病患等ニテ卒業ノ目途ナキ者ハ詮議ノ上退學ヲ命シ原管ニ復歸セシム

第七條 學生修學中學年期ノ央ニ於テ中試験ヲ爲シ以テ其等級列級ヲ更定ス

第八條 學生修學ヲ卒業シテ大試験ヲ行ヒ及第スル者ニハ軍吏適任證書ヲ附與シテ原管ニ復歸シ本務ニ服セシメ置キ軍吏部士官ニ缺員アルトキ其列級ニ從ヒ一旦本官ヲ免シ更ニ三等軍吏ニ任スルモノトス又落第スル者ハ其儘原管ニ歸シ本務ニ服セシム

第九條 學生卒業ノ時ニ當リ病患等ノ故ヲ以テ豫定ノ修學ヲ終ヘス大試験ヲ受クルコト能ハサル者又ハ及第シ得サル者ト認ムルトキハ詮議ノ上尙ホ若干月修學セシムルコトアリ

第十條 學生ノ召集ハ會計局長其人員及ヒ検査格例ヲ定メ陸軍大臣ノ許可ヲ得テ近衛鎮臺監督部ニ告達スヘシ

第十一條 學生召集ノ告達アレハ會計局次長及ヒ近衛鎮臺監督部長ハ管下一等書記中ニテ第二條ニ適當ナル者ヲ撰ミ検査委員ヲ設ケ検査ヲ行ヒ合格ノ者ハ其名稱ヲ表シ之ニ各自ノ考科表并ニ検査書類ヲ添テ眞チニ軍吏學舎ニ致スヘシ

第十二條 學舎長ハ前條ノ書類ヲ受領スレハ之ヲ點檢シ入學人名ヲ撰定シ自己ノ意見ヲ附シテ會計局長ニ呈メ會計局長ハ尙審査シテ之ヲ決定シ各其所管ニ通報シテ入學セシム

第二章 職制

第十三條 軍吏學舎長ハ一二等監督ヲ以テ之ニ任シ會計局長ニ屬シ學舎中一切ノ事務及ヒ學生教育ノ方法等ヲ總判シ其内規ヲ定メ學舎附諸官ヲ統轄シ其勤務能否ヲ監視ス而シテ其管掌ノ事務ニ就テハ擔保ノ責ニ任ス

第十四條 學舎長ハ會報時限ヲ定メ教官ヲ會シ諸報告ヲ受領シ諸般ノ事ヲ協議ス

第十五條 學舎長ハ時々教場ニ臨ミ諸教方ヲ檢シ學術進歩ノ狀況ヲ察シ之ヲ會計局長ニ報告スヘシ

第十六條 教官ハ監督部上長官士官若クハ軍吏部士官又ハ文官ヲ以テ之ニ充テ舎長ノ命ニ從ヒ學生ノ教授ニ任シ及ヒ教程ノ編纂會中取締ノ事ヲ擔任ス

第十七條 教官ハ學生ノ取締ヲ擔任シ學術進歩ノ狀況ヲ時々學舎長ニ報告スヘシ

第十八條 教官ノ内一名ヲシテ學舎中一切ノ事務ヲ掌ランメ其下ニ書記或ハ屬二名ヲ置キ會中ノ記錄及ヒ書籍器具消耗品等ニ係ル雜務ヲ分掌セシム

第十九條 學舎長不在ノ時ハ教官ノ内高級故參ノ者之ヲ代理ス

陸軍軍吏學舎定員表

一等監督	二等監督	三等監督	監督補	一等軍吏	二等軍吏	屬(自五等至十等)	計
命	長	一	教	官	八	助	四
						記	十
						教	五

○海軍省令第八十六號

明治十六年八月丙第七十七號適用使以下被服給與規則附錄第一表中左ノ通過加及改正ス

明治十九年八月六日

海軍大臣伯爵大山 巖

給與被服品種表用使給仕下小使ノ部靴ノ次へ左ノ二欄ヲ追加

雨	衣油	紙	給	黑色	引	廻	製
帽	雨	覆	油	紙	給	黑色	色

取者ノ部雨衣ノ次へ左ノ一欄ヲ追加

帽	雨	覆	木	給	黑色	油	塗
---	---	---	---	---	----	---	---

馬丁ノ部雨衣及帽雨履ノ品種製式左ノ通過改正

雨	衣	油	紙	給	黑色	色	
帽	雨	覆	油	紙	給	黑色	色

○海軍省令第八十七號

扶桑艦金剛艦比叡艦高雄艦葛城艦大和艦武藏艦海門艦天龍艦筑紫艦清輝艦天城艦春日艦愛宕艦摩耶艦鳥海艦赤城艦磐城艦孟春艦定員別表ノ通過改正ス

但別表ハ別ニ頒ツ (別表略ス)

明治十九年八月七日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第八十八號

淺間艦富士山艦第一回漕丸石川丸定員別表ノ通過改正ス

海軍一級

但別表ハ別ニ頒ツ (別表略ス)

明治十九年八月七日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第八十九號

浦賀屯營定員別表ノ通過改正ス

但別表ハ別ニ頒ツ (別表略ス)

明治十九年八月七日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第九十號 (官報八月九日)

横須賀鎮守府所轄浪速艦高千穂艦自今常備小艦隊ニ編入セラル此旨心得ヘン

海軍一級

○海軍省令第九十一號 (官報八月九日)

常備小艦隊比叡艦自今横須賀鎮守府所轄航海練習艦ト定メラル此旨心得ヘン

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍一級

明治十九年八月七日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第九十二號 (官報八月九日)

横須賀鎮守府所轄豫備艦警備艦自今常備艦ト定メラル此旨心得ヘン

海軍一級

明治十九年八月七日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第九十三號 (官報八月九日)

常備小艦隊清輝艦自今横須賀鎮守府所轄豫備艦ト定メラル此旨心得ヘン

海軍一級

明治十九年八月七日

海軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百十七號

各兵科士官下士轉科志願者ノ儀ハ本人ヨリ願書爲差出所管長官之レニ意見ヲ附シ將校拔擢名簿ト

同時ニ進達スヘシ

明治十九年八月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百十八號

陸軍武官進級條例第五條ニ基キ上等兵ヨリ二等軍曹ニ進級セシムル者ハ其志願者中ニ就キ拔擢スル儀ト心得フヘシ

明治十九年八月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百十九號

砲兵火工下長進級拔擢取扱ノ儀ハ隊附隊外ヲ論セヌ各砲兵方面副提理拔擢名簿ヲ作り更ニ候補名簿ヲ製シ之ニ拔擢名簿ヲ添ヘ提理ニ進達スヘシ

明治十九年八月十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百二十號

各隊行軍野營等ノ際殘營者ノ診斷等ハ近衛鎮臺並官廨ヲ論セヌ軍醫長ノ指示ニ由リ近營ノ醫官ニ於テ互ニ補助セシムヘシ

明治十九年八月十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

海軍省令第九十四號

海軍 一般

清輝艦操備艦タルノ間其定員中左表ノ人員ヲ常置ス

明治十九年八月十一日

海軍大臣伯爵大山 巖

官	名	一	職	名	人員	職	名	人員
---	---	---	---	---	----	---	---	----

大	財	分	隊	長	一	上等兵曹	一	一等水兵	四	
						一等二等兵曹	一	二等水兵	六	
大	機	關	士	機	關	手	船匠平	一	一等水兵	六
							主廚	一	二等水兵	六
合計二十八人							一等火夫	二	二等火夫	三

○陸軍省令乙第百二十一號

工兵操典第二版坑道之部卷之五別冊之通定 (別冊略ス)

明治十九年八月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令乙第百二十二號

陸軍大學校學生候補者ノ儀ハ別紙雛形ノ名簿ヲ製シ將校拔擢名簿ト同時ニ進達スヘシ

明治十九年八月十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別紙)

明	年	大	學	校	學	生	候	補	名	簿
何	年	大	學	校	學	生	候	補	名	簿
職	官	姓	名	何	兵	何	隊	何	職	何
族	籍	何	府	縣	何	族	出身	何	年	何
現	官	何	何	何	何	何	何	何	何	何
年	月	日	何	官	ニ	任	シ	何	職	ニ
年	月	日	何	職	ニ	補	ス	等	奉	職
年	月	日	何	職	ニ	任	ス	等	年	何
年	月	日	何	職	ニ	任	ス	等	年	何

見 所 長 管 所	進		退		賞		罰	
	年月日	任官	年月日	職出	年月日	何ノ賞等	年月日	何ノ罰等
	▲前表之稱學術優等ニシテ云々(以下所見ヲ記シ技擧名稱ヲ進達シタル者ナレハ其事ヲモ記スヘシ)							
▲年月日	勤 惰	才 能	體 格 ▲強弱病弱並平戰時傷處等ニテ服 務ニ堪ニルヤ否ヤヲ記スヘシ	性 質	品 行	學 術		兵 學 操典並 演習執典
						馬 學 地 理 學 砲 兵 學	築 城 學 地 理 學 砲 兵 學	
						乘 馬	語 學 文 學 作 文	數 學 地 理 學 砲 兵 學
▲職官姓名自印								

○海軍省令第九十五號

東艦日進艦風翔艦定則別表ノ通改定ヌ
但別表ハ別ニ頒ツ (別表略ス)

海軍一 般

明治十九年八月十三日

海軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省令第九十六號

比叡艦日進艦風翔艦航海練習艦タル間ノ定員別表ノ通定ヌ
但別表ハ別ニ頒ツ (別表略ス)

海軍一 般

明治十九年八月十三日

海軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省令第二百二十三號

陸軍檢閱條例第六條ニ基キ明治十九年定期檢閱ニ關スル事務ノ細則別紙ノ通定ヌ
明治十九年八月十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治十九年檢閱事務細則

- 一 檢閱條例第十六條ニ依リ行フ處ノ檢閱順次及ヒ其實施ノ方法ハ都督司令官適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- ト雖モ第一第二ノ檢閱ハ概テ兵隊ヲ整列セシメテ之ヲ行フモノニシテ一般ニ正裝ヲ用ユルモノトス
- 一 鎮臺司令官檢閱ノ爲メ營所分營等ヲ巡回スルニ當リ之ニ要スル隨行員ハ適宜ニ之ヲ定ムヘシ
- 一 檢閱條例第十六條第四ノ檢閱ニ於テ若シ之ヲ要スレハ射的用具及ヒ野外演習用トシテ銃砲彈藥及ヒ空包ヲ別途支給ス共割合左ノ如シ

- 一歩兵騎兵 一名ニ付空包六發宛
- 一砲兵 一大隊ニ付榴彈二十四發榴霰彈十二發空包二十發宛
- 一定期檢閲ニ關スル諸入費ハ總テ近衛鎮臺定額金ノ内ヲ以テ支辨ス
- 一檢閱條例第十八條ニ掲ル報告ハ其檢閱了ルノ後同條例第十六條ニ掲クル要目ノ各項ニ就キ檢閱ノ成績ヲ詳悉シ進達スルモノトス但改正ヲスヘキ事項アルハ之ヲ詳記シ都督司令官ノ意見ヲ附シ進達スヘシ
- 一定期檢閲全濟ノ上ハ各隊將校以下ヘ三日間休暇休業ヲ與フルコトヲ得ル
- 一士官學校生徒諸隊砲兵射的學校教導中隊教導團諸隊ノ檢閲ハ近衛都督ニ於テ之ヲ行フ
- 一東京憲兵隊第一團馬隊軍用電信隊ノ檢閲ハ東京鎮臺司令官ニ於テ之ヲ行フ
- 一大阪憲兵隊ノ檢閲ハ大阪鎮臺司令官第二團馬隊ノ檢閲ハ仙臺鎮臺司令官ニ於テ之ヲ行フ
- 一近衛都督鎮臺司令官諸學校教導團憲兵團馬軍用電信等諸隊ノ檢閲ニ當リテハ其時日順序等ヲ定メ豫メ其長官ニ通報スヘシ各長官ハ該隊ニ於テ平素履行セシ成績及ヒ情況ヲ悉シ都督司令官ニ通報シ檢閲ノ參考ニ供スヘシ
- 一沖繩及ヒ對馬分遣隊ノ定期檢閲ハ所管鎮臺ヨリ佐官一名監督部士官軍醫部士官各一名ヲ派遣シテ之ヲ行ハシム

○海軍省令第九十七號

春日艦豫備艦タル間ノ常置人員左表ノ通改定ス

明治十九年八月十七日

海軍一艦

海軍大臣伯爵大山 巖

官	名	職	名	人員	職	名	人員
---	---	---	---	----	---	---	----

大	尉	分	隊	長	一	上等兵曹	隊	砲	長	一	一等二等水兵	三五
						一等二等兵曹	隊	帆	長	一	一等水兵	二
大	機	關	士	機	關	主	尉	尉	宰	一	一等二等火夫	二二
						機	關	手	一	三等四等火夫	二二	
合計二十三人員												

○農商務省令第九號

蠶種微粒子病(一名黑痣病)豫防ノ爲蠶種檢査規則左ノ通相定メ原種ノ檢査ハ明治二十年檢査期ヨリ施行シ製絲用種ノ檢査ハ同二十一年檢査期ヨリ施行ス

明治十九年八月十七日

農商務大臣伯爵山縣有朋

蠶種檢査規則

- 第一條 凡ソ蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣セントスル者ハ管轄廳ニ願出テ鑑札ヲ受クヘシ
- 第二條 蠶種ヲ製造スル者ハ此規則ニ從ヒ其檢査ヲ受クヘシ
- 第三條 檢査証印ナキ蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス
- 第四條 蠶種檢査所ハ管轄廳ニ於テ管内便宜ノ地ニ之ヲ設置スヘシ
但地方ノ狀況ニ由リ巡回檢査ヲナスモ妨ケナシ
- 第五條 蠶種檢査員ハ管轄廳ニ於テ之ヲ命スヘシ
但檢査ノ方法ハ別ニ訓令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第六條 春蠶種ノ檢査ハ毎年十月一日ヨリ始メ夏蠶種秋蠶種ノ檢査期日ハ管轄廳ニ於テ適宜之ヲ

定ムルモノトス

- 第七條 蠶種ヲ製造スル者ハ春蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造額ヲ毎年七月三十一日マテニ夏蠶種秋蠶種ノ掃立枚數及ヒ製造豫算額ヲ検査期日ヨリ三十日以前ニ管轄廳ニ届出ツヘシ
- 第八條 蠶種ニハ製造人ノ住所氏名又ハ會社若クハ組合ノ名稱ヲ記シ之ヲ原種用フルモノヲ云フト製絲用種トニ區別シテ検査所ニ差出ヌヘシ
- 第九條 病毒ノ歩合原種ニ於テハ百分ノ五以下製絲用種ニ於テハ百分ノ十五以下ノモノニ検査證印ヲ付シ其以上ニ及フモノニハ都テ廢棄證印ヲ付スルモノトス
- 第十條 廢棄證印アル蠶種ハ販賣又ハ飼育スルコトヲ得ス
- 第十一條 蠶種ヲ製造シ又ハ蠶種ヲ販賣スル者廢棄メルカ他ノ管轄地ニ寄留若クハ轉籍スルトキハ其旨ヲ管轄廳ニ届出テ鑑札ヲ返納スヘシ
- 第十二條 第一條第三條第十條ニ違ヒタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

○海軍省令第九十八號

海軍主計學校條例左ノ通定ム

明治十九年八月十八日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍主計學校條例

第一章 職制

- 第一條 校長ハ毎期大試驗成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附記シ海軍大臣ニ呈ス可シ
- 第二條 先任教授暨名教務主任トナリ本校ノ事務ヲ調理シ及其定則ヲ維持シ諸員ノ職務ヲ監視ス

第三條 教務主任ハ教授及監事ヲ指揮シ學術教授及紀律維持ノ方法ヲ管理シ常ニ其得失ヲ考察シ意見アル時ハ之ヲ校長ニ具申ス可シ

第四條 教務主任ハ諸表報告ヲ受領査閱シ之ヲ校長ニ出ス可シ又校長ヨリ委任ノ事件ハ處分シテ然ル後其狀況ヲ校長ニ具申ス可シ

第五條 教務主任ハ時々教場ヲ巡見シ又教授ヲ會シ授業ノ事ヲ諮議シ生徒學術進步ノ便益ヲ圖ル可シ

第六條 教授ハ生徒ノ教授ヲ掌リ教務ノ事ヲ調理シ又試驗ヲ行フ時ハ成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附記シ教務主任ニ出ス可シ

第七條 監事ハ教務主任ヲ補助シテ生徒ノ勤惰及容儀品行ヲ監視シ主トシテ軍紀風紀ヲ維持スルヲ任トス

第八條 計算課長ノ掌理スル事項ノ大目ハ左ノ如シ

一 經費收入金錢ノ出納豫算決算

二 需用物品ノ買辦供給

三 本校ノ庶務

四 秘密文書ノ取扱官印ノ監守

第九條 本校官制第七條ニ掲クル屬員ハ校長ノ命スル事務ニ服ス

第二章 生徒

第十條 生徒ハ入校ノ日ヨリ修學ノ費用被服食料等一切官費トス

第十一條 生徒ノ人員ハ五十名ヲ以テ定限トシ之ヲ三號ニ分ツ

第十二條 生徒ノ學期ハ三期即チ三箇年トス而シテ其一期ハ毎年九月十一日ニ始リ翌年九月十日

ニ終ルモノトス

第十三條 生徒學期中疾病又ハ已ムヲ得サル事故ニ由リ課程ヲ踐ミ難クシテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ次級ニ編入ス可シ

第十四條 生徒ノ學科ハ和漢學英學數學經濟學簿記學法律學ノ六科トス

第十五條 生徒修學中ニ受ク可キ試驗左項ノ如シ

第一 小試驗

此試驗ハ臨時ニ教授之ヲ行フ

第二 大試驗

此試驗ハ每期ノ終リニ校長臨監シ教授之ヲ行フ

第三 終期大試驗

此試驗ハ第三期ノ終リニ校長臨監シ教授之ヲ行フ

第十六條 試驗ハ每科全點數十分ノ四以上ニシテ各科ヲ合算シ其全點數十分ノ七以上ヲ以テ及第トス

第十七條 生徒卒業ノ順序ハ諸試驗ノ成績點數ヲ合算シ其多寡ニ因リ之ヲ定ム

第十八條 生徒及第或ハ卒業ノ者ニ授與ス可キ證書左項ノ如シ

第一 及第證書

此證書ハ每期大試驗及第ノ者ニ授與ス

第二 卒業證書

此證書ハ終期大試驗及第ノ者ニ授與ス

第十九條 及第證書及卒業證書ハ海軍大臣式場ニ臨ミ校長之ヲ授與ス

第二十條 生徒及第中最高點數ヲ得タル者二名ニ褒賞ヲ授與ス

第二十一條 生徒大試驗及終期大試驗ニ落第セシ者ハ次級ニ編入シ尙修學セシム可シ

第二十二條 生徒大試驗及終期大試驗ニ落第スト雖モ小試驗優等ノ者又ハ第十三條ノ事故アルモ定期ノ大試驗ヲ受ケタル者ニシテ特別ノ目途アレハ詮議ノ上温習時日ヲ與ヘ再試驗ヲ行フコトアリ

第二十三條 落第者試驗ノ法ハ其落第シタル學科ノミヲ試驗スルモノトス

第二十四條 生徒休業中ノ外ハ旅行或ハ歸省ヲ許サス然トモ父母看病ノ爲メ歸省スルハ此限ニ在ラズ

第二十五條 生徒ハ自ラ之ヲ辭スルヲ許サス然トモ一家ノ安危ニ係ル事故アル者ニ限リ身元引受

人ヨリ其理由ヲ詳細ニ記載シ本籍地方廳全戸寄留ノ者ノ添書ヲ以テ出願スルコトヲ得

第二十六條 生徒ニシテ左項中ノ一ニ該ル者ハ之ヲ免ス

第一 品行不良或ハ怠惰ニシテ屢々訓誡ヲ加フルモ之ヲ悛メサル者

第二 大試驗及終期大試驗ニ於テ二回續テ落第シタル者又ハ小試驗ノ成績屢不良ニシテ卒業ノ目途ナキ者

第三 傷痕疾病等ニ罹リ前途ノ目的ナキ者

第二十七條 生徒ニシテ第二十五條及第二十六條ノ第一項第二項ニ據リ之ヲ免シタル者ハ其日ヨリ三十日限リ身元引受人ヲシテ其學資ヲ償還セシム

○海軍省令第九十九號

龍驤艦抗波艦雷電艦千代田形艦定員別表ノ通政定ス

但別表ハ別ニ頒ツ (別表略ス)

明治十九年八月十八日

海軍大臣伯爵大山 巖

海軍一級

五百二十九

明治十九年八月 省令 海軍省第九十九號

五百二十九

○遞信省令第二十號

遞信管理局
電信分局

電信建築官官制ヲ定ムルコト左ノ如シ

遞信大臣榎本武揚

明治十九年八月十九日

電信建築官官制

第一條 電機ノ施設及修築ノ工事ヲ修理スル爲メ遞信管理區ヲ若干部ニ分テ電信局長ノ管理ニ屬セシム

第二條 各遞信管理區及ヒ其各部ニ職員ヲ置クコト左ノ如シ

建築主事 一人 技術官

建築手 若干人 技術官

建築主計 一人 屬

但便宜之ヲ置カサルコトアルヘシ

第三條 主事ハ事ヲ電信局長ニ承ケ其區内ノ建築事務ヲ掌理ス

第四條 主事ハ其區内ヲ巡視シ線路機械及電池ノ良否ヲ検査スヘシ

第五條 主事及建築手ハ斷線其他非常急務ノ場合ニ於テハ伺ヲ經ス直ニ其區及部内ニ出張スルヲ得

第六條 主事事故アルトキハ其區内高級ノ建築手ヲシテ代理セシムヘシ

第七條 主事ハ其區内ノ事務ヲ電信局長ニ報告スルモノトス

第八條 建築手ハ事ヲ主事ニ承ケ各一部内ノ建築事務ニ従事ス

第九條 主計ハ主事ノ命ヲ承ケ區内ノ會計事務ニ従事ス

第十條 但主計ヲ置カサル區内ノ會計事務ハ主事及建築手ニ於テ之ヲ擔任スヘシ
主事ハ其區内ノ會計事務ヲ會計局長ニ報告スルモノトス

○海軍省令第百號

海軍一般

本年七月省令第七十二號海軍高等武官俸給支給細則第十一條ニ左ノ通但書ヲ追加ス

明治十九年八月二十日

海軍大臣伯爵大山 熾

但參謀官及教官ノ職ヲ兼ルモノニ給スル加給ハ其兼務ノ職ニ於テ支給スヘシ

○海軍省令第百一號

海軍一般

鎮守府司令長官及軍港司令官退任スルトキハ之ニ對シ禮砲條例及敬禮式ニ掲グルノ外左ノ禮式ヲ爲スヘシ

鎮守府司令長官

- 一 在港ノ艦船營ヨリ儀仗兵トシテ銃隊一大隊途次或ハ上陸場出迎
- 二 軍港司令官參謀長艦船營長鎮守府各部長參謀部職員市外或ハ上陸場出迎
- 三 鎮守府所轄在港諸兵及軍樂隊途次或ハ上陸場出迎
- 四 軍艦港外出迎
- 五 將校准將校禮服伺候

軍港司令官

- 一 艦船營長軍港司令部職員軍港司令官所轄各部ノ長市外或ハ上陸場出迎
- 二 軍港司令官所轄將校禮服伺候

明治十九年八月二十日

海軍大臣伯爵大山 熾

○大藏省令第二十七號

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

明治十九年八月二十四日

大藏大臣伯爵松方正義

- 第一項 酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出ヘシ
- 第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳ヘ届出ヘシ
- 第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ
- 第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セントキハ其管廳ニ届出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

- 第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル
- 第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

○海軍省令第百三號

海軍一般

明治十九年八月二十五日

海軍大臣伯爵大山 巖

初任服料支給定規

第一條 士官及准士官初任ノトキハ製服料トシテ一度限り左表ニ從ヒ會計局ニ於テ其金額ヲ支給ス

士	官一准	士	官
金 五拾圓	金 四拾圓		

第二條 少尉候補少機關士試補少軍醫試補少主計試補ハ准士官ト同一ノ金額ヲ支給ス

第三條 轉任ニ因リ其服ノ制式ヲ異ニスル者ハ初任ニ準シ其十分ノ七ヲ支給ス

○海軍省令第百三號

海軍一般

明治十七年八月二十五日 丙第百七十六號達若水兵教育概則第三條課程表中第二期ニ船鎗操法第三期第四期ニ船刀操法ヲ加フ

明治十九年八月二十五日

海軍大臣伯爵大山 巖

○外務省令第一號 (官報 八月三十日)

交際官并領事費用條例細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年七月十二日

外務大臣伯爵井上 馨

交際官並領事費用條例細則

第一章 在勤年俸

第一條 條例第一條ニ載スル在勤年俸日割支給ノ計算ハ其年ノ現日數ヲ以テ除シ割り得タル額ヲ日數ニ乘シ支給スヘシ

第二條 妻携帶ノ公使領事參事官書記官等御用有之歸朝被命任地出發ノ際其妻病氣其他不得已事故有之同伴シ難キトキハ其事柄ヲ具シ其妻ノ出發延期ヲ外務省ヘ申請スヘシ外務省ニ於テ右ノ申請ヲ至當ト認ルトキハ其夫任地出發スルモ妻尙滞在スルトキハ妻携帶費ヲ支給スルコアルヘシ

第二章 出發前俸給

第三條 條例第三條出發前俸給ハ始テ在勤ヲ命セラレタル者ニ限り支給シ歸朝中他所ヘ在勤替ヲ命セラル、モノハ滯京日給ノ外ニ海外移轉費ヲ給シ出發前俸給ヲ給セヌ尤歸朝滯京中委任ヨリ

勅任ニ轉シ再ヒ赴任スル者ハ始メテ在勤ヲ命セラレタルモノ、例ニ依リ出發前ノ俸給ヲ支給スヘシ

第四條 公使領事參事官書記官在勤中許可ヲ得テ妻ヲ呼寄スル者ハ官等相當ノ出發前俸給ノ二割増ヲ支給ス可シ

第三章 旅中俸給

第五條 條例第九條ノ場合ニ於テ旅中ノ日數定期ヲ超ニルトキハ外國ニ在テハ乙號表旅行雜費内國ニ在テハ本例第四號表御用滯京ノ日給ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第四章 任所替移轉諸費

第六條 在勤先ニ於テ任所替ヲ命セラレタル者ハ條例第十條俸給ノ外移轉諸費トシテ丙號表ノ金額ヲ支給スヘシ

第五章 交際費及事務所費渡切

第七條 參事官書記官等ニテ公館事務ヲ擔任スルモ臨時代理公使ノ名義ナキ者ハ代理年俸ヲ賜ハラメ交際費トシテ公使館ハ一箇年六百圓又領事館書記生ニテ領事館ノ事務ヲ擔任スルモ領事代理ノ名義ナキ者ハ手當トシテ同三百圓月割(十五日前後)ヲ以テ支給ス其他公館ノ費用ハ總テ官金ヲ以テ現費仕拂フヘシ尤モ公使領事不在中ト雖モ公館ノ費用ヲ公使領事ニテ擔任スルトキハ此限ニアラズ

第八條 副領事ニテ總領事又ハ領事管轄内ノ一地ニ常住シテ事務ヲ擔任スルトキハ事務振所借料其他一切ノ公費トシテ一箇年五百圓以上貳千五百圓以内ノ金額月割ヲ以テ(十五日前後)支給シ精算ニ及ハズ

第九條 各領事館ニ於テ其事務多端或ハ事故アリテ特ニ臨時交際費用ヲ要スルトキハ五百圓以上

千圓以内ノ金額ヲ臨時給與スルコトアルヘシ

第十條 歐洲在勤ノ公使兼任國へ滯留スルトキハ旅行雜費ノ外臨時交際費トシテ兼任地着翌日ヨリ同地出發前日迄ヲ限リ一日英貨壹磅ヲ其日數ニ應シ支給スヘシ

第六章 公館雇人

第十一條 公館ニ於テ事務ノ都合ニヨリ書記通譯等ノ爲メ外國人ノ雇入ヲ必要トナストキハ一箇ニ一人ヲ限リ許可シ其給料ハ外務省ニ於テ之レヲ定ム依テ雇入ノ節ハ其事情及給額ヲ定メ前以テ外務省へ申請スヘシ但雇入ノ事情ニヨリ申請ノ暇ナキトキハ一時月期ヲ以テ雇入其情狀具ニ外務省へ申出ヘシ勿論雇入ノ給料公使館ハ一箇月四百圓以内領事館ハ同貳百圓以内タルヘシ

第十二條 公館雇員ノ内不時缺員アルトキハ外務省ニ申請シ我國人ヲ雇入ルコトヲ許サズ但雇入ノ給料ハ歐米各國ニ在テハ一箇月英貨貳拾磅以内亞細亞地方ハ銀貨五拾圓以内タル可シ

第七章 妻并從者旅費

第十三條 許可ヲ得テ妻ヲ携帶スル者ニハ任所往復及ヒ在勤中兼任國往復并任所替ノトキニ限リ妻ノ旅費トシテ甲號表ニ照シ航行費ノ一等陸路費ノ上等ヲ支給スヘシ

第十四條 許可ヲ得テ從者一人ヲ携フル者公使ニハ任所往復及在勤中兼任國往復並任所替ノトキ領事參事官書記官ニハ任所往復並任所替ノトキニ限リ其從者ノ旅費トシテ甲號表ニ照ラシ航行費ノ二等陸路費ノ中等ヲ支給スヘシ

第十五條 妻並從者ニシテ其夫又ハ其主ト同行シ難キ事故アリテ單行スルトキハ任所往復一次ニ限リ航行費及陸路費ヲ支給スヘシ

但御用歸朝及賜暇歸朝ノ節ハ其都度之レヲ支給スヘシ

第十六條 公館附雇書記外國人公用ニテ在留國內外及公使兼任國ニ旅行スルモ妻並從者ノ旅費ハ

支給セサルヘシ

第八章 航行費並陸路費

第十七條 航行費並陸路費ハ船車賃旅具運搬費解人足賃等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス
第十八條 航行費並陸路費ハ赴任歸朝ノ途次交際或ハ貿易ノ景況視察ノ爲メ許可ヲ得テ他ノ公館等ニ巡迴スル者ニモ甲號表定所ノ外支給セス

第十九條 任所往復ノ途次命ヲ受ケテ他ノ公館等ニ巡迴スル者ニハ迂迴ノ距離ニ準シ航行費並陸路費ヲ支給スヘシ

第二十條 養病歸省等願ニ依リ歸朝スル者又ハ任所ニ於テ願ニ依リ免官スル者ニハ航行費並陸路費ヲ給セス

第二十一條 歸省願濟日數滿チ或ハ病氣全快歸任ノ際公用ニテ滞在ヲ命セラレ出發ヲ延期セシムル者ハ歸任一次ノ旅費ヲ支給ス

第二十二條 東京外ニ於テ拜命直ニ赴任スル者ノ旅費ハ現費支拂ノ精算ニ依テ支給スヘシ但私屬荷物運賃勅任ハ七十貫目委任ハ五十貫目判任ハ三十五貫目迄官費ヲ以テ支給ス

第二十三條 官船或ハ官ノ備船ニテ任所ニ往復スル者ハ航行費ヲ給セス官船乘組賄料トシテ勅任ハ一日壹圓五十錢委任ハ同壹圓貳拾錢判任ハ同九拾錢ヲ支給ス但官任賄ノ節ハ之レヲ給セス

第九章 在留國內外公用旅行雜費

第二十四條 旅行雜費ハ旅中賄料接待費馬車解人足賃公用郵便稅等一切ノ諸雜費ニ充ツルモノトス

第二十五條 旅行雜費ハ公使領事以下命ニ依リ其在留國內外ヲ旅行スルトキ任所出發ノ日ヨリ歸若ノ日迄（航行費ヲ要スルル口數ヲ除ク）ヲ算シ年俸ノ外乙號表ニ照ラシ其日數ニ應シテ之レヲ支給スヘシ但往復

一日ノ者ニハ之レヲ給セス

第二十六條 順路ノ船車賃ニシテ甲號表ニ定額ナキモノハ實費ヲ支給ス但實費支給ノ精算帳ニハ其金額及旅次ノ順路及發着日限ヲ記載シ其館ノ長官捺印シタル證明書ヲ添フヘシ

第二十七條 旅行雜費ハ出張先二週間（若シテ起算ヨリ）ヲ限リ全額ヲ支給シ二週間後ハ半額ヲ支給ス兼任國滞在ハ五週間（同上）ヲ限リ全額ヲ支給シ其後ハ半額ヲ支給ス但圖書捧呈等ノ爲メ兼任國政府ノ都合ニ依リ此期ヲ經過スルトキハ其事情已ムヲ得スト認定スルトキニ限り期日後ト雖モ仍ホ全額ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十八條 前條旅費等請求ノ節ハ任地出發ヨリ各地着發及滞在ノ日時等明記シタル旅中經歷書ヲ勘定書ニ添ヘ差出スヘシ

第二十九條 在勤者ノ内事務ノ都合ニヨリ外務省ノ許可ヲ得テ甲廳ノ官屬ヲシテ乙廳ニ至リ其事務ヲ執ラシムルトキハ其俸給ハ甲廳ヨリ旅費並旅行雜費ハ乙廳ヨリ支給シ留勤中ハ旅行雜費ヲ給セス但乙廳留勤中共廳ノ公用ニテ旅行スルトキハ其廳ヨリ旅費並旅行雜費ヲ支給スヘシ

第三十條 在哥爾薩港領事館管內漁場巡迴中日數ニ應シ旅行雜費ヲ支給シ且賄道具及運輸人馬賃等現場仕拂官費メアルヘシ

第十章 公使領事以下恩給并一時賜金

第三十一條 公使領事以下ノ恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ハ本例第四號表恩給并一時賜金ヲ算出スヘキ年俸額ニ依ル

第三十二條 公使領事以下海外ニ於テ死亡セシトキハ埋葬墓碑ノ費用ハ官ヨリ之レヲ支給ス

第三十三條 公館ニ充ツル爲メ借入ル、家屋ノ借料ハ年々定ムル所ノ豫算額ヲ超ニヘカラス若シ

第十一條 公館借入及移轉

此定額ヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辦トス但此條例發行前既ニ借入レ約定ヲ結ビタル家屋ニシテ借料定額ヲ超エタルモノハ其期限迄ハ條約ニ隨ヒ支給スヘシ

第三十四條 公館借入條約ハ正副二通ト爲シ其副書ヲ外務省ヘ差出スヘシ

第三十五條 公館ノ爲メ借入ル、家屋ハ備付什器ナキ家屋トス若シ什器アル家屋ヲ借受ケ夫レカ爲メ定額ヲ超過スルトキハ公使領事ノ自辦トス

第三十六條 公館移轉ノ際新舊兩館ノ借料重複スルトキハ一箇月ニ限リ官費ヲ以テ之レヲ仕拂ヒ其餘ハ公使領事ノ自費トス

第三十七條 公館ノ移轉ニ依リ手数料謝金其他新館ノ窓掛ケ敷物等總テ移轉ヨリ生スル費用ハ公館經費ヲ以テ支辦スヘシ若シ移轉ノ爲メ定額外ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ヘ具狀シ費用支出ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ移轉スヘカラス此許可ヲ得スシテ定額ヲ超過スルトキハ其超過ハ公使領事ノ自辦トス

第三十八條 公館移轉ノ際荷物運搬ノ費用ハ總テ官費ヲ以テ支辦スヘシ

第十二章 公館備付品料目買上代價額並修理

第三十九條 公館備付品料目ハ丁號表ニ依ル

第四十條 公館諸什器買上代定額ハ歐米公使館ハ銀貨壹万五千六百圓清國公使館ハ同壹万三千七百圓朝鮮國公使館ハ通貨壹万貳千圓領事館ハ總テ銀貨四千圓(朝鮮國領事館ハ通貨)公館創立ノ際一度限リ之レヲ支給スヘシ

第四十一條 公館備付ノ諸什器ハ官費ヲ以テ修理若シハ買足ヲ爲シタルモノト公使領事ノ自費ヲ以テ修理スヘキモノトヲ分チ什器目錄ヲ製シ其一冊ハ外務省ニ差出シ一冊ハ公館ニ備置キ物品検査ノ用ニ供スヘシ故ニ物品缺損アルカ又ハ買足等ノ爲メ員數ニ増減ヲ生スルトキハ其時々外

務省ヘ報告ノ上目錄帳ヲ加除スヘシ

第四十二條 公館備付什器ノ官費修理ハ其定額ヲ超ユヘカラス若シ之レヲ超ユルトキハ其超過ハ公使領事ノ自費トス但年曆ヲ經タル等ニテ修理費定額ニ超過スヘキトキ及公使領事自費ヲ以テ修理スヘキ什器ニテモ年曆ヲ經タル爲メ其自力ニ及ヒ難キ巨多ノ費用ヲ要スルトキハ其事由ヲ詳細外務省ニ具申スヘシ外務省於テハ其申請ヲ至當ト認ムルトキハ公使館ハ銀貨貳千圓(朝鮮國)以下領事館ハ同八百圓(朝鮮國)通貨以下ノ修理費若シハ買足料ヲ支給スルコトアルヘシ

第四十三條 公使館庭厨具及廳諸雜具ノ費用トシテ銀貨五百圓(朝鮮國)ハ公使初赴任ノ節一度限リ支給シ精算ニ及ハス

第十三章 公館經費

第四十四條 公使領事館ノ經費ニ立ツヘキ各件左ノ如シ

一 雇人料ノ内

公使領事館雇人料 裁判所及警衛并警察所ニ使役スル押丁并小使雇料ニ限ル

一 器具及圖書費ノ内

器具 丁號表一類備付ノ内公務所書房具ヲ除キ其他ノ諸器具
戒具 朝鮮國領事館ニ限ル

書籍地圖

製本費

一 被服費ノ内

巡查徽章帶具費 徽章帶劍捕筒手帕呼子笛等

(清國并朝鮮國ニ限ル)

一通信運搬費ノ内

電信料
運搬費
保險料

一住所家屋借料

公館借料
公館用地借料

一雜費ノ内

諸謝金
廣告料

諸手数料
道路疏水手當及家屋地稅等

火災保險料
爲換料

印紙料

一修繕費

家屋修繕費

一裁判及因徒費

警察及護衛費

右實費精算スヘキモノニ付證書ヲ添ヘテ之レヲ證明スヘシ

公館借入或ハ購買等ノ筋其約定書ニ付其地法律家ノ檢閱ヲ依頼スルトキ又ハ臨時
公館ヨリ訴訟若クハ要求ヲ爲サハルヘカラサル場合ニ於テ其地ノ法律取閱ニ關シ
代理人ニ依頼ス
ルトキニ限ル
帝國政府ニ屬スル家屋ノ修繕又ハ借家ナレハ契
約書ニ依リ貸主ニ於テ負擔セサル修繕ニ限ル
但テ修繕費等并材料ニ限ル
但テ修繕費等并材料ニ限ル

一雇人料ノ内

公使館雇人料
儀長、取者、馬車附添、門番、公
務所小使、芝罘番、輪夫等

一器具及圖書費ノ内

新聞雜誌類
筆紙墨文具

用紙
筆墨印肉類
硯小道具類

硯石、硯箱、硯蓋、硯汁、入、同、硯、同、引、道、具、石、硯、硯、盤、水、入、桶、入、肉、池、給、ノ、具、皿、初、記、具、筆、架、
硯、石、硯、箱、硯、蓋、硯、汁、入、同、硯、同、引、道、具、石、硯、硯、盤、水、入、桶、入、肉、池、給、ノ、具、皿、初、記、具、筆、架、
硯、石、硯、箱、硯、蓋、硯、汁、入、同、硯、同、引、道、具、石、硯、硯、盤、水、入、桶、入、肉、池、給、ノ、具、皿、初、記、具、筆、架、

諸帳簿
新製修備具

一消耗品

薪炭油茶類
雜品

一被服費ノ内

雇人被服
前項ニ細記スル雇人ノ仕被セ衣服

一通信運搬費ノ内

公用郵便稅
一切ノ郵便費不足稅及郵便發送ノ爲

一雜費ノ内

舟車馬類雇賃
馬飼料

一宴會費

天長節其他交際ニ係ル宴會諸費 但領事館ハ天長節ニ限ル

右費用ハ一箇年定額ヲ十二分シ一箇月毎ニ各科目定額ノ高ヲ拂ニ立テ過不足ヲ問ハス渡切ノ分ニ付證書ヲ添ニルニ不及又明細品名ヲ掲クルニ不及

右月費精算ノ事

但此箇條ニ明文ナキ費用ハ公使領事ノ自辦タルヘシ

第四十五條 經費金ノ内定額ヲ以テ渡切ノ費用ハ不足アルモ追給セス又餘リアルモ返納ニ及ハス

其定額金ヲ以テ彼此流用支辨スヘシ

第四十六條 經費金ノ内實費精算ノ分ハ年々外務省ヨリ通知スル處ノ豫算ニ基キ支出シ各科目ニ就テ超過セザランコトヲ豫計スヘシ

第四十七條 公館經費ノ内定額ヲ以テ渡切ノ分ハ公使領事交代ノ節事務引繼濟ノ當日ヲ以テ區分シ日割計算スヘシ

第十四章 公館非常準備金

第四十八條 公使館ハ銀貨五千圓

朝鮮國ハ通貨四千圓 領事館ハ總テ同三千圓 朝鮮國ハ通貨迄ハ非常已ムヲ得サル

トキニ限リ公使領事ニ於テ大藏省預金ノ内或ハ預金無之場所ハ其他ノ銀行ヨリ借入ルノコトヲ得ヘシ右ハ公館職員等ノ定員ニ缺員アルトキ一時雇員費及漂民窮民貸與費患者費埋葬費等ノ如キ定額外臨時ノ仕拂ニ充テ至急外務省ニ報告シ銷還ノ手續ヲ爲スヘシ但公館所在地ニ於テ借金スヘキ銀行ナキトキハ本文ノ金額ヲ豫メ送致シ置ヘシ

第四十九條 右準備金ハ大藏省ノ主管ナルヲ以テ借入等ノ手續ハ同省ノ通知ニ據リ取扱フヘシ

第十五章 回送金

第五十條 各公館經費金ハ其年額ヲ四季ニ割毎季節前大藏省ヨリ各公館ニ送達シ右送金ニ對スル

明細ノ仕譯書ハ外務省ヨリ之レヲ送付スヘシ

第五十一條 前條ノ送金ヲ受取タルトキハ直ニ大藏省金庫局長宛領收證書ヲ發シ其旨外務省ヘ報告スヘシ

第十六章 經費金出納

第五十二條 在勤員年俸ハ三箇月分ヲ其中間ノ月ノ初日 (假令ハ一月ヨリ三月迄ノ分ハ)ニ渡方取

計ヒ經費金ハ第十三章ノ科目ニ照ラン支出シ現金受拂簿等ヲ設ケテ之レカ出納ヲ明瞭ニスヘシ

第五十三條 常費外臨時費用ヲ要スルトキハ事ノ大小ヲ不論總テ外務省ヘ申請シ許可ヲ受クヘシ但非常急場ヲ要スルトキハ此限ニアラス

第五十四條 公館經費金ハ他費ヘ繰替支出スルコトヲ許サス萬一非常ノ場合ニ際シ一時繰替ヲ爲サハルヲ得サルトキハ直ニ繰替勘定帳ヲ以テ外務省ヘ報告シ償還ノ手續ヲナシ本拂ノ分ト混用スヘカラス

第十七章 經費金勘定

第五十五條 每一箇月其出納スル處ノ金員科目及ヒ事要ヲ摘記シタル精算書ヲ雛形ニ倣ヒ調製シ

翌月十五日迄ニ其地ヲ發シ外務省ニ送付スヘシ但實費精算ノ分ニ對シテハ正當請取證書寫或ハ事故アリテ請取證書ナキ分ハ其事故ヲ記シタル其館長官ノ證明書ヲ添ヘ又渡切ノ費用ハ其館長官ノ領收證書ヲ添付スヘシ

第五十六條 甲月ニ買入レタルモノ或ハ甲月ニ屬スヘキ費用ヲ乙月ニ於テ仕拂フコトヲ得ルト雖モ其勘定帳ヲ製スルニハ乙月ニ於テ現實仕拂タルニ拘ハラズ甲月分ノ勘定帳ニ記載スヘシ但借家料及ヒ保険料ノ類前拂後拂等ノ約定アルモノハ此限ニアラス

第五十七條 各館於テハ每一月共出納スル所ノ現金受拂計算書ヲ別紙縦形ニ據リ調製シ毎月精算書ト共ニ外務省ヘ差出スヘシ

第十八章 收入金及返納金

第五十八條 旅券其他諸手帳料及ヒ用品拂下代金等總テ收入金ハ一箇月分取經ノ兼テ外務省ヨリ回付シアル明細仕課書用紙ニ書載セ外務省及各主管廳ヘ報告シ現金ハ其館ニ監守大藏省ノ指揮ニ隨ヒ處分スヘシ

第五十九條 公使領事以下官員歸朝スルカ或ハ任所替ヲ命セラレタルトキハ兼テ回付シタル本人年俸金ニ對シ過不足ヲ精算シ無違滯外務省ヘ報告スヘシ尤殘餘アルトキハ預リ證書ヲ以テ返納ノ手續ヲ爲スヘシ但任所替ノ者ハ便宜之レヲ新任所ヘ轉送スルモ妨ケナシ

第六十條 年度末ニ至リ經費金等殘餘ヲ生スルトキハ預リ證書ヲ以テ其年度末期勘定帳差出ノ節共ニ返納スヘシ

第十九章 雜

第六十一條 官金ハ其公館ヘ堅牢ナル器物ヲ備ヘ貯藏スルカ或ハ信用アル銀行ヘ預ケ置ク等便宜ニ任スト雖モ銀行ヘ預ケ入ル、トキハ其銀行名等豫テ外務省ヘ報告スヘシ

第六十二條 備付什器等不用ニ屬シ拂下ケヲ爲ストキハ其品名及原價ヲ付シ前以テ同出ヘシ但拂下ケ代金ハ他費ヘ仕用スルヲ許サズ

第六十三條 公使領事館ヘ各省屬ヨリ依頼スル注文品代價ハ其依頼廳ノ通知額ヲ目途ニ其地最寄ニアル正金銀行支店ヨリ金額ヲ引出シ依頼廳ニ向テ逆爲換ヲ取組之レカ償還ノ手續ヲナシ經費金等ヲ以テ繰替ヲ爲スヘカラズ

第六十四條 清國或ハ朝鮮國ニ在ル公使館若クハ領事館ニ雇ノ名義ヲ以テ在勤スル者ハ費用條例

ニ據ラズ左ノ通支給ス

一 在勤俸給ハ時々之レヲ定ム

一 本邦ニテ拜命ノ者ニ限リ出發前支度料トシテ在勤俸ノ一箇月分ヲ支給ス

一 滯京及旅中ノ俸給ハ在勤俸ノ半額トス

一 航費ハ費用條例中定額アル分ハ右ノ二等ヲ給シ定額ナキ分ハ中等若クハ中等ナキトキハ下等船車賃等實費ニ基キ支給スヘシ但私用荷物運賃ハ二十貫目迄ヲ限リ官費支給スヘシ

一 航海中ノ日當ハ金六拾錢ヲ給ス但官船ニテ渡航ノ節ハ右日當ノ外賄料トシテ一日金六拾錢ヲ支給スヘシ

一 内地滯在中ハ日當金三拾五錢ヲ支給シ前款ノ航海日當ハ支給セズ

一 外國諸港ニ滯在スルトキハ一般旅費定則等外ニ準シ旅舍賄料朝鮮國ハ一日金七拾錢ヲ支給スヘシ

第六十五條 在勤中公用ニテ旅行ノ節ハ旅行雜費トシテ一日金壹圓三拾錢ヲ日收ニ應シ支給スヘシ

第六十六條 妻孥寄顧ハ本人ノ願書ニ限リ留守宅或ハ親戚等ヨリ願出ルモ之レヲ許サズ尤本人ヨリノ依頼狀等共情願ヲ證スル丈ケノモノアルトキハ此限ニアラス

甲 外國行航費定額 但船客及荷物運賃船中諸費共

從橫濱至香港	往	銀貨百〇四圓	銀貨七拾圓四拾錢
	返	佛貨五百貳拾佛	佛貨三百五拾貳佛
	一等	一人分	二人分

佛		郵		便		船	
同 至 柴 棍	往 同 百八拾五圓拾錢	返 同 九百貳拾五佛五拾山	同 同 六百九拾佛	同 至 新 嘉 坡	往 同 九百貳拾五佛五拾山	返 同 同 七百三拾五佛	同 同 六百三拾八圓
同 至 マ ニ ラ	往 同 貳百貳拾五圓七拾五錢	返 同 同 百八拾圓六拾錢	同 同 九百〇三佛	同 至 バ タ ブ イ ヤ	往 同 貳百貳拾五圓七拾五錢	返 同 同 百七拾七圓貳拾錢	同 同 八百八拾六佛
同 至 カ ル カ ッ タ	往 同 貳百九拾貳圓	返 同 同 八百八拾六佛	同 同 貳百三拾壹圓六拾錢	同 至 錫 蘭 コ ロ ソ ボ	往 同 貳百七拾六圓七拾五錢	返 同 同 千 百 〇 七 佛	同 同 千 百 〇 七 佛
同 至 マ ボ ン デ イ セ リ	往 同 貳百七拾六圓七拾五錢	返 同 同 同 貳百貳拾壹圓四拾錢	同 同 貳百〇八圓貳拾錢	同 至 亞 丁	往 同 同 同 貳百六拾壹圓六拾錢	返 同 同 同 千 〇 四 拾 壹 佛	同 同 同 同 千 〇 四 拾 壹 佛
同 至 蘇 西	往 同 三百九拾七圓五拾錢	返 同 同 同 三百拾五圓貳拾錢	同 同 同 千 貳 百 六 拾 佛	同 至 蘇 西	往 同 同 同 千 五 百 七 拾 五 佛	返 同 同 同 同 千 五 百 七 拾 六 佛	同 同 同 同 千 五 百 七 拾 六 佛

英		郵		便		船	
同 至 ボ ル ト サ イ ド	往 同 四百〇六圓	返 同 同 三百貳拾四圓	同 同 同 同 同	同 至 プ リ ン デ ン	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同
同 至 馬 耳 不 密 留	往 同 四百拾八圓七拾五錢	返 同 同 同 三百三拾四圓貳拾錢	同 同 同 同 同	同 至 エ ン ニ ス	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同
從 佛 港 至 マ ニ ラ	往 同 貳千〇九拾三佛七拾五山	返 同 同 同 千六百七拾壹佛	同 同 同 同 同	同 至 シ ン ド ネ ー	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同
從 橫 濱 至 メ ル ボ ル ン	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 至 西 蘭 港	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同
同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同
同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同
同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同
同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同
同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	同 同 同 同 同	往 同 同 同 同 同	返 同 同 同 同 同	同 同 同 同 同

明治十九年八月 省令 外務省第一號

同至朝鮮元山仁川	同	九	拾	四	圓	同	五	拾	貳	圓			
從釜山至元山	同	貳	拾	五	圓	同	拾	三	圓				
同至仁川	同	貳	拾	八	圓	同	拾	五	圓				
從上海至香港	同	九	拾	圓	同	四	拾	五	圓				
從香港至廈門	同	四	拾	七	圓	同	貳	拾	三	圓			
從上海至廈門	同	六	拾	圓	同	三	拾	圓					
從上海至天津	同	六	拾	圓	同	三	拾	圓					
從上海至漢口	同	四	拾	圓	同	貳	拾	圓					
從米國桑港至布哇ホノル	米金	九	拾	圓	米金	三	拾	貳	圓	五	拾	仙	
從米國紐約至英國リバプール	同	百	貳	拾	圓	同	五	拾	圓	貳	圓		
從瑞典マルモ至丁抹コペンハーゲン	銀貨	六	拾	錢	銀貨	五	拾	錢					
從丁抹コルセル至德國キール	同	四	圓	六	拾	錢	同	壹	圓	八	拾	錢	
從露國マコー港至瑞典ストックホルム	同	拾	四	圓	貳	拾	錢	同	九	圓	貳	拾	錢
同陸路旅費定額 但汽車并荷物運賃等一人分ノ算計ナリ													
上 等 中 等													
從佛國馬耳塞至同國リオン	銀貨	拾	四	圓	銀貨	拾	壹	圓					
同至同國巴黎府	同	三	拾	五	圓	同	貳	拾	七	圓			
從佛國リオン至同國巴黎府	同	貳	拾	壹	圓	同	拾	六	圓				

從佛國巴黎府至英國倫敦府	同	貳	拾	五	圓	同	拾	九	圓		
同至和蘭海牙府	同	貳	拾	四	圓	同	拾	五	圓		
同至漢國維也納府	同	五	拾	九	圓	同	四	拾	三	圓	
同至漢國トリエヌト	同	五	拾	九	圓	同	四	拾	三	圓	
同至伊國羅馬府	同	六	拾	六	圓	同	四	拾	九	圓	
同至伊國ミラン	同	四	拾	圓	同	三	拾	圓			
同至伊國ウエニハス	同	五	拾	貳	圓	同	三	拾	九	圓	
同至伊國ブリンゼン	同	七	拾	六	圓	同	五	拾	四	圓	
同至伊國フロレンス	同	五	拾	三	圓	同	三	拾	八	圓	
同至伊國ナール	同	七	拾	七	圓	同	五	拾	五	圓	
同至伊國チエリン	同	三	拾	三	圓	同	貳	拾	五	圓	
同至伊國ゼーヌア	同	五	拾	貳	圓	同	三	拾	九	圓	
同至瑞西國ベルメ府	同	貳	拾	三	圓	同	拾	七	圓		
同至瑞西國チエーリヒ	同	貳	拾	四	圓	同	拾	八	圓		
同至瑞西國ゼーウ	同	貳	拾	六	圓	同	拾	九	圓		
同至瑞典ストックホルム	同	七	拾	圓	同	五	拾	四	圓		
同至丁抹コペンハーゲン	同	四	拾	五	圓	同	三	拾	七	圓	
同至白耳義ブリュセル府	同	拾	三	圓	同	拾	圓				
同至白耳義ワステンド	同	拾	四	圓	同	拾	壹	圓			

同至西班牙マドリト府	同	五	拾	八	圓	同	四	拾	四	圓
同至補國リスボンヌ府	同	八	拾	八	圓	同	六	拾	六	圓
同至那威クリスチアニーヤ	同	七	拾	八	圓	同	五	拾	五	圓
同至那威伯林府	同	四	拾	四	圓	同	三	拾	四	圓
同至那威バーデン	同	貳	拾	三	圓	同	拾	七	圓	
同至那威コロニユ	同	拾	九	圓	同	拾	四	圓		
同至那威フランクホルト	同	貳	拾	七	圓	同	貳	拾	四	圓
同至那威ドレスド	同	四	拾	四	圓	同	三	拾	三	圓
同至那威ハンブルク	同	三	拾	七	圓	同	貳	拾	七	圓
同至那威ムニツク	同	三	拾	七	圓	同	貳	拾	七	圓
同至那威ストラスブルク	同	貳	拾	拾	圓	同	拾	五	圓	
同至那威ライプツック	同	三	拾	九	圓	同	貳	拾	九	圓
同至那威リプダベスト	同	七	拾	貳	圓	同	五	拾	五	圓
同至土耳其古コンスタンチノール	同	百	四	拾	五	圓	同	百	五	圓
同至那威モスコウ	同	百	拾	貳	圓	同	八	拾	圓	
同至那威ワデッサ	同	百	〇	八	圓	同	八	拾	圓	
同至那威彼得堡府	同	九	拾	四	圓	同	七	拾	四	圓
從那威彼得堡府至同國モスコウ	同	拾	九	圓	同	拾	三	圓		
同至同國リツヂヤ	同	六	拾	七	圓	同	三	拾	九	圓

同至同國ツレンブルク	同	六	拾	四	圓	同	四	拾	六	圓
同至同國ウラジカフカズ	同	七	拾	六	圓	同	五	拾	六	圓
同至同國ワデッサ	同	五	拾	六	圓	同	四	拾	五	圓
同至同國アギー港	同	貳	拾	壹	圓	同	拾	四	圓	
同至同國ヘルシングフォルス	同	拾	壹	圓	同	七	圓			
同至同國レーウセル	同	八	拾	銀	同	六	拾	銀		
同至同國クラスノエ、セロ	同	八	拾	銀	同	六	拾	銀		
同至同國ツアルスコエ、セロ	同	八	拾	銀	同	六	拾	銀		
同至同國ハナルホフ	同	八	拾	銀	同	六	拾	銀		
同至同國クロンスタット	同	壹	圓	三	拾	銀	同	壹	圓	
同至同國クラコウイ	同	四	拾	貳	圓	同	三	拾	貳	圓
同至那威エードクン至同國伯林府	同	貳	拾	六	圓	同	貳	拾	四	圓
同至那威エードクン至同國伯林府	同	貳	拾	八	圓	同	貳	拾	四	圓
從那威キール至同國ハンブルク	同	四	圓	同	同	三	圓			
從那威ハンブルク至同國伯林府	同	拾	圓	同	同	七	圓			
從那威伯林府至同國維也納府	同	貳	拾	四	圓	同	拾	八	圓	
同至那威ブリュンセル	同	三	拾	五	圓	同	貳	拾	六	圓
同至那威倫敦府	同	五	拾	八	圓	同	五	拾	四	圓

同至和蘭アムステルダム	同	貳拾六圓	同	貳拾圓
從和蘭アムステルダム至同國海牙	同	壹圓貳拾	同	七拾圓
從伊國ナポリ至同國羅馬府	同	九圓	同	六圓
從伊國羅馬府至同國ヴェニス	同	貳拾圓	同	拾八圓
同至同國ミラン	同	貳拾六圓	同	拾九圓
從伊國ヴェニス至同國ミラン	同	拾圓	同	九圓
同至同國維也納府	同	拾九圓	同	拾四圓
從澳洲トリエスタ至伊國ヴェニス	同	九圓	同	七圓
同至同國維也納府	同	拾九圓	同	拾四圓
從澳洲クワロツイ至同國維也納府	同	拾三圓	同	拾圓
從瑞典ストックホルム至同國マルモ	同	貳拾三圓	同	拾五圓
從丁抹ロンドンハーゲン至同國コルセル	同	四圓	同	三圓
從英國サウサンプトン至同國倫敦府	同	七圓	同	五圓
從英國倫敦府至同國リウルプール	同	拾五圓	同	拾壹圓
從米國香港至同國汕頭	同	貳百三拾五圓	同	拾七圓
從米國天津至同國北京府	同	四拾圓	同	三拾圓

但此表面ニ掲出セサル旅行ハ英壹里ニ付銀貨七錢ヲ一等トシ同五錢ヲ二等トシ支給ス亞細亞其他鐵道ナキ地方ハ現場付拂精算スヘシ

乙類		歐	米	亞	細	亞
勅任一等	公使	英貨貳磅六志	銀貨拾圓	但	一	日分
同全權公使	同上	同壹磅拾八志四片	同八圓	同	同	同
同二等	公使	同壹磅拾八志四片	同八圓	同	同	同
奏任一等	總領事	同壹磅拾志八片	同七圓	同	同	同
同二等	總領事	同壹磅六志拾片	同六圓五拾錢	同	同	同
同三等	總領事	同壹磅四志拾壹片	同六圓	同	同	同
同四等	書記	同壹磅三志	同五圓	同	同	同
同五等	書記	同壹磅	同四圓五拾錢	同	同	同
同六等	書記	同拾九志貳片	同四圓	同	同	同
同七等	書記	同拾九志貳片	同四圓	同	同	同

公使領事以下官員在留國內外公用旅行雜費

勅	任	金	五	圓	但	一	日	分
奏	任	同	三	圓	五	拾	錢	同
判	任	同	貳	圓	五	拾	錢	同
同	任	同	貳	圓	同	同	同	同

丙級

公使領事以下移轉諸費
△印ハ事務費ヲ合ス
 但歐米清ハ銀貨朝鮮國ハ紙幣ヲ以テ給ス

英 露 佛 米 獨 伊 澳 蘭 清

勅任一等	公使	五百〇八圓	四百九拾貳圓	貳百八拾壹圓
勅任二等	公使	七百七拾五圓	七百五拾九圓	朝三三百貳拾三圓
勅任三等	公使	四百七拾五圓	四百五拾八圓	貳百四拾圓
勅任四等	公使	七百貳拾五圓	七百〇八圓	同貳百七拾三圓
勅任五等	公使	三百貳拾七圓	三百〇九圓	貳百
勅任六等	公使	四百九拾四圓	四百五拾九圓	同貳百六拾三圓
勅任七等	公使	百九拾壹圓	百八拾六圓	百〇壹圓
勅任八等	公使	貳百五拾三圓	貳百四拾三圓	同百貳拾圓
勅任九等	公使	百七拾壹圓	百六拾六圓	八拾六圓
勅任十等	公使	貳百三拾三圓	貳百貳拾三圓	同百〇五圓
勅任十一等	公使	同	同	同

同三等	同	百五拾八圓	百五拾三圓	七拾八圓
同四等	同	貳百貳拾四圓	貳百拾圓	同九拾七圓
同五等	同	貳百〇七圓	百九拾七圓	同八拾六圓
同六等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾八圓
同七等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾七圓
同八等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同九等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十一等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十二等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十三等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十四等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十五等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十六等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十七等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十八等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同十九等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓
同二十等	同	百〇五圓	百拾三圓	同七拾六圓

- 一 窓飾戸張
- 一 暖爐
- 一 椅子
- 一 公務所書房具
- 一 公使館備付大馬車壹輛 付屬共
- 一 清國及朝鮮國公使館備付大轎子貳座 付屬共

右十三件ハ公使領事公務所參事官以下事務取扱所對客間來客扣所食堂備付ノ分ニシテ細則
第四十四條ニ掲載スル區分ニ依リ定額又ハ實費ヲ以テ修覆新規買足ヲ爲スヘキ分

- 一 食事用テーブル掛ノ類
 - 一 來客用食器具ノ類
 - 一 來客間掛額鏡ノ類
 - 一 時計及花瓶唾器ノ類
 - 一 來客用吸煙器ノ類
 - 一 暖爐用付屬品
 - 一 火燈ノ類
 - 一 庖厨具 領事館ニ限ル(朝鮮國ハ官ヨリ之レヲ備付ケス)
 - 一 端舟 付屬品共 但領事館ニ限ル
 - 一 公使館備付臥具壹組 付屬品共(朝鮮國ハ官ヨリ之レヲ備付ケス)
- 但歐米公使館備付臥具十一組付屬品共
右十件其外修覆新規買足トモ公使領事ノ自辦タルヘシ

右備付什器買上科目トシテ公館創立ノ際官費ヲ以テ買上道ヲ修覆又ハ新規買足トモ書面ノ通區分
相立取扱可申事

但此科目外從前官費ヲ以テ買上有之分ハ總テ排下ケ取計代價上納スヘシ

○陸軍省令乙第百二十四號

近衛總監獸醫部中へ書記下士壹名ヲ置ク

明治十九年八月三十日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○司法省令甲第二號

令般法律第二號ヲ以テ公證人規則制定相成候ニ付施行條例左ノ通之ヲ定ム

明治十九年八月三十日

司法大臣伯爵山田顯義

公證人規則施行條例

第一條 公證人ハ一受持區ニ五名以下ヲ置クモノトス

若シ公證人ノ員數不足スルルハ受持區ニ依リテハ全ク之ヲ置カサルコトアル可シ

第二條 公證人ハ其受持區内ニ於テ住居セント欲スル町村ヲ定メ其願書ヲ始審裁判所ニ差出シ控

訴院ヲ經テ司法大臣ノ認可ヲ請フ可シ

始審裁判所長及控訴院長ハ公證人ヨリ差出タル住居願ニ意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ送達ス可

シ

司法大臣ニ於テ公證人ヨリ願出タル住居ヲ認可セサルルハ直チニ其住居ス可キ町村ヲ指定ス

第三條 公證人既ニ住居ノ認可ヲ受メル後火災其他ノ事故アリテ他ニ轉居セントスルルモ亦前條

ノ手續ニ從フ可シ

第四條 公證人ノ役場ニハ公證人某役場ト記セル表札ヲ掲ク可シ

役場ニハ成可ク倉庫又ハ堅牢ナル建物ヲ以テ書類保存ノ所ト爲スヲ要ス
書類ハ常ニ書籍ニ藏メ非常持退ノ準備ヲ爲シ置ク可シ

第五條 公證人規則ニ從ヒ試験ヲ受ケント欲スル者ハ試験願書ニ履歷書ヲ添ヘ試験期日ノ告示アリタルヨリ試験期日一箇月前マテニ試験ヲ行フ控訴院若クハ始審裁判所ニ差出ス可シ
試験願書及履歷書ニハ本籍區長若クハ戶長ノ與書ヲ受ク可シ

第六條 試験ハ各所同時ニ之ヲ行フモノトス

第七條 試験委員ハ筆記試験ノ答按ヲ調査シ其合格不合格ヲ決定シタル後口述試験ヲ行フ可シ
筆記試験ニ合格セサル者ニ付テハ口述試験ヲ行ハス

第八條 試験問題答案ノ適否ハ試験委員ノ判斷ニ決スルモノトス
試験ノ結果ハ筆記口述二種ノ總點ニ依リ之ヲ定ム可シ

第九條 試験委員ハ口述試験ノ大略及試験全體ノ結果ヲ記録ニ記載ス可シ

第十條 試験ニ及第シタル者ニハ試験委員ノ連署シタル及第證書ヲ授與ス可シ
試験ヲ行フタル控訴院若クハ始審裁判所ハ試験及第人名簿ヲ製シ之ニ及第者ノ住所族籍氏名年齢及ヒ及第ノ年月日ヲ登錄ス可シ

第十一條 試験委員ハ試験ニ關スル一切ノ書類ヲ其試験ヲ行フタル始審裁判所若クハ控訴院ノ長ニ差出ス可シ

始審裁判所ニ於テ試験ヲ行フタルハ其裁判所長ハ及第者ニ關スル一切ノ書類ニ意見ヲ附シテ控訴院ニ送致シ控訴院長モ亦意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

控訴院ニ於テ試験ヲ行フタルハ前項ノ書類ニ控訴院長ノ意見ヲ附シテ司法大臣ニ差出ス可シ

第十二條 公證人マシント欲スル者ハ其願書ニ試験及第證書官記學位記卒業證書又ハ免許狀ノ寫及丁年者二名以上ニテ品行ヲ保證セル證書ヲ添ヘ之ヲ差出ス可シ
試験及第證書ヲ要セサル出願人ハ別ニ履歷書ヲ添フ可シ

第十三條 公證人願ヲ受メル始審裁判所ノ裁判所長及上席檢事ハ出願人ノ身上ニ付品行ノ正否理財ノ整否等詳細ノ取調ヲ爲シ控訴院ニ送致シ控訴院長及檢事長モ亦意見ヲ附シテ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十四條 公證人願書ヲ直チニ控訴院ニ差出タルハ控訴院長及檢事長ハ前條ノ取調ヲ爲シ且ツ意見ヲ附シ之ヲ司法大臣ニ差出ス可シ

第十五條 公證人願書ニハ其職務ヲ行ハント欲スル地ヲ明記ス可シ

第十六條 司法大臣公證人ヲ任メルハ辭令書ヲ其公證人ノ職務ヲ行フ可キ地ノ管轄控訴院及始審裁判所ヲ經テ本人ニ下付ス

控訴院及始審裁判所ニ於テハ公證人名簿ヲ備置キ公證人ニ任セラレタル者ノ住所族籍氏名年齢及任地ヲ記録ス可シ

第十七條 公證人ニ任セラレタル者ハ身元保證金トシテ現金又ハ相當ノ價格アル公債證書若クハ日本銀行株券ヲ管轄始審裁判所ニ納ム可シ

第十八條 公證人ノ納ム可キ身元保證金ノ額ハ左ノ如シ
東京及大阪 金五百圓

他ノ地方ニ於テハ 金四百圓

人口貳拾萬以上アル受持區 金三百圓
人口貳拾萬未滿拾萬以上アル受持區 金二百圓

人口拾萬未滿アル受持區

金貳百圓

前項ノ金額ハ人口ニ増減アリト雖モ既ニ完納シタルモノハ之ヲ増減セズ

第十九條 公證人ハ身元保證金ヲ管轄始審裁判所ニ完納セサル間ハ其職務ヲ行フコトヲ得ズ

公證人任命ノ辭令書ヲ受取タルヨリ三十日以内ニ身元保證金ヲ完納セサルハ公證人規則第七十八條第二項ニ依リ司法大臣其職ヲ免ス

第二十條 公證人ノ身元保證金ハ公證人規則第五章ニ定メアル過料其他賠償ノ抵保ニ充ツルモノトス

第二十一條 過料賠償其他ノ事故ニ依リ身元保證金ノ全部又ハ一部ヲ減消シタルハ管轄始審裁判所長ハ速ニ保證金ヲ補充ス可キ旨ヲ公證人ニ命ス可シ

公證人保證金ヲ補充スルマテ始審裁判所長ハ假ニ職務執行ノ停止ヲ命スルコトヲ得此場合ニ於テハ速ニ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

公證人保證金補充ノ命令ヲ受ケ六十日ヲ過キ之ヲ補充セサルハ始審裁判所長ハ控訴院ヲ經テ司法大臣ニ具申シ免職ノ處分ヲ請フ可シ

第二十二條 公證人他ノ役場ニ轉スル場合ニ於テ其保證金ニ不足ヲ生スレハ之ヲ補充セシメ若シ餘分アレハ之ヲ還付ス可シ

第二十三條 公證人其職務ヲ罷タルハ身元保證金ヲ還付ス可シ

第二十四條 公證人死去失踪シ又ハ停職ノ處分ヲ受ケタルハ管轄始審裁判所ハ控訴院ヲ經由シ其旨ヲ司法大臣ニ具申ス可シ

停職者復任シタルモ亦前項ノ手續ニ從フ可シ

第二十五條 公證人死去失踪停職復任辭職免職又ハ轉職シタル時ハ始審裁判所及控訴院ハ其旨ヲ

公證人名簿ニ記入ス可シ

第二十六條 公證人規則ニ定メアル懲罰處分ハ民事裁判所之ヲ管轄シ刑法及治罪法ノ例ヲ用ヒス

第二十七條 公證人試驗願書式履歷書式及公證人願書式ハ左ノ如シ

第一 公證人試驗願書式

公證人試驗願書式 料紙美濃紙

族籍 主嗣子又ハニ男兄弟ノ別

氏名

年 齡

現住所

氏名 印

年 月 日

某控訴院長誰殿又ハ某始審裁判所長誰殿

前書ノ通族籍年齡等相違無之候也

本籍

區長又ハ戶長印

年 月 日

第二 履歷書式

履歷書 料紙美濃紙

族籍

氏名 印

年 齡

- 一 何年何月ヨリ何年何月迄何某ニ就キ又ハ公私何學校何塾ニ於テ何學修業
 - 一 何年何月何々ニ開スルニ切ノ件
 - 一 公證人規則第二十條ノ各項ニ相觸候儀一切無之候
- 年月日
- 氏 名 印
- 前書ノ通相違無之候也

年月日

第三 公證人願書式

公證人願書式紙表遺紙

本籍

區長又ハ戶長印

族籍 戸主嗣子又ハ二

氏 名

年 齡

現住所

氏 名 印

年月日 司法大臣謹啟

又

私儀何縣何國某治安裁判所管下及何縣何國某治安裁判所管下(某始審裁判所管下又ハ某控訴院管下)ノ内何ノ公證人受持區ニ於テナリトモ御命令ニ從ヒ公證人ノ職務ヲ行ヒ度志願ニ有之

候ニ付御登用被下度試験及第證書(官能學位記卒業證書免許狀)ノ寫及ヒ品行保證書相添此段奉願候也

前後ノ式ハ前式ニ同シ

○陸軍省令乙第百二十五號

各兵科士官ノ内服裝ヲ異ニスル兵科ニ轉スルハ自今左ノ通武裝手當金支給ス可シ

陸軍大臣伯喬大山 熾

明治十九年八月三十一日

一金拾五圓 憲兵科ト各兵科(騎兵科ヲ除ク)ト互ニ轉スル者

一金三拾五圓 騎兵科ヨリ各兵科ニ轉スル者

一金四拾圓 各兵科ヨリ騎兵科ニ轉スル者

一金拾圓 屯田兵科ト各兵科(騎兵科ヲ除ク)ト互ニ轉スル者

○陸軍省令乙第百二十六號

來九月十一日ヨリ午前九時出頭午後三時退出ト定ム

陸軍大臣伯喬大山 熾

明治十九年八月三十一日

○陸軍省令乙第百七號(米津第七號ニ登載シタル陸軍省令乙第百七號ハ同省報告ニ因リ本文ノ通更訂ス)

士官下士學術検査規則別紙ノ通定ム

陸軍大臣伯喬大山 熾

(別紙)

士官下士學術検査規則

第一條 凡士官下士實役停年最下限ヲ超ヘタル者毎年定期檢閱ノ時期ニ於テ進級順序ヲ定ル爲メ學術検査ヲ施行ス

第二條 此學術検査ノ規格ハ毎年之ヲ定メ検査實施ノ期ヨリ六ヶ月前ニ布達スルヲ例トス
其科目概テ左ノ如シ

- 一 對策
- 一 作文與圖數學
- 一 操練
- 一 木科技術

第三條 學術検査ノ方法點數附與ノ格例等ハ毎年検査實施前之ヲ定メ近衛都督鎮臺司令官及東京
諸官廳士官學術検査委員長ニ告示ス

第四條 參謀勤務適任證書ヲ所持スル士官ハ進級ノ爲メ學術検査ヲ行ハス又陸軍大學校修學中ノ
者ハ其學期末ノ試験ヲ以テ進級検査ニ代用スルモノトス

第五條 士官下士ノ進級検査ノ爲メ下調委員ヲ編制シ事務ヲ取扱ハシム其編制左ノ如シ

委員長

總務局長

委員

陸軍省各局上長官

各一名會計局醫務局ハ次長

參謀本部上長官

一名

時宜ニ依リ各局上長官若干名ヲ附加スルコトアリ

此委員ハ検査ノ方法及ヒ點數附與ノ格例ヲ審査議定シ陸軍大臣ニ呈シ又進級検査ノ後近衛
都督鎮臺司令官等ヨリ進選シタル士官候補名簿及ヒ検査書類ヲ審査シ決定候補名簿ノ案ヲ
作ル等ノ事ヲ取扱モノトス

第六條 士官下士學術ノ検査ハ委員ヲ編制シテ之ヲ施行ス其編制別表ノ如シ
(別表)

東京諸官廳士官學術検査委員編制表

委員		局長		委員		受檢者		所管	
兵科	參謀大佐	兵科	參謀大佐	步兵	參謀大佐	陸軍	參謀	陸軍	參謀
騎兵	參謀中少佐	騎兵	參謀中少佐	騎兵	參謀中少佐	陸軍	參謀	陸軍	參謀
砲兵	參謀中少佐	砲兵	參謀中少佐	砲兵	參謀中少佐	陸軍	參謀	陸軍	參謀
工兵	參謀中少佐	工兵	參謀中少佐	工兵	參謀中少佐	陸軍	參謀	陸軍	參謀
輜重兵	參謀中少佐	輜重兵	參謀中少佐	輜重兵	參謀中少佐	陸軍	參謀	陸軍	參謀

近衛都督		委員		受檢者		所管	
科兵砲	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊
科兵步	步兵大隊長	步兵大隊長	步兵大隊長	步兵大隊	步兵大隊	步兵大隊	步兵大隊
科兵砲	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊
科兵砲	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊

近衛都督士官學術検査委員編制表

考備	軍醫總監	監督長	部醫隊	科兵砲	科兵步	科兵砲	科兵砲
一軍醫部副官ノ検査ヲナスルハ要制監ヲ委員ニ加フ	一	一	二	二	一	一	一
	部醫軍	監督部	部醫隊	砲兵大隊	步兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊
	一等軍醫正	一 二 三等監督	砲兵大隊	砲兵大隊	步兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊
	二等軍醫正		砲兵大隊	砲兵大隊	步兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊
			砲兵大隊	砲兵大隊	步兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊

近衛都督		委員		受檢者		所管	
科兵砲	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊
科兵步	步兵大隊長	步兵大隊長	步兵大隊長	步兵大隊	步兵大隊	步兵大隊	步兵大隊
科兵砲	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊
科兵砲	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊長	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊	砲兵大隊

下士官學術検査委員編制表

考備	軍醫總監	監督長	部醫隊	科兵砲	科兵步	科兵砲	科兵砲
一近衛都督隊外各兵科士官ノ検査ハ各兵科検査委員ヲシテ之ヲ行ハシム	一	一	二	二	一	一	一
一砲工兵第三方面大阪砲兵工廠及日仙軍服本廠検査下ニ在ル調馬隊及日軍馬育成所士官ノ検査ハ仙臺大							
一大阪砲兵工廠士官ノ検査ハ大阪砲兵工廠検査委員ヲシテ之ヲ行ハシム							
一大阪砲兵工廠士官ノ検査ハ大阪砲兵工廠検査委員ヲシテ之ヲ行ハシム							
一一名トス							
一軍醫部及隊附隊醫官ノ検査ハ騎兵科委員ニ隊醫監ヲ加ヘ之ヲ行ハシム							
一軍醫部副官ノ検査ヲナスルハ要制監ヲ委員ニ加フ							

考 備	部 醫 軍	部 史 軍	科 兵 醫	科 兵 工	科 兵 砲	科 兵 騎 兵
	軍 醫 長	監 督 部 長	憲 兵 本 部 長	工 兵 大 隊 長	砲 兵 聯 隊 長	騎 兵 聯 隊 長
	一	一	一	一	一	一
	病 院 官 或 八 隊 附 官 (二 等 軍 醫)	監 督 部 長 (監 督 補) 或 八 部 長 (二 等 軍 史)	憲 兵 大 隊 長 憲 兵 中 隊 長	工 兵 中 隊 長 工 兵 小 隊 長	砲 兵 大 隊 長 砲 兵 中 隊 長	騎 兵 中 隊 長 騎 重 兵 中 隊 長
	二	二	二	二	二	二
	病 院 部 隊	監 督 部 各 隊 各 部	憲 兵 隊	工 兵 隊	砲 兵 隊	騎 兵 隊 騎 重 兵 隊

○陸軍省令第二百十二號 (本部第七號) 陸軍省令第二百十二號ハ同省報告ニ因リ本文ノ通り訂ス (各兵科曹長ニシテ進級條例第二十條ニ當該スル者アルハハ拔擢名簿ニ所管長官ノ確認書ヲ添ヘ進達スヘシ)

明治十九年七月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○大藏省令第二十八號

日本銀行ニ於テ發行セシ兌換銀行券ノ廢造及捕改ニ係ル分取扱方ノ儀ハ渾テ明治九年四月第五十七號布告廢造金銀銅貨紙幣等取扱規則及同年五月當省令第十二號布達ニ準據スヘシ

但第五十七號布告取扱規則第二條ノ場合ニ於テハ日本銀行本支店ヘ引換ヲ請フヘシ

明治十九年九月二日

大藏大臣伯爵松方正義

○陸軍省令第二百二十七號

明治二十年陸軍大學校ヘ入學差許候學生人員左之通定ム

明治十九年九月二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 歩 兵 科 凡 十六名
 - 騎 兵 科 凡 一 名
 - 砲 兵 科 凡 三 名
 - 工 兵 科 凡 二 名
- 計二十二名

○海軍省令第四百四號

海圖水路誌供給概則ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治十九年九月二日

海軍大臣伯爵大山 巖

海圖水路誌供給概則

第一條 艦船及鎮守府各屬ニ要スル海圖水路誌水路雜誌水路告示航海曆航泊日誌ハ水路部ヨリ各鎮守府文庫ニ送付シ文庫ヨリ所要ニ應シ供給スルモノトス

明治十九年九月 省令 大藏省令第二十八號 陸軍省令第二百二十七號 海軍省令第四百四號

- 第二條 海圖ハ我海軍海圖ニ限ルト雖我海軍海圖ナキ地方ノモノハ英海軍海圖ヲ以テ補充スルモ
- 第三條 海上航行ニ堪ユル各艦船ニ渡スヘキ海圖ハ交趾南東角バダラン岬ヨリ巴拉灣島北端及パ
- ナール島ニ至リ北東火山島小笠原島ヲ經テ東察加アワチャ灣ニ至ル線内ノ海岸島嶼ニ係ル海圖各
- 一葉ヲ以テ一部トス
- 第四條 文庫ニ於テハ第三條ニ掲クル海圖ヲ第八條第三項第四項ノ艦船及機裝艦船ノ數ニ應シ各
- 一部ヲ編束シ置キ改版新版大改正ノ圖ヲ水路部ヨリ受領スル毎ニ之ヲ挿換シ水路告示ニ依リ補
- 正又ハ記注ヲ要スル海圖ニハ其告示ヲ每葉ニ添付シ置キ不時ノ出航ニ支障ナカラシムヘシ
- 第五條 文庫ニハ第四條ニ掲クル海圖ノ外水雷船用トシテ須要ノ海圖ヲ貯ヘ且豫備トシテ每圖若
- 干葉ヲ備フヘシ其數ハ使用ノ繁閑ニ依リ定ムヘキモノトス
- 第六條 文庫ニハ第四條ニ掲クル海圖ノ外世界全部ノ海圖各一葉ヲ備ヘ不時ノ需用ニ應スヘシ
- 第七條 艦隊旗艦鎮守府參謀部ニハ第三條ノ諸海圖ヲ備ヘ尙ホ左ノ海圖ヲ備フヘシ
- 第八條 世界全圖 世界風潮圖 太平洋全圖 太平洋東部及印度洋全圖
- 第八條 艦船ニハ左ノ區別ニ從ヒ海圖ヲ供給スヘシ
- 第一 艦隊艦船 第三條ニ掲クル海圖二部但艦ノ容積二部ヲ備フル能ハサル艦船ニハ一部
- 第二 測量艦生徒練習艦 同上但第三條ニ掲クル海圖ノ區域外ニ航スルルハ臨時文庫ヨリ貸與
- スヘシ
- 第三 若水兵若火夫航海練習艦 航海ニ應シ第三條海圖ノ中須要ノ海圖ヲ供給シ其他ハ文庫ニ
- 收藏スヘシ
- 第四 繫留諸艦航行スルル 繫留ノ港内港外ニ係ル海圖ヲ供給シ其他ハ文庫ニ收藏スヘシ

- 第五 繫留諸艦航行スルル 繫留ノ港内港外ニ係ル海圖
- 第六 水雷艇 常繫港近傍ノ海圖百里以内ノ海岸海面
- 第九條 文庫ニ於テハ損破汚染等ニ依リ艦船其他ノ海圖ヲ交換シ若クハ其他ノ事故ニ依リ海圖缺
- 乏スルルハ速カニ事由ヲ證明シ補缺ヲ水路部ニ請求スヘシ
- 第十條 新版改版若クハ大改正ニ係ル海圖アルルハ水路部ヨリ隨時文庫ニ送付スルモノトス
- 第十一條 改版大改正若クハ損破汚染等ニ依リ交換返納ニ係ル海圖ハ文庫ニ於テ收聚シ置キ便宜
- 水路部ニ送付シ或ハ水路部ノ承認ヲ受ケ之ヲ廢紙ニ付スヘシ
- 第十二條 水路部刊行ノ水路誌水路雜誌水路告示ハ關係海圖ノ有無ニ關セズ各一部ヲ供給スヘシ
- 第十三條 航海曆ハ第八條第一項第二項第三項ノ艦船ニハ各二部ヲ供給シ其第四項ノ艦船定員ノ
- サレ艦ニハ各一部ヲ供給ス
- 第十四條 航海日誌ハ每艦毎年各八冊ヲ供給スヘシ
- 第十五條 文庫主管ハ毎年三月ニ於テ前一週年ノ圖誌受拂統計表ヲ製シ司令長官ノ檢印ヲ受ケ水
- 路部ニ送付スヘシ
- 第十六條 圖誌供給ニ關スル事件ニシテ定規アルモノハ水路部圖誌課長文庫主管ト直チニ往復照
- 會スルコトヲ得

○内務省令第十五號

北海道廳 府縣沖繩縣ヲ除ク

郡區書記ノ旅費ハ閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ六等旅費ヲ支給スヘシ

但地方ノ情況ニ據リ認可ヲ經テ定額ノ旅費ヲ節減スルコトヲ得

明治十九年九月六日

内務大臣 伯耆山縣有朋

○陸軍省令甲第三十六號

北海道廳 府縣

陸軍恩給取扱規則同諸書式左ノ通定ム

明治十九年九月七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍恩給取扱規則

- 第一條 此規則ハ陸軍恩給令ニ基キ取扱ノ規準ヲ定ムルモノナリ
- 第二條 令第七條ニ掲ケタル文官トハ准官吏以上令第二十七條但書官署ニ奉職トハ歳出科目表中俸給ノ部ヨリ支出スル俸給ヲ受クル者ヲ云フ
- 第三條 令第十條第二項ニ掲ケル流行病トハ陸軍官憲ニ於テ認定シタルモノニ限ル
- 第四條 令第二十條ノ年限内ニ傷所再感ノ確證アル者ハ情願ニ依リ本人居住地近傍ノ陸軍病院ニ於テ官費治療スルヲ許ス
- 第五條 令第二十六條ニ掲ケタル家名繼襲ノ孤兒ハ令第二十七條ノ順次ニ拘ハラヌ年長者ニ先テ扶助料ヲ願フコトヲ得又戶主ニアラサル軍人ノ長子(幼女ニハ家名繼襲ノ者ニ準ス)
- 第六條 孤兒扶助料ヲ受クルハ令第二十六條ニ掲ケタルカ如シト雖トモ己ニ他家ノ養子女トナリ當該軍人ノ死後ニ至リ復籍スル兒子ハ扶助料ヲ願フコトヲ得ス
- 第七條 令第二十九條末項ニ掲ケタル夫ナキ母及祖母癡疾不具等ニシテ産業ヲ營ムコト能ハサル者ハ五十歳未満ト雖トモ父及祖父ノ例ニ準ス
- 第八條 扶助料ハ當該軍人ノ官階ニ依ルト雖トモ令第二十一條第二項ニ該ルモノニシテ當該軍人共官階ニ進ミ未ダ陸軍武官進級條例ノ停年最下限ノ半ニ至ラスシテ前官ノ恩給ヲ受ケ或ハ米ヲ恩給ヲ受ケメシテ死シタル軍人ノ寡婦(孤兒)ハ前官ノ額ニ依ル
- 第九條 陸軍藥劑監獄醫監一等軍吏一等軍樂長砲工兵上等監護ノ如キ進級停年ノ定メナキ者ノ恩給ハ猶令第十七條ノ但書ニ憑據シ藥劑監獄醫監一等軍吏ハ各共相當官ノ停年ニ一等軍樂長砲工兵上等監護等ハ少尉ノ停年ニ準據ス其寡婦(孤兒)扶助料モ亦前條ト異ナルヲナシ
- 第十條 寡婦(孤兒)扶助料移轉ノ時並ニ令第二十九條及ヒ第四十九條第四項ニ依リ扶助料若クハ賑恤金ヲ仰カントスル者共出願期限ハ令第八條ノ初項ニ掲ケタル寡婦(孤兒)扶助料出願ノ期限ニ同シ
- 第十一條 軍人服役實期十一年以上ニシテ文官ヲ兼任シ後備軍艦員トナリタル者ノ恩給出願ノ期ハ其兼官罷免ノ時トス
- 第十二條 服役年並恩給計算書ニハ從軍年ヲ加算シ逃亡又ハ禁錮等ノ刑ニ處セラレ現役ニ服セサルノ日數ハ之ヲ控除シテ記載スルモノトス
- 第十三條 恩給扶助料ヲ受クル者外國ニ寄留シ該地ニ於テ其金額ヲ受領セントスル者ハ豫メ之ヲ願出ヘン但一年以上寄留スル者ニアラサレハ之ヲ許サス
- 第十四條 給助金ヲ給スルハ令第五十一條ニ掲ケルカ如シト雖トモ下士五年以上勲績ノ後豫備役及ヒ後備役ニ入ル者ハ其際之ヲ給スルモノトス
- 第十五條 下士一旦免官直ニ陸軍ノ生徒トナリ復タ軍人トナリタル者ノ如キハ令第三十五條ニ據リ前後ノ現役ヲ通算スルヲ以テ其免官ノ際ハ給助金ヲ給セズ
- 第十六條 恩給扶助料ハ年々四期ニ下付スルヲ以テ其始期終期ニ端月日ヲ生スル時ハ其年額四分ノ金高ヲ端月日ニ乘シ其期ノ現日數期ハ九十一日第三期第四期ハ九十二日ヲ以テ之ヲ除シ四捨五入ノ算法ニ依ル
- 第十七條 恩給及扶助料ノ終期
 - 一 死去若クハ再婚復籍シタル者ハ其當日

二 孤兒年齡滿限ニ依ル者ハ二十歳ニ達スル前月ノ盡日ノ出生シタル月
三 犯罪ニ係ル者ハ刑名宣告ノ前日

第十八條 服役年ヲ算スルニ方リ初任ノ月ニ端日數ヲ生シタル時ハ其月ノ大小ニ依リ積算スルノ法ナルヲ以テ免官ノ月ノ端日數ト合セテ三十日以上ニ及ビタル時ハ其初任ノ月ノ大小ニ從ヒ一ヶ月ノ區域ヲ定ム

第十九條 令第三十三條ニ掲ケタル恩給ヲ受クルノ期ニ至ル迄トハ武官服役滿十一年ニ及フノ期ヲ指シタルモノニシテ則チ其期ニ至ル迄ハ文官奉仕中ノ年月十六箇月ヲ以テ武官ノ服役年ヲ補充スルモノトス故ニ武官ノ服役年已ニ十一年ニ及ビタルモノハ文官奉仕中ノ年月ハ十二箇月ヲ以テ一箇年ト算ス但文官初任ノ月ニ限リ奉仕日數ニ拘ハラズ一箇月ト算ス

第二十條 文官或ハ卒ヨリ下士以上ニ任スル者ハ其前官若クハ前服役ノ年數ヲモ通算ス但士官學校教導團其他生徒ヨリ士官下士ニ採用ノ者ハ其生徒中ノ年月ハ算入セズ

第二十一條 下士卒又ハ文官ヨリ生徒トナリ下士以上ニ採用ノ者ハ令第三十五條ノ例ニ從ヒ其生徒トナリタル迄ノ服役年ハ之ヲ通算ス

第二十二條 令第三十一條第三項ノ徵兵ニシテ徵兵令第四十二條割註ニ當ル者ノ如キハ同令ノ起算法ニ依ル

第二十三條 軍人ニシテ一旦退身再ヒ現役ニ就ク者ハ令第三十五條ニ據リ前後ノ現役ヲ通算スト雖トモ給助金又ハ嘗テ滿年賜金ヲ受ケタル者ニ在テハ前現役年數ハ通算セズ

第二十四條 恩給登錄寫帖ヲ盜難水火災等ノ爲メ亡失シタル時ハ書面ヲ以テ速ニ地方廳ヘ届出ヘシ地方廳ハ之レニ添書シテ内務省ニ具申シ證明書ノ下付ヲ請フ可シ

第二十五條 凡ソ恩給ノ願書ハ當該軍人ヨリ順序ヲ經テ其所屬長聯隊長ニテハ聯隊長 隊長ニテハ隊長 中隊長ニテハ中隊長 小隊長ニテハ小隊長 班長ニテハ班長 伍長ニテハ伍長 兵長ニテハ兵長 兵長ニテハ兵長 兵長ニテハ兵長ニ在テハ

該隊長官階ニ在テハニ呈ス所屬長ハ之ヲ恩給調査委員ニ付シ第四式ノ書面及第二十八式ノ計算書ヲ作り順序ヲ經テ所屬長官ニ呈ス

第二十六條 恩給調査委員ハ聯隊長聯隊長ニテハ聯隊長 隊長ニテハ隊長 中隊長ニテハ中隊長 小隊長ニテハ小隊長 班長ニテハ班長 伍長ニテハ伍長 兵長ニテハ兵長 兵長ニテハ兵長 兵長ニテハ兵長ニ在テハ官廳長其部下部員ニ近衛鎮守隊外ニ在テハ參謀長其幕僚員ニ其時々之ヲ命スルモノトス

第二十七條 軍醫部獸醫部武庫主管調馬主管軍法會議等ニ在ル者ノ恩給取扱モ亦前條ノ例ニ準ス但陸軍大臣ニ進達シタル時ハ所屬長官ヨリ其旨ヲ本屬長官ニ通報スヘシ

第二十八條 服役年ニ基テ恩給ノ願ハ年限ノ年齢ニ達スルノ前(凡三)若クハ服役滿期トナルノ前ニ於テ當該軍人ハ第一式ノ願書ニ第十三式第十四式ノ書類ヲ添ヘ所屬長ニ呈出スルモノトス

第二十九條 所屬長官第二十五條ノ書類ヲ査閱シ意見ナキ時ハ近衛鎮守隊ニ在テハ參謀長官廳ニ在テハ次長若クハ課長(若クハ課長)等ヲシテ服役年並恩給計算書ヲ檢査シ署名捺印シシメ而シテ第二十七式ノ進達書ヲ作り願書類ヲ併セテ之ヲ陸軍大臣ニ呈ス可シ但令第五條ニ掲グル恩給出願ノ順序モ亦前條并本條ニ準ス

第三十條 傷痍疾病ニ基テ恩給ノ願ハ第二式ノ願書ニ第十三式第十四式及令第十四條第十五條ニ示シタル所ノ書類ヲ併セ第二十五條ノ例ニ依リ之ヲ所屬長官ニ呈ス所屬長官ハ其書類ヲ所屬長官ニ下付シ軍醫(第十五式ノ證書ヲ作り)ニ二名ヲシテ所屬長官及調査委員ノ面前ニ於テ當該人ヲ實査セシム軍醫ハ其診斷書ニ照シ果テ服役ニ堪ヘスト認メタル時ハ其診斷書ニ署名捺印シ若シ服役ニ堪ユ可クシテ且頂差ノ策定不適當ト認メタル時ハ檢査意見書(第六式)ヲ作り之ヲ所屬長官ニ呈

第三十一條 所屬長官ハ前條兩軍醫ノ檢査ニ依リ當該軍人恩給ヲ受クヘキ者ト認メタル時ハ第二十

九條ノ例ニ依リ願書類ヲ併セテ之ヲ陸軍大臣ニ呈ス陸軍大臣ハ更ニ之ヲ醫務局ニ下シ覆覈セシメ其證書(第七式)ヲ作ラシム

第三十二條 令第二十條ニ掲ケル所ノ恩給願書ハ第三式ノ願書ニ第十五式寫及第二十式ノ診斷證書ヲ添ヘ直ニ之ヲ地方ノ鎮臺ニ呈スヘシ

第三十三條 鎮臺司令官ハ前條ノ願書ヲ受領スレハ之ヲ參謀長ニ下シテ調査セシメ且軍醫二名ヲシテ當該人ヲ検査セシムル等第三十條以下ノ例ニ同シ

第三十四條 非職ノ者退職恩給ヲ願フ時ハ願書及第十三式第十四式ノ書類ヲ直ニ所管鎮臺司令官(他管ニ寄留ノ者ハ其地方鎮臺司令官)ニ呈ス可シ司令官ハ之ヲ參謀長ニ下シテ調査セシメ且進達書ヲ作ル等第二十九條ノ例ニ同シ

第三十五條 傷痕ヲ受ケタリト雖トモ尙ホ奉職シ後日傷痕ニ依リ退職恩給ヲ願フ者ハ負傷當時付與シタル軍醫ノ診斷證書類ヲ添フ可シ其傷痕ノ項目ハ恩給出願ノ時ニ於テ第三十條ノ例ニ依リ之ヲ定ム但戰鬪公務ノ爲メ再ヒ傷痕ヲ受ケタル者ハ前後ノ傷痕ヲ合セテ更ニ其項目ヲ定ム

第三十六條 凡ソ扶助料ノ願書ハ令第四十三條第二項ノ順序ヲ經テ陸軍大臣ニ呈スヘシ陸軍大臣之ヲ當該軍人ノ舊所管ニ下シ査覈ノ上服役從軍明細書(第三式)ヲ作ラシメ査覈書類ト共ニ再ヒ進呈セシム

第三十七條 寄留地ニ於テ扶助料ヲ願ハントスル者ハ其願書ヲ寄留地ノ地方廳ニ出ス可シ但該廳ヨリ陸軍大臣ニ進達シタル時ハ其趣ヲ本籍地方廳ニ通知スヘシ

第三十八條 若シ前條ノ書類ニ進達ス可キ親族ナキ時ハ令第三十條ニ準シ寄留地ノ同郡(區)内ニアル戶主一名進達スルモ妨ケナシ

第三十九條 令第四十九條第一項第二項第三項ニ掲ケタル賑恤金ヲ請フ者アリタル時ハ所屬長共

證據書類中診斷證書(第八式)ニ基キ其申請書(第三十式)ヲ作り所管長官ニ呈シ所管長官ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ其日ニ於テ直ニ免官若シハ免役スヘシ

陸軍大臣ハ其進達書ヲ受領スレハ之ヲ醫務局ニ下シ覆檢證書(第九式)ヲ作ラシム

第四十條 令第四十九條第四項ニ係ル者ノ願書類ハ令第四十三條第二項ノ取扱ニ準ス

第四十一條 令第三十一條第一項但書一時賜金ハ陸軍省ニ於テ調査ノ上金員ヲ大藏省ヨリ受領シ地方廳ヲ經テ本人ニ下付スルモノトス

第四十二條 給助金願書(第三十式)ニハ履歷書(第三十式)ヲ添ヘ本人或ハ遺族(遺族ナキ者ハ親族)ヨリ直ニ舊所管ニ出願セシメ舊所管ニ於テハ進達書(第三十式)ヲ作り之ヲ陸軍大臣ニ呈ス陸軍省ニ於テ調査ノ上

金員ヲ大藏省ヨリ受領シ本籍若クハ寄留地ノ地方廳ヲ經テ本人ニ下付ス

第四十三條 第二十八條ノ恩給願書ニ添フ可キ證據書類

一 服役從軍明細書 第十三式

二 戶籍明細書 第十四式

第四十四條 第三十條ノ恩給願書ニ添フヘキ證據書類

一 軍醫診斷證書 第十五式

二 第三十五條ニ掲ケタル者恩給ヲ願フ時ハ負傷當時付與シタル軍醫診斷證書

三 見證證書(第二十式)若クハ公文又ハ査問會議口供書寫ノ内一通

四 服役從軍明細書

五 戶籍明細書

第四十五條 令第二十一條第一項ニ該ル扶助料願書ニ添フ可キ證據書類

一 公文

- 二 孤兒ハ母死去若クハ離別證書 第二十四式
 - 三 戶籍明細書 第二十五式
 - 四 傷痕疾病ニ罹リ治療ノ末死致セシ時ハ見證書及軍醫診斷證書(第二十式)若クハ查問會議口供書寫
- 但軍醫在ラサル地ニシテ地方醫師ノ診斷ヲ受ケン時ハ地方病院長ノ診斷證書 第二十式
- 第四十六條 令第二十一條第二項ニ該ル扶助料願書ニ添フ可キ證據書類
- 寡婦ハ
- 一 夫死去證書 第二十四式
 - 二 戶籍明細書
 - 三 夫恩給ヲ受ケタル後死致シタル時ハ恩給登錄寫帖
- 孤兒ハ
- 一 父死去證書 母ノ扶助料ヲ繼承受メ 第二十四式
 - 二 母死去證書(再婚證書)(復籍證書)(離別證書) 長子ヨリ次子ニ移ル時ハ長子ノ死去證書 第二十式 長子ノ死去證書 第二十式
 - 三 戶籍明細書
 - 四 恩給扶助料ヲ受ケタル後死去或ハ權利消絶セシ時ハ恩給登錄寫帖
- 第四十七條 令第二十九條ニ該ル父母又ハ祖父祖母扶助料願書ニ添フ可キ證據書類
- 令第二十一條第一項ニ該ル者ノ父(母)祖父(祖母)ハ
- 一 公文
 - 二 戶籍明細書

- 三 五十歳未満ニシテ癱疾不具ノ者ハ其診斷證書 第二十一式
 - 四 傷痕疾病ニ罹リ治療ノ末死致セシ時ハ見證書及軍醫診斷證書若クハ查問會議口供書寫
- 但軍醫在ラサル地ニシテ地方醫師ノ診斷ヲ受ケン時ハ地方病院長ノ診斷證書
- 令第二十一條第二項ニ該ル者ノ父(母)祖父(祖母)ハ
- 一 當該軍人死去證書 第二十四式
 - 二 當該軍人恩給ヲ受ケテ後死致シタル時ハ恩給登錄寫帖
 - 三 戶籍明細書
 - 四 五十歳未満ニシテ癱疾不具ノ者ハ其診斷證書
- 扶助料ヲ受ケン寡婦權利消絶シ或ハ父ヨリ母ニ母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ轉給スルハ父(母)(祖父)(祖母)願書ニ添フルハ
- 一 扶助料ヲ受死去若クハ離別證書又ハ權利消絶ヲ證スル者
 - 二 同上恩給登錄寫帖
 - 三 戶籍明細書
 - 四 五十歳未満ニシテ癱疾不具ノ者ナレハ其診斷證書
- 第四十八條 令第四十九條ニ該ル賑恤金願書ニ添フ可キ證據書類
- 一 軍醫診斷證書 第十八式
 - 二 見證書
 - 三 服役後軍明細書
 - 四 戶籍明細書

陸軍 恩給 諸書式

目録

- 第一式 服役停年ニ基テ退職及免除恩給願書
- 第二式 傷疾疾病ニ基テ退職及免除恩給願書
- 第三式 傷疾疾病ノ恩給増加並ニ服役ヲ離レテ更ニ北恩給ヲ願フ恩給増加願書
- 第四式 恩給調査書
- 第五式 服役或ハ傷疾疾病ニ因リ死去シタル軍人ノ寡婦(孤兒)扶助料願書
- 第六式 夫(父)ノ服役停年ニ基テ寡婦(孤兒)扶助料願書
- 第七式 服役停年及傷疾疾病ニ因リ恩給ヲ受ケテ死シタル軍人ノ寡婦(孤兒)扶助料願書
- 第八式 母ノ死後孤兒扶助料願書
- 第九式 恩給ヲ得ルノ權ヲ有シテ死シタル軍人ノ父母祖父母ニシテ奉養スル子孫ナキ者扶助料願書
- 第十式 恩給ヲ受ケテ後チ死シタル軍人ノ父母祖父母ニシテ奉養スル子孫ナキ者扶助料願書
- 第十一式 扶助料ヲ受ケタル父死去ニ付母扶助料願書
- 第十二式 戦死及傷病並ニ服役停年ニ因リ恩給ヲ得ルノ權ヲ有シ又ハ北恩給ヲ受ケテ後チ死シタル軍人ノ兄弟姉妹恩給願書
- 第十三式 服役従軍明細書
- 第十四式 戸籍明細書
- 第十五式 醫官診断證書
- 第十六式 醫官検査意見書
- 第十七式 醫務局覆書
- 第十八式 恩給金ニ係ル醫官診断證書
- 第十九式 醫務局覆書
- 第二十式 地方病院長診断證書
- 第二十一式 痲疾不具口證スル診断證書

- 第二十二式 死亡診断證書
- 第二十三式 見證書
- 第二十四式 死去證書
- 第二十五式 離別證書
- 第二十六式 丁年證書
- 第二十七式 服役停年ニ付退職及免除恩給願書
- 第二十八式 服役年並恩給計算書
- 第二十九式 下士以下ニ係ル同類
- 第三十式 傷疾疾病ニ付退職及免除恩給願書
- 第三十一式 傷疾疾病ノ恩給増加並ニ服役ヲ離レテ更ニ北恩給ヲ願フニ付領事司令官ヨリ陸軍大臣へ進達書
- 第三十二式 下士率恩給金所屬隊長ヨリ領事司令官へ申請書
- 第三十三式 給助金願書
- 第三十四式 給助金願書ニ添ヘキ願書
- 第三十五式 給助金願書所屬隊長ヨリ陸軍大臣へ進達書
- 第一式 服役停年ニ基テ退職及免除恩給願書

恩給願書

某 儀

何年何月何日士官學校入學何年何月何日被任何官
 爾來別紙服役明細書ノ通勳續仕候處何年何月ニテ
 定限ノ年齢ニ相成今般退職願出候就テハ相當ノ恩

「下士以下モ上式ニ準ス其異ナル所ハ左ノ如シ」
 何年何月何日教導團生徒被申
 付何年何月何日被任二等軍曹
 (徵兵ニテ入營何處何兵第何職隊編入) 爾來別紙服役明細書ノ通勳續(服役)仕候處何年何月ニテ服役満期ニ相成候就テハ「以下同文」

給下賜度證據書類何通相添此段奉願候也

何領事

年月日 何兵部何隊第何大隊第何中隊長 官氏名 ㊦

何領事司令官(何長)(爵) 氏名殿

何領事何兵部何隊第何大隊第何中隊長 第何號

官氏名 ㊦

「上長官士官准士官ニシテ令第五條ニ因ル者ハ何年何月ニテ定限ノ年齡ニ相成云々」
「御諭旨ニ基キ退職願出候」云云ニ換ニ

第二式

傷病疾病ニ基ク退職及ヒ免職恩給願書

「用紙美濃紙」

恩給願書

某儀

何年何月何日士官學校入學何年何月何日被任何官爾來別紙服役明細書ノ通勅續仕候處何年某地征討從軍中○何月何日某ノ戰地ニ於テ右足ニ負傷醫療相加候末竟ニ右下肢ノ用ヲ全廢スルニ至リ服務ニ堪ヘ難ク今般退職願出候就テハ「以下前式ニ同シ」

「下士以下モ上式ニ準ス但服務ニ堪ヘ難ク今般退職願出候云々」服役ニ堪ヘ難ク候就テハ「云々ニ換ニ」

「○疾病ナラハ」何地ニ於テ何月何日ヨリ何病ニ罹リ種々治療相受候然ルニ何々スルコト能ハス不具ニ屬シ服役ニ堪ヘ難ク候就テハ「以下同文」

第三式

傷病疾病ノ恩給增加並ニ服役ヲ離レテ更ニ其恩給ヲ願フ恩給增加願書

「用紙美濃紙」

恩給增加願書

某儀

何年何月何日某地ニ於テ實地演習ノ際對兵放火ノ爲メ兩眼負傷ノ故ヲ以テ第六項ニ策定退職恩給及ヒ負傷增加恩給共被下置候處爾來漸々○視力衰弱還ニ重症ニ變シ候ニ付軍醫何某ノ診察ヲ受ケ療養相加候得共別紙診斷證書ノ通當何月ヨリ全ク盲目ニ相成候就テハ相當ノ恩給增加被下度證據書類相添此段奉願候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族
平民

元何領事何兵部何隊第何大隊第何中隊長

退職官氏名 ㊦

何領事司令官(爵) 氏名殿

第四式 恩給調査書

「用紙美濃紙」

「下士以下モ上式ニ準ス」
「○陸軍病院並ニ軍醫ノアツサル地ニテハ」視力衰弱還ニ重症ニ至リ候處近傍ニ陸軍病院並ニ軍醫モ無之ニ付當地何郡區何町村病院ニ於テ療養相加ヘ候得共「云々ト配ス」

「傷病疾病ニ依リ服役ヲ離レタル者其傷病疾病増進シ更ニ恩給ヲ願フ者モ上式ニ準ス」

右年齡滿限(服役滿期)(傷痕若クハ疾病)(傷痕若クハ疾病増進)ニ因リ別紙恩給(恩給増加)出願ノ件調査候處事實相違無之候間相當ノ恩給下賜相成可然者ト存候也

年月日

何領隊

何兵第何聯隊第何大隊副官

同

何兵第何聯隊副官

何兵第何聯隊第何大隊長

何領隊司令官(何長)(爵) 氏名

官 氏 名

官 氏 名

官 氏 名

官 氏 名

官 氏 名

氏 名

「聯隊ニ在テハ」

「上長官 一名」

「士官 三名」

「聯隊副官一名大隊副官二名以上缺員アルトキハ他ノ同官ヲ以テ之ニ代フ」

「聯隊ヲ爲サ、ル隊若クハ獨立隊ニ在テハ」

「上長官 一名」

「上長官アラサエ時ハ大尉」

「士官 三名」

「官階及近衛聯隊隊外ニ在テハ」

「上長官 一名」

「士官 三名」

「上長官 士官准士官ニシテ令第五條ニ因ル者ハ」

右御諭旨ニ基キ別紙恩給出願書以下同文」

第五式

戦死或ハ傷痕疾病ニ因リ死去シタル軍人ノ寡婦(孤兒)扶助料願書

扶助料願書

何領隊

何兵第何聯隊第何大隊第何中隊長

官 氏 名

「用紙美濃紙」

「傷痕ニ依リ死去シタル者ノ寡婦ハ」

右何年某地ノ役從軍何月何日某地ニ於テ戰死仕候

某地ニ於テ戰死ノ際負傷シタル重傷ニ赴キ幾ニ何月何日死去

右何年某地ノ役從軍何月何日某地ニ於テ戰死仕候就テハ相當ノ扶助料下賜度證據書類相添此段奉願候也

年月日

同

士族

平民

名

故官氏名寡婦

何府(縣)何郡(區)何町(村) 士族 平民

何某兄弟或ハ伯叔父從父兄弟等

証人

士族

平民

氏 名

氏 名

右之通相違無之候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)

年月日

戸長 氏 名

何縣知事 氏 名

仕候就テハ相當ノ扶助料下賜度依テ軍醫診斷證書戸籍明細書相添云々ト記ス」

「疾病ニ基キ者モ前ニ記ス」

「死去ノ箇地方醫師ノ治療ニ係ル者ハ第二十二式軍醫ノ診斷證書ニ代フルニ第二十二式地方病院長ノ診斷證書ヲ以テス可シ」

「母ノアラサル孤兒ノ願書モ上式ニ準ス但母ノ死去若クハ離別證書ヲ以テス可シ第六式第七式モ之ニ準ス而シテ願主ノ署名ハ左ノ如シ」

何府(縣)何々 士族

故官氏名長男「後見人アレ」

戸主 氏名 八無印ニテモ効ナシ」

同 士族 後見人 氏名

同 平民 何某兄弟或ハ伯叔父從父兄弟等

証人 氏名

同 士族 同 平民

同 氏名

「其他上ニ同シ」

「戸長アラサル地ニテハ區長ニ於テ其書ス可シ以下諸式之ニ準ス」

第六式 夫(父)ノ服役停年ニ基テ孤兒(孤兒)扶助料願書 「用紙袋遺紙」

扶助料願書

何孤兒

元何兵衛何隊第何大隊長 故 官氏名

右何年何月何日士官學校生徒被申付何年何月何日被任何官爾來十一箇年以上勤續仕候處何病ニ罹リ何月何日死去仕候就テハ相當ノ扶助料下賜度本人死去證書戶籍明細書相添此段奉願候也

何府(縣)何郡(區)何町(村) 士族 平民

故官氏名或婦

名 ㊦

年月日

同

士族

氏名 ㊦

同

平民

氏名 ㊦

同

士族

氏名 ㊦

同

平民

氏名 ㊦

右之通相違無之候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)

戸長 氏名 ㊦

年月日

何府知事氏名職

「孤兒ノ願書ハ前式以外ニ同」

第七式

服役停年及傷病疾病ニ因リ恩給ヲ受ケテ死シタル軍人ノ遺孀(孤兒)扶助料願書

「用紙袋遺紙」

扶助料願書

退職官 氏名

右何年何月何日ヨリ退職恩給ヲ賜リ來リ候處當何年何月何日死去仕候就テハ相當ノ扶助料下賜度恩給登錄寫帖並ニ本人死去證書戶籍明細書相添此段奉願候也

何府(縣)何郡(區)何町(村) 士族 平民

故退職官氏名或婦

名 ㊦

年月日

同

士族

氏名 ㊦

同

平民

氏名 ㊦

同

士族

氏名 ㊦

同

平民

氏名 ㊦

右之通相違無之候也

何府(縣)何郡(區)何町(村)

戸長 氏名 ㊦

年月日

何府知事氏名職

「夫(父)ノ傷病疾病ニ因リ恩給加ヲ賜リ來リタル者ハ」
「孤兒ノ願書モ此式ニ雖ス但母ノ扶助料ヲ繼受スル時ハ母ノ死去若クハ離別證書ヲ以テス可シ而シテ願主ノ署名ハ第五式以外ニ同シ」
「免除恩給ヲ賜リ來リタル者モ此式ニ雖ス」

第八式 母ノ死後孤兒扶助料願書

〔用紙美濃紙〕

扶助料願書

故退職官氏名寫稱

名

右故退職官氏名寫稱某ニ扶助料賜リ來リ候處當何年何月何日死去仕候就テハ某へ扶助料下賜度恩給登錄寫帖本人死去證書戸籍明細書相添此段奉願候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族 平民

故退職官氏名長男

氏名 〇

年月日

以下前式ニ同シ

〔直チニ寫稱ニ扶助料賜リタル者ハ〕 故官氏名寫稱

右故官氏名何年何月何日死去(公務ノ爲メ負傷後死歿)致候ニ付寫稱某へ扶助料賜リ來リ候處〔以下同文〕

〔長男丁年ニ至リ女子之ヲ願フ時ハ〕

故退職官氏名長男

氏名

〔以上同文〕長男某ニ扶助料賜リ來候處當何年何月丁年ニ相成候就テハ〔以下同文但母ノ死去證書ニ代フルニ長子ノ二十歳ニ達シタルヲ證スル爲メ第二十六式ノ書面ヲ以テス〕

第九式

〔用紙美濃紙〕 恩給ヲ得ルノ繼ヲ有シテ死シタル軍人ノ父母祖父母ニシテ養育スル子孫ナキ者扶助料願書

扶助料願書

何鎮守府兵部何聯隊第何大隊第何中隊

官 氏 名

右何年某地ノ役從軍何月何日某地ニ於テ戰死仕候

〔軍人死去直ニ母及ヒ祖父母ヨリ願フ時モ上式ニ準ス〕

〔當該軍人ノ死後傷疾疾病ニ因ル者ハ第二十二式軍醫診斷證書ヲ添ヘ若シ軍醫ノ在ラサル地ニシテ地方醫師ノ診斷ヲ

右某ハ私幾男ニシテ本人ニハ妻並遺兒モ無之候然ルニ私儀從來何某ニ依リ生活致シ來候處同人ニ相離レ他ニ養ヒ吳候子孫無之困難仕候間前頭ノ情狀御諒察ノ上御扶助被成下度證據書類相添此段奉願候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族 平民

故官氏名(母)

氏名 〇

年月日

以下前式ニ同シ

受ケタルハ第二十二式地方病院長ノ診斷證書ヲ添フ可シ

〔父母及祖父母五十歳以下ニシテ傷疾不具產業ヲ營ムコト能ハサル者ハ第二十一式診斷證書ヲ添フ可シ〕

〔當該軍人服役停年恩給ヲ得ルノ繼ヲ有シ即チ十一年以上勤続ノ後死去セシ時モ上式ニ準ス〕

第十式

恩給ヲ受ケテ後死シタル軍人ノ父母祖父母ニシテ養育スル子孫ナキ者扶助料願書

〔用紙美濃紙〕

扶助料願書

何鎮守府兵部何聯隊第何大隊第何中隊

第何號

官 氏 名

右何年何月何日停年ニ依テ免官免除恩給ヲ賜リ來リ候處當何年何月何日死去仕候〔中略但前式ト同文〕 恩給登錄寫帖並ニ本人死去證書戸籍明細書相添此

〔傷疾疾病ニ因リ免除恩給ヲ受ケテ後死去シタル時モ上式ニ準ス〕

〔父母及祖父母五十歳以下ニシテ傷疾不具產業ヲ營ムコト能ハサル者ハ第二十一式診斷證書ヲ添フ可シ〕

〔扶助料ヲ受ケタル寡婦再嫁若シハ死去シタル時ハ北證書ヲ添フ可シ〕

段奉願候也

以下前式ニ同シ

第十一式 扶助料ヲ受タル父死去ニ付母扶助料願書 [用紙美濃紙]

扶助料願書

何處何兵第何隊何大隊何中隊

何年何月何日某地ノ役罷死

故官兵名父

氏名

右ノ者故某戰死ニ因リ自活難致ニ付何年何月何日ヨリ扶助料賜リ來候處當何年何月何日死去仕候然ルニ私儀他ニ養ヒ吳候子孫無之候間御扶助被成下度恩給登錄寫帖並ニ本人死去證書戶籍明細書相添此段奉願候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族 平民

故官兵名母

名

年月日

以下前式ニ同シ

「母ヨリ祖父ニ祖父ヨリ祖母ニ移轉スル時モ上式ニ準ス但シ母及祖父母ヨリ願出ル時當人五十歳以下ニシテ癩疾不具ナル時ハ第二十一式診斷證書ヲ添フハシ」

第十二式

開死及傷病並服役停年ニ因リ恩給ヲ得ルノ權ヲ有シ又ハ其恩給ヲ受ケテ後死シタル軍人ノ兄弟姉妹賑恤金願書

賑恤金願書

何處何兵第何隊何大隊何中隊

第何號

故官兵名

右何年某地ノ役從軍何月何日某地ニ於テ戰死仕候處同人ニハ妻並ニ遺兒無之私儀從來故某ニ依リ生活致シ來候處同人ニ相離レ他ニ教育致吳候親戚モ無之困難仕候間前頭ノ情狀御諒察ノ上御扶助被成下度證據書類相添此段奉願候也

何府(縣)何國何郡(區)何町(村) 士族 平民

故官兵名(兄)(弟)(姉)(妹)

氏名

年月日

以下前式ニ同シ

[用紙美濃紙]

「當該軍人傷病疾病並服役停年ノ恩給ヲ得ルノ權ヲ有シ又ハ其恩給ヲ受ケテ後チ死亡シ上支ノ如キ生活困難ニ因リ願出ル時モ上式ニ準シ作ル可シ但願書ニ添フ可キ證據書類ハ前第九式第十式ニ準ス」

第十三式 服役從軍明細書

[用紙美濃紙]

服役從軍明細書

何處何兵第何隊何大隊何中隊 第何號 官氏名